

わいふ

女の言いたい放題誌 ● 201

# WIFE

特集 ● 塾 市川千歌子 大館美恵子 堀田実子

投稿 ● 朝鮮と日本のはざままで 匿名

投稿 ● 私は保険業界の裏側を見た 匿名

おんなの道楽 ● 太極拳一泊合宿体験記 加藤君子

職場は多面体 ● 牧場勤めを始めて 坂下晶子



## 女の歳時記

●本多房子

八月中旬刊 婦人民主新聞の編集長を20年間つとめた著者が、やさしく、厳しく、広い範囲に視線をゆきとどかせた名コラム集。  
予価二〇〇〇円

## ドストエフスキー・写真と記録

●V・ネチャーエワ編

中村健之介編訳 同時代人の証言  
300と図版450枚で描く巨匠ドストエフスキー伝記の決定版ノ ケース入り三二〇頁 定価五八〇〇円

## 母の肖像 山梨農民運動と女たち

●大森かほる

大正昭和初期の野の女たち——農民の生活・風俗を丁寧に描き、運動の高揚と衰退の過程を貴重な資料で裏付け、運動の中の女を凝視する！  
一三〇〇円

## 百円ラーメン哲学

●西垣戸 勝

田中久夫（大阪飯店主、33歳）にとって、百円ラーメンとは一体なにか？ ドラマチックなエピソードをつみ重ねてつづる半生記！  
定価八八〇円

## 理想郷の子供たち

——ニュージーランドの児童福祉——

●小松隆二

ニュージーランドの養護施設・里子制度・保育活動・障害児福祉・非行政の実像を記録。日本の福祉への批判。  
定価二〇〇〇円

奥井登美子

定価二二〇〇円（二二五〇円）

## くずかごの唄(Ⅲ)

街の薬剤師、練達の主婦業、地域活動がひとつに溶けあつてかもし出すエッセイの組曲、日常性の深淵からつむぎ出す軽妙なユーモア、ゆかしい知恵、あたたかいスピリットの花実、58篇を収録

住井すゑ

定価一五〇〇円（二二五〇円）

## 農婦譚

生活は貧しくとも、明るくしたたかに生きる農婦や村童たちのさまざまな姿を、実話をもとにユーモアとペーソスあふれたコント作品

筑波研究学園都市の

生活を記録する会編

## 長ぐつと星空

## 続長ぐつと星空

定価各一八〇〇円（各二五〇円）

筑波山麓の赤土の原野に出現した、頭脳都市の誕生から科学万博まで、主婦ら一〇〇余名の住民が書き綴った、筑波研究学園都市の素顔！！

筑波書林

ご注文は……発売元・(株)茨城図書へ  
〒300 土浦市港町1-4-12  
TEL 0298(23)2196 振替・宇都宮2-234

いいたい放題　したい放題

書きたい放題　よみたい放題の

投稿誌が　わいふです

人間　ほんとにやりたいことは　やれるもの

ウジウジ・イライラふり捨てて

思いっきりやれば　気がはれる

いろんな人のいろんな時の

いろんな心を材料にして

二か月に一回　わいふが出来あがるのです

仕上げるに適量の“ユーモア”と

“思いやり”のスパイスを！

ピリツとくるか　まろやかになるか

それはあなたの“うで”次第！

# WIFE 201

## わいふ目次

表紙イラスト

松本圭以子

女たちの店3

天然素材の心地よさを伝える

4

コットンシヨップへベテイ

写真 佐々木恵子 文 原田静枝

特集・塾

金欠病症候群教育費過重症

10

市川千歌子

一人の子に時間をかけて

19

大館美恵子

塾で騒ぐ子どもたち

24

堀田実子

マン・ウオッチング

27★

赤井久美子・長井淳子

朝鮮と日本のはざまで

30

匿名

私は帰るべき家を失った



★

職場は多面体

34★

坂下晶子・宮本法子・岡村和代

対話のページ

38★

潮田恵子・匿名・岩田和子・野本千津子  
竹内睦子・谷山由美子・松本弘子

おんなの道楽

46★

加藤君子

エッセイスト・クラブ

48★

高宮みか・池田洋代・北川淑子  
荒井明子・勝浦恵美子

マスコミむしる

59★

山田幸子

私は保険業界の裏側を見た

60

匿名

親のホンネ

70★

狩野陽子

★印は  
投稿ホットライン  
の、ページです！

## 教師とケンカする法

72

門野晴子

連載 6

## ただ一枚のチラシから

76

山口洋子

ファミリー・イン・ブルー

81★

法村祐子・小林昌子

マジの発言 84★

藤輝美

連載 7

## 私の昭和史

86

桜井淳子

ワンポイント情報

94★

ヘストッキングあれこれ

山本陽子・広瀬サカエ・伊藤智子・時尾松子  
高橋玲子・法村香音子・伊藤薫

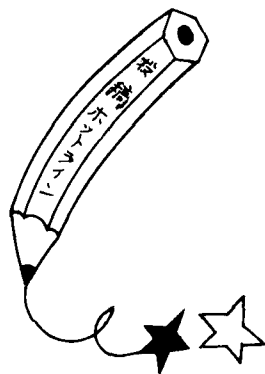
観たり聴いたり 99★

近藤美子

## 知的セミナーの落とし穴

100

高津由美子



## 生きてます活字人間

104

河野民枝・高野すみ子・田中喜美子・和田好子

## マンガ笑止・笑止

栗田 笑 107

読者相談室

## フライベート・ルーム

108

相談 たまき久美 アドバイス 森本邦子

連載 4

## 山の彼方の空遠く

118

声楽に憑かれた私のヨーロッパ留子記

高木梢

## わいわいがやがや

127★

作田美恵子・日比野都・市野紀子・中野桂子  
富永作代・小林真弓・たかのようこ・田口香津子  
山本陽子・前田景子・克明子・尾葉久子  
佐々井優子・三好乙沙美

## うちの悪ガキ 138★

松本文化・柏木輝子

情報コーナー 113 ほん 116

サークルだより 126 特集テーマ原稿募集

投稿規定 142 編集だより 144

# 女たちの店 《3》

天然素材の心地よさを伝える  
コットンショップヘベティン

写真・佐々木恵子  
文・原田静枝





次女公子

長女知真子

国電逗子駅から歩いて数分、逗子郵便局本局  
近くにある「ベティ」は、本保三姉妹の経営  
するコットンショップ。

十数年前、出版社勤務から「生活のため」  
転身した長女知真子さんは、仕入れ先の見当  
もつかないほどの素人だった。見かねた二女  
公子、三女晶子さんが仕事と学校をやめて協  
力、母とともに生活していけるだけの店に発  
展させた。

店にいと、少しずつ女性のライフサイクル  
が変化していることがわかる。手作り全盛の  
時代はすぎ、完成品を求める女性が増えてき  
た。その需要に応えるため、「ベティ・オリ  
ジナル」として衣類や小物を売り出したところ、  
これがなかなか好評。

最近の売上げは、生地七〇パーセントに製品  
三〇パーセントの比率である。

「店に来る男性は税務署員だけ」と笑うほど  
女性客だけが相手の商売だから、「ねえ聞いて」  
と家庭の悩みを訴えてくる主婦もいて、  
「かしまし娘」のように明るく気さくな三姉  
妹は、毎日てんやわんやの忙しさだ。



昔なつかしい英語の教科書「ジャック・アンド・ベティ」を店の名に





間口4間・奥行2間



「これでワンピース作ろうかしら」



パッチワーク用小切れもかごに一杯



老後問題をあらゆる角度から考える、わが国唯一の専門誌

月刊

# ゆたかな暮らし

毎月20日発売 全国老人福祉問題研究会編集・発行(発売元・同時代社)

A 5判96頁 定価500円(送50円)

充実した特集と役に立つ記事が満載

- 9月号 燃える老人パワー  
10月号 高齢者と文化  
11月号 なぜすすまぬ老人保健事業  
12月号 「高齢化社会危機論」を斬る

## 本誌購読の方法

住所、氏名、定期購読の内容(いつから、何冊)を記載し出版部にお送りください。以降本誌を定期的にお届けします。代金(年間購読6000円送料600円)は本誌同封の郵便振替用紙をご利用ください。

## ゆたかな暮らしをすいせんします

小川政亮(日福大教授)、川上武(みさも健和病院顧問)、島添彦(京大名譽教授)、杉本美江(日本社会福祉労組委員長)、公文昭夫(総評社会保障部長)、秦安雄(日福大教授)、原田正二(大正大教授)、小倉實二(同志社大文学部長)、山田洋次(松竹映画監督)、儀我社一郎(専修大教授)、小池保子(日福大助教授)、早乙女勝元(作家)、真田是(立命館大教授)、芝田進午(広島大教授)、寿岳章子(京都府大教授)、庄司博一(労働経済研究所長)、菅原恵子(むさしの共立診療所院長)、住谷磐(同志社大教授)、高島達(日福大教授)、中島紀恵子(千葉大助教授)、長宏(日慈同盟会長)、木下恵介(映画監督)、錦織義宣(長浜和光園園長)、岡増爾(済風会病院名譽院長)、浦辺史(日福大名譽教授)、坂入博子(老後保障推進協)、江口英一(中央大教授)、鷺谷善教(日本社会事業大名譽教授)、三宅貴夫(医師)、苗木俊一(日福大助教授)、前田甲子郎(名古屋厚生院長)、一番々瀬康子(日本女子大学教授)

(順不同・敬称略)

全国老人福祉問題研究会出版部 東京都新宿区住吉町9 TEL 03(353)2239振替 東京9-162684

## 人生はばたいてみませんか はばたいている人はそれ以上に！



## 話しかた個人教授

人間関係をスムーズに

仕事の成績を上げる

何といっても現代は話法の時代です

アナウンスと司会のプロフェッショナル君

塚京子が「君塚式話法」をお教えします。

大学弁論大会全国一位、羽田空港ビルアナ

ウンサー、司会業二〇年の実績あり。

うぐいす嬢(国・自治体選挙などのアナウ

ンサー)の養成もしております。

## 結婚式、集会、発表会などの

## 司会も、どうぞご依頼下さい。

教授料

三時間一万円

司会料

三時間五万円より

申込先

(〇三)九五〇七二八一

AM 九時一十時

PM 二時以降

and our Bo  
ck, Dept. S1  
High Wycor

# 特集 塾

ok of Comfort, p  
... .. Pauline Knoll

new type of mortgage.

**Cut your fuel bill**

Which? tells you how to  
fuel costs without cutting  
standard of comfort. V  
what sort of insulation is

Think Electric

For more inform  
the coupon to S

**The**

To a  
Direct D  
follow and p  
till, Hertford SG13 8  
sities of V which? ph  
special collect. on  
Y6...

RATE

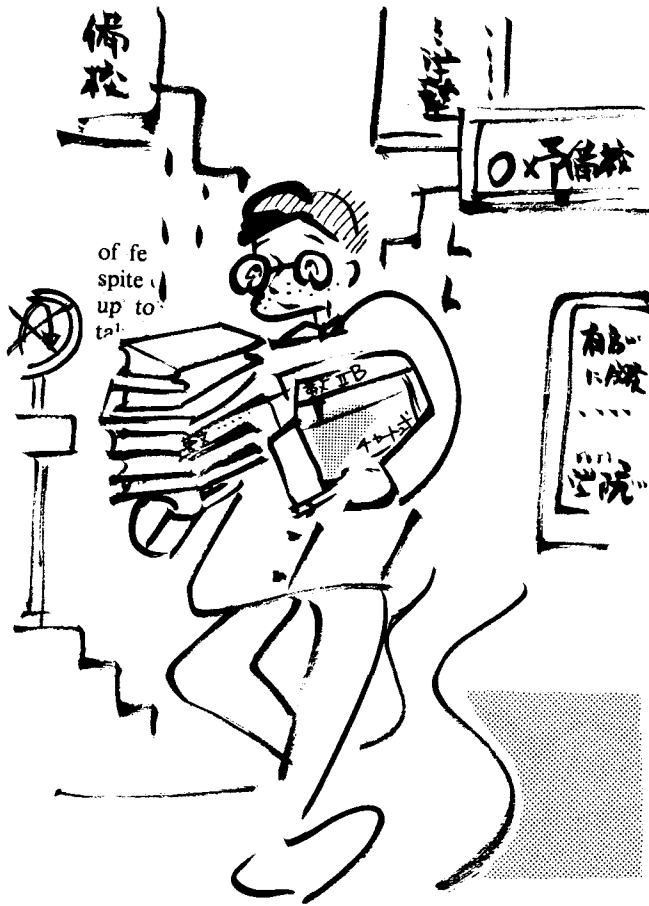
nation  
use Bla  
ix 22.1

# SICK?

# 金欠病症候群 教育費過重症

市川千歌子

東京都府中市



この病気が世間一般に蔓延しているとは聞いていたが、予防策もないまま我が家もついに真性症状を呈してきた。

## 長男の私大付属高校入学

パソコン狂の長男は、学業おぼつかなく、この春なんとか、私大付属高校へ入学した。

高校入学のための積立て金をおろすと同時に、今度は、大学入学のための、積立てをはじめなければならない。理工系を志望しているので、百五十万円は用意せねばならない。私立高校は三年で二百万円はかかるという。なんともうかつな私は、積立て金をおろしたそのときに月謝と並行して、さらに三年間大学入学のために積立てをせねばならないことに気づいたのである。

入学手続きの日に気がつく、正門の前の電柱の広告に「〇〇大統一テストに抜群の合格率をはこる××セミナー」とある。「〇〇大統一テスト」とは長男

の入った付属高校から進学する大学が行なうテストで、長男が希望する学科は付属からでも一％以内の成績でなくてはむずかしい。高校合格のよるこびもなんだか黒雲がかかったような思いである。

### 地域の公立中学校

長女は六年生である。夫は教育は全て公立で受けたので、教育は公立でという方針を疑ってなかった。私もその辺を、深く考えてなかった。しかし、長男の通った地域の公立中学校があまりに非教育的だったので、長女はここに入れたくない。引越すわけにいかないとすると、中学入試を経ねばならない。

長男の通っていた中学校は今社会問題とまでなっている事柄を多くはらんでいた。昨年はわかつていただけで、二件も鼓膜を破る事件があった。一件は女生徒間のリンチ事件で、もう一件は教師による体罰事件である。特殊な事件ではなく、常態化している問題は本当に多い。長男

はよく話す、多くの子供は話したがらないので、知らない親が多い。

数学担任の教師は、分厚い漫画週刊誌を職員室に山と積み、試験の監督のおりなど教室の片隅で読んでいるとのことである。

この教師は転勤先の中学で、学年主任から漫画取り上げになったそうである。

同じ授業を三回も同じクラスでした教師もいる。生徒たちはニヤニヤしながら、指摘もせずに授業をうけている。この教師は授業中よく大あくびをするそうであるが、授業内容にも大変問題があり、父母から苦情殺到して一年で転動している。教師は再教育されずに、たらいまわしされている例は多い。手厚い身分保証に向けられている費用は、再教育にこそ回されるべきではないだろうか。

技術という教科があるが、長男は製作品をあまり持ってこないのて聞くと、校内暴力でこわされるものが多いという。教材費はもちろん自己負担である。技術

室には授業に必要な特別な機械が備えられているが、おまえたちは壊すから、と言ってほとんど使わせてもらえなかったという。教師は教育環境を作ったり真面目に授業する気がないように思える。

トイレはよく非行グループがたむろしており危く行けない。給食を早く食べて彼らがこないうちに行くか、校庭の隅にあるブル用トイレを使うという。よく廊下などで暴力があっても見ないふりをする教師が多く、ライターで髪を焼かれているのをみていながら、気が付かないふりをしているという。いじめを初めとする深刻な問題が起きて、教師に相談する例が少ないのも分かるというものだ。

先日の入学式でこの中学校のPTA会長が式後、父母を残し、この中学がいかに問題が多いかを昨年度の事件をもとに一時間も話し、その原因は母親が外で働いていることにあるといったという。その内容は、子供を初めて中学に入れた親

にとって大変ショックなものであったようだ。もちろんこういう一方的な責任転嫁やこんな詭弁は許せないが、これは教育現場の悲鳴ではないだろうか。

長男が小学校のとき、私が学校や教師について納得できない部分を夫に言うのと彼は、良い環境だけが教育の場ではない、などと言っていたが、中学を見聞体験して長女は地域の公立にはやらない、と言いだした。

学校を選べるのであるなら最も適した所に入りたい。長女は四年の十二月に、四谷大塚進学教室の入室テストをうけ五千人中五〇番ではいってしまった――

## 四谷大塚進学教室

四谷大塚進学教室とは中学受験のためのテスト塾で、あたえられた教材にそって日曜ごとにテストを行なう。その規模は定期的に会員を募りふえていくが、五年生の三月現在で、会員は三千人ぐらいいる。準会員は会員の倍以上いる。会員

になるには十―二十倍の試験に合格しなければならぬ。この試験に合格するための準備をしてくれる塾すらある。中学合格率は抜群で、いわゆる有名中学ともなると、定員の半分以上の合格者をだす。このこと思う中学を受験しようと思うなら、四谷大塚進学教室にきて首都圏の受験生の中で、自分がどの程度の位置にいるかを確認するのは意味がある。

運よく長女は十日ほどの準備で入れたが、入って見回すと、ほとんどの子供が四谷大塚についていくために、もう一つ塾へ通っている。今や四谷大塚は手段ではなく目的そのものの様相を呈してさえいる。

長女は四年生の夏二か月ほど近所の塾に憧れて通ったことがあるが、非常に無駄が多いといってやめてしまった。自分でやったほうが能率がいいというわけだ。学校にも四谷大塚の準会員の友達が何人かいて、彼らは全員が塾に行っているそうだが、祝日で塾がやすみだと四谷大塚

の準備がまるでできなかった、などと言っているのを見ると、その頼りきっている姿がどうもよくない気がするという。四谷大塚の教材は自学自習でできるように作ってある。算数と国語の解答は非常に親切で、長女はほとんど解答を頼りに独りで学習してきた。日曜テスト教室や春期講習会の折など残って質問すると、実に親切に教えてもらえるという。そういう学習の仕方ではいままできて塾でやっている子供と伍してきていたが、もう限界のようだ。

長女は主体性があり基礎学力のある子供だが、特に優れている子ではない。

この程度の子なら自学自習でやれるのが、公教育本来の姿だと思う。他人より少しでもよい成績をと一点を争う過当競争が、塾をはびこらせたのだ。

人口密度が高い首都圏で我が子一人ではなく全員が同じ手段で競争をせしめたら、自らも窮地に陥るというのだろうか。本は言ってもはじまらないのだろうか。本

人、親、塾の三者が一体となり目的のために頑張る。子供独りでやれるかどうか試して見る等と言うことは論外に近い。

会費納入の日や講習会申し込みの日に行くと、控え室で耳に入る会話の大半が塾の話である。成績が下がってきたので塾をかえたいとか、成績優秀者のお子さんはどんな塾に行っているんでしょぅね……等々である。親も子も塾に頼りきっている姿がある。

そういうわけで、長女は一年以上独力で勉強してきたものの、このところ思わしくない。学習時間が多いのがたたり、急に目が見えなくなり、検査の結果学習時間が長すぎるということになった。春休みは四谷大塚の下請け塾へ行ったが、塾だとひとりやる半分の時間で同じ学習ができるという。この一月に行われた四谷大塚の会員準会員資格再審査試験は六千人中一五〇番で通ったものの、それから先の成績は全くの低空飛行である。中学受験学習というのは、量が膨大な上

非常に難しい。親は解けても嘖嘖いて教えるのは大変難しい。

### 分かり易く楽しい塾の授業

中学受験が誤解されていると思う部分があるのでやや長くなるが私なりに述べてみたい。

四谷大塚の父母対象の父母教室にでてみたことが何回かある。子供たちが日曜テストを受けている間、その父母を対象に次の週のテスト範囲の授業が行われる。私は子供にたのまれ不承不承出てみたが、驚いてしまった。千人も入ろうかという教室にいる親のうち、約三割が父親なのである。夫婦で来ている人さえいるではないか。もちろん子連れもいる。呆然としているうちに授業になる。国、算、理、社を三十分ずつ行なう。私はこの授業をきいて目が覚める思いがした。内容は難しいのだが、実に鮮かな説明なのである。先生がたの語りかけも、非常に熱心であるし、いかにしたら子供がよく理解する

かの工夫がある。

最初は理科で日食や月食のところであったが、太陽をこのビルの大きさとすると地球はサッカーボールぐらいの大きさで、月は野球ボールぐらいの大きさで、互いの距離は太陽の位置をことすると、地球は三百メートルぐらい離れたA駅の位置にあり、野球ボールの月はさらに遠い、といったような非常に具体的、科学的な説明にまず感動。教科書や参考書にある大きさや距離感では、日食や月食は簡単に起きるように思えてもしかたがなく、しがつて感動も少ない。

私は長男の初めての授業参観を思い出した。こんなつまらない授業を幼い一年生がよくおとなしくきいている、と思ったものである。この驚きは慢性化してしまつて久しく忘れていたのだが、四谷大塚の父母教室で蘇ってきたのである。

父母教室のどの授業を聞いても目がさめる思いでおもしろいのだ。子供たちは日曜テストのあと、その日のテストの講評

を聞いて帰るのだが、長女に聞くと、どの先生も実に熱心で授業が上手で分かりやすく楽しいという。

私はつくづくとおもった。学校でも先生方がこのような授業をしてくれたら子供たちの教科への興味や関心は高まり、おちこぼれは激減まちがいのないところである。前に朝倉和泉さんがこの手の塾で授業参加しているときのほうが学校の授業より子供達は生き生きした目をしていて、と記しているのを読んだことがあるが、私も同じ感想を持った。

もちろんこれは教育体制にも問題があり、教師だけの問題ではないようだ。長女の今の担任は、うちの子供達の担任の中では最も教育指導がよく、私も安心して子供を学校に出している。しかしこのような教師に当たることはきわめて少ない。

独りで大変な学習をしている長女を見かねて、何度か塾へ入れようと迷ったが、今まで延ばしてきた。

四谷大塚の相談室では、塾へ行くのは子供の芽を摘むと言う。父母教室の先生も、塾で鍛えて合格した子供が、その先いかに伸びないか、という話をして塾の無責任さを指摘する。ほとんどの塾が考えさせることよりも、覚えさせたり演習をくりかえしたりという学習をさせるので、反射的に問題を解けるようになるが、思考力は摘まれる場合が多いという。私の周りには幸い立派な教育者が多いので、相談に乗っていただくと、全く同意見である。

塾の弊害を受ける期間をできるだけ減らしたいので、夏休み前に小学校の学習範囲が四谷大塚で完了するのを待ち、そこまでは私が見て、その後の演習問題期間に入ったら、長女を塾に入れようと思う。

ことほど左様に我が家の教育事情はあるわけだが、ここで簡単に金欠病の根拠に及んでみたい。

## 強い公立不信

なぜこんなに費用のかかることになったのかを考えてみると、結論は一つである。我々は特別な教育を望んだわけではない。長男がこの春高校を受けたとき、都立も滑りどめとして出願してあったが、第一志望の私立が合格していたので、都立は受けなかった。長男が九年間地域の公立学校で過ごした間、私は何回かPTAに関わりあい、学校について疑問をもったり考えたりしたことがあり、学校に質したりしたこともあったが、結果として公立不信を強く抱くことになった。

今、都立からではストリートで日、東、駒、専にはいるのも難しいという。日、東、駒、専とは都内の私大の頭文字である。

高校は大学受験のための準備機関ではない。教科は第一義的なものではない。しかし教育の第一義的なものは求める術もなかったことを思い出すと、せめて教



科ぐらいいはしっかりと仕込んでほしいものである。しかし戦力になる学力すら都立ではおぼつかないというのが、この日東、駒、専云々ではないだろうか。

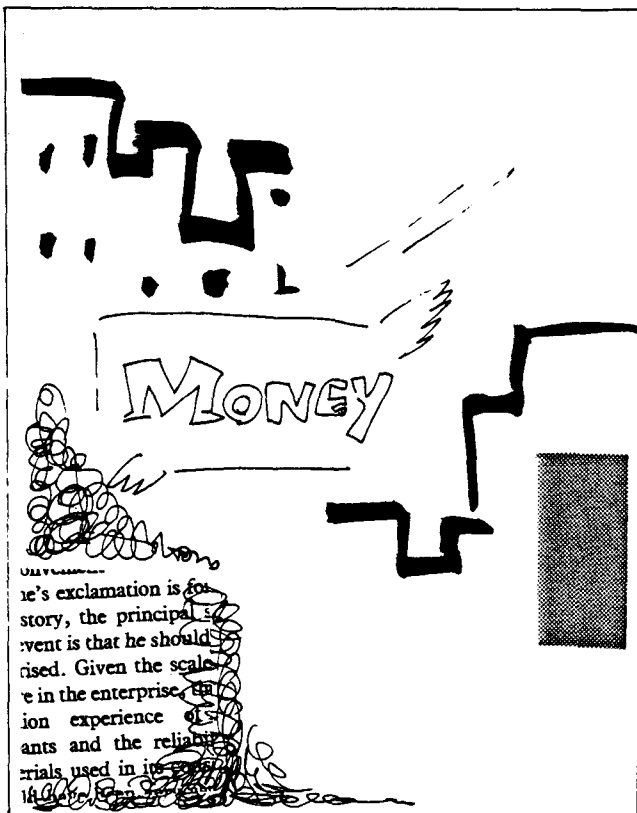
私立の進学指導はしっかりとしており、浪人して都立から大学に進むより、私立からストレートで大学に入ったほうが、早く社会人になり、教育費の還元も早いという。

小、中学校でさんざん不信任を抱いてきた者にとっては、公立高校ははなはだ頼りなく、魅力のないものにしか映らない。私は長男を私立にいれるのにさほど迷いを感じなかった。

また私立高校を受けるとか、入るといったことは特別のことではない。長男のクラスでは半分ぐらいが私立進学だという。例えば成績が三分の一以下では都立の普通科は無理だし、四分の一以下では職業科も都立は難しい。進学率は九九%であるから、余儀なく私立に進む子供も多い。教育費がかかり過ぎなどと言い立

てるのは、特別な弱い親なのであるうか。我が家の教育費を表にしてみた。月約二十万の教育費は、我が家では源泉徴収を差引いた収入に対して三〇%以上になる。サラリーマンは所得税もしっかり取

られているので、税引き後の正味に対して把握せねばならない。住宅ローンの適正借入率は、年収（これは税込み）に対して一年間の返済額が二五〜三〇%であれば、文化的健康的な生活が送れるとい



うのが一つの目安であるという。これを見ても、いかに教育費が異常な比率であるかわかる。新エンゲル系数なるものでもきたら、教育費を客観的に眺めて見たいものである。

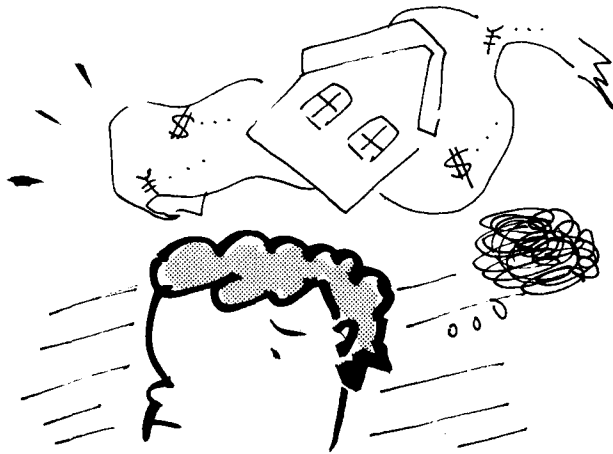
私は素人の自己診断ながら我が家の家計は教育費過重症にかかっていると思っている。

## 夫は重度の民族性ワークホリックか

政治や経済の構造が私には分からないので、これから述べることは奇妙で陳腐なことかも知れない。しかし生活実感から見た疑問や感想である。

教育費過重症の遠因ともなっている特異体質とも言うべき事態について考えてみたい。

経済摩擦や円高を、我々は日常生活のどこで実感しているだろうか。我が国から輸出している車や家電製品が、その国の製品より品質が良いことに関して人気があるということは、大変喜ばしいと



誰でも思うだろうが、関税障壁にも問題はあるとはいうものの、深刻な国際政治問題になるほど安いと聞いて同じように

喜んでいられるだろうか。

四十三歳の夫は都内の国立大学を出て、一部上場会社の部長を勤める。親への仕送りもなかったが、援助もなしに我々は郊外にマンションを持ち、この十年間に一千万を銀行にローンの返済金として払い、蓄えも年収分してきた。

これまで、ゴルフ、酒、マージャンは付き合い程度で、オーディオや車のように金のかかる趣味は持たず、ちょっとしたワークホリックのようである。高度成長を支えたのが今の六十歳前後の人達というのであれば、この円高をもたらしたエネルギーは、今の四十歳前後の人達の力が大ではないか、と我田引水を半ば思いつつも、確信に近いものを持つ。

私は夫の給与を特に安いと思ったことはなかったが、高給取りだと思ったことも一度もない。しかしこの金欠病にかかってみて考えると、夫の労働が正当に評価されているかどうか疑問を抱く。

国土が狭く、資源の乏しい国なので仕

方がないのかも知れないと思ったこともあったが、病状がひどくなると疑問は増す。

夫は毎朝七時半に家を出て夜十時〜十一時に帰宅する。通勤時間は十分ほどで酒、マージャンなどは滅多にしない。別宅を囲っているということもなさそうである。週休二日制なのだが、二日休むことはまずない。それどころか、日曜日もうかうかすると召し上げとなる。役職に就く前は残業手当がついたが、労働基準法を越えるような労働時間については、実際労働していてもつかない。

私は社宅に住んだこともあるが、これは夫だけのことではないし、夫の企業だけではではない。

就職したころ夫は言っていたが、週一回家族で外食を楽しみ、月一回家族旅行ができるようになるのが、ささやかな夢だ。しかしこのいずれもとてまかなわれない。時間と費用が共にならないからである。東京、神奈川にあるそれぞれの実家に年

一回家族揃って行くことすらままならない。私は今までこのことを特に深く考えなかったが、これはやはり異常なことである。時間がないなら金、金がないならせめて時間と思うのだが、双方ともにならない。

商品の値段はだいたい原料費、人件費、輸送費、マージンからなると思う。商品が高価なときにはその根拠を、例えば、原料は安いが精密機械であるため高度の技術が必要とするとか、熟成に日数を要するためである等々……いくらでも挙げることができる。しかし、商品が大変安いことに関しては、どこかがしわ寄せを受けているのではないだろうか。

資源を輸入に頼る我が国では、原料が安いから商品が安くできたということにはならない。輸送費にしても燃料は輸入品である。マージンが少ないのかもしれない。他の国の製品に比べマージンが少なければ、終局的には給料に影響がある。私は経済構造というのは本当に分からない。

いが、生活実感から、これは人件費が不当に安いためではないかと思えてくるのだがどうだろう。「お国のため」に滅私奉公し、経済大国を育て、円高を招来したのが企業に働く夫たちの姿ではないだろうか。

一国だけの繁栄を許さないと欧米は我が国を責めるが、先進国首脳はサミットで来日のおりに、給与生活をしている平均的なサラリーマンの家庭を、ものの十分でいいから覗いてほしいものだ。夫は欧米で出張のとき家庭に招いて下さった、仕事上のお付き合いのある方が来日しており、我が家にまねきたくても、余りの生活の差にためらいが生じ、とても招けないという。もちろん文化的な蓄積も異なるが、やはり兎小屋はびたりの表現のようだ。

内需拡大を元首同士で約束して、この兎小屋に何を買って置けと言うのだろうか。夜具を延べれば足の踏みばもなくするような小屋の住民には、内需を要求す

る前に為政者としてなすべき行政が外にあるのではないだろうか。

長男がチャーチスト運動のころの労働条件のひとつに、当時は十五時間労働とあったのを見て、うちの父さんと変わりのではないか、と言って驚いたものだ。単純に労働時間だけを見ると本当に、一世紀おくられているのではないかと思う。

特別な生活、特別な教育を望んでいるわけではないのだが、夫の稼ぎだけでは十分でない。公費という言葉に信頼性を感じにくくなったので、老後の年金すら心配である。

これまでもわずかではあるが、私は仕事を持っていたが、そんなものでは間にあわない。本当に稼がねばならない。我が家のこのような中学不信を前述の中学のPTA会長は何と言うだろうか。ほんとうに子供を地域の中学に安心して通わせられるようなら、どんなにいいだろう。それができないために働きに出なければならぬ母親が現に存在するということ

に対して、どう答えるであろうか。

専業主婦控除とやらが減税の対象として考えられているそうだし、教育控除という声も聞くが、国全体の体質改善的抜本策はないのだろうか。

住宅ローンが少し楽になった（勤続年数とともに給与が上がったので、相対的に楽になっただけで、我々は後十年で一千万はらわねばならない）かと思った途端、教育費が押し寄せ、教育費の波がひくころ、年金生活が待つというのが、大過なくおわるサラリーマンの経済の一生であろうか。

金欠病症候群、教育費過重症に効く薬は金であろうが、予防対策の有効なもの、個人の努力では簡単に見付からないと思うのである。

「WIFE」の賢明な読者の皆様方、くれぐれもご用心下さい。

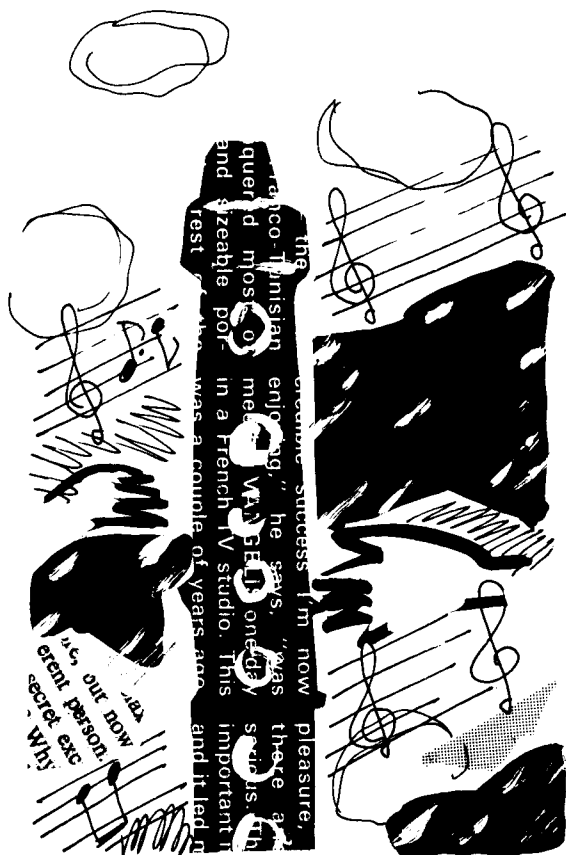
### 金欠病症候群 教育費過重症の直接原因数値分析表

長男（高校一年生）	学校への支払い（3年間）	2,000,000
	大学入学積立て金（3年間）	1,500,000
	通信教育（月）	6,000
	積立金引き下ろし	- 500,000
	長男月平均教育費	約 89,000
長女（小学六年生）	四谷大塚進学教室（月平均）	10,000
	“ 夏期、冬期講習会費（月平均）	3,000
	ピアノ月謝	12,000
	塾月謝（予定）	30,000
	中学進学積立て金	40,000
	長女月平均教育費	約 95,000

# 一人の子に時間をかけて

大館美恵子

神奈川県横須賀市



「笛の音色がきれい」  
と言われて

「塾」と聞くと、体より大きなカバンを背負って、青白いヒョロッとした子供のイメージが強く、イヤな感じがしていた。せめて小学生の間だけは、のびのびさせてやろう。わからないところは一緒に考えようという思いから、小さいころから塾に通わせる親心がわからず、かわいそうな子供達だと哀れっぽい目で見っていた。まさか我が子が塾通いをするとは思ってもよらず。

娘が小三になったとき、クラス替えがあり、担任の先生も変わった。今まで女の先生だったのが、男の先生になった。消極的でなかなか友達の輪に入り込めない娘は、先生に対しても不満の様子である。

家に帰ると、前の先生との比較を始める前の先生は良かった、良かったと言う。「いろいろな先生がいるんだから、いろ

んなことを学べていいんじゃない、頑張  
りなさい」と励ましながら、登校拒否で  
も起こされたらかなわないなあという思  
いが頭をよぎった。一学期も中ごろにな  
ると、家で本を読んでいることのほうが  
多くなり、ほとんど外に出なくなった。

ただ黙々と読んでは夕食のときになると、  
弟と私にハツ当たりをするようになった。  
たまに外へ出て遊んだらと言うと、目を  
キュッとさせ、反抗的になる。七月の個  
人面談のときには、先生のほうから学校  
での様子等伺えるのではと思いその日を  
待った。

面談の日、いろいろな話の中で、「H  
ちゃんは子供らしくない。遊ぶことの楽  
しさを知らないみたいで、なかなかみん  
なの中へ入ってこない。だけど、私は音  
楽の専門家ではないが、笛の音色がクラ  
スで一番きれいに思えます」というお話。  
子供らしくないという言葉にはショック  
でしたが、笛のことで褒めていただいた  
ことを支えに、どうにか家路に就いた。

何かこの娘に自信をもたせたい。道を  
開いてやりたいと思ったが、運動サーク  
ルに入るのはイヤだ、お習字はイヤだ、  
私は今、エレクトーンを習っていて、そ  
れだけで精一杯なんだと言う。この娘は  
まず、友達に慣れ、先生を知ろう、クラ  
スになじもうということ。頭が一杯なん  
だと思い、他の大きな輪の中へ入れるこ  
とはあきらめた。でもこのままではいけ  
ないと思い、先生の言われた笛の音色を  
伸ばしてやろうと思った。が、私が子供  
の教科書を借りて挑戦してみると、ピー  
というかん高い音しか出ず、子供達に笑  
われるばかりである。そのうち近所迷惑  
もあり、基礎をしっかり知っている方に  
お願いしようと思った。

笛を習わせるということに対して、エ  
レクトーンを習わせるということは違  
う思いがあった。音楽の教科を教えても  
らう、塾と同じではないか。小学生の間  
だけは、のびのびという姿勢に反するの  
ではないか、と迷った。



迷って何もしなければ、この娘に対して何も残らない。国語や算数と違うんだから、心を開く勉強なのだからと、変に自分自身を納得させ、心当たりに思いをめぐらせた。

## 親子で一緒に音づくり

幸いにも、元教師であったが、今、体をこわして静養中という友人がいた。

笛を教えてほしいなんて言ったらなんとされるだろう、もっとやるべきことがあるんじゃないのと、冷たくつき放されるのではという不安と闘いながら、今の娘の状態を織り混ぜ相談をしてみた。

「私は本当は、子供達にきれいな音を教えたかったの、きれいな音を作ることが好きなの」と意外な返事。「小学生だから、これくらいの音しか出ないだろうと軽く見てはいけません、小学生だってきれいな音に出会えば、一流のリコーダー吹きに負けないくらいの音色を出すんですよ。日ちゃんの今の様子では、お母さ

んも一緒に習い、一緒に音作りをしてみましょう。親子でハモルって素敵なことよ。私の今の体に活力を与えてくれそうだし、ぜひやらせて下さい」と逆にお願いをされてしまった。

週一回四時三十分から五時三十分までの一時間、月謝は？私がお願いするのだから、最初の何か月間は無償でいいですよ。教え方に納得がいきましたら、ほんの気持ち頂けたらよいですとのこと。なにがなんだかわからないけどやってみよう、私も気持ちを据えて、週一回の笛の勉強会が始まった。ピーとかラーメン屋の安っぽい音しか出ない私をみて、娘はニヤニヤ。

なにくそと思うと手に力が入り、ますますきこえない音。特訓の末、多少音らしきものが出るようになって、娘と一緒にハモったとき、音作りの楽しさを知った。

笛の先生は、「笛を吹くとき、一流の音が出るように心がけなさい。本を読む



ときは、アナウンサーの読み方に一步でも近づこうという気持ちで読みなさい」と口癖のように言われた。

レッスン中の先生は、まだ肌寒い季節だというのに、額に汗をかき、病氣療養中とは思えないほどの熱弁で、イキイキしていた。

その体から、親子で何かを作り出すすばらしさ、打ちこむ姿の美しさを学んだ。次第に娘の心にも落ち着きが見られるようになったのと、雑事で忙しいことを理由に八か月ぐらいで、私は笛のレッスンをやめてしまった。

その後、娘は、友達とそのお姉さんをひき込んで、レッスンを続行中である。

五年生になった娘と友人、六年生のお姉さんでは個性があり、一つの音を作るのに何時間も費やすことがあるという。個性的な三人が集まって、一つの音を作り上げる難しさは、大変な労力を要する様子だが、そんなとき、近くの山や海辺を四人で散策をする。

美しい木々や広々とした雄大な海を眺め、自然を求め、音作りへの心の安らぎを捜しに行くという。道中、三人はかわるがわる学校での出来事や悩み事等、奪い合いながら話しかける。駄菓子屋に立ち寄りお菓子を買ってもらったり、ラーメンをごちそうになったりして、夕方まで遊んでくる。

### 娘の心が開いてきた

娘は、よく笑うようになったし、おしゃべりになった。少しずつ心が開いていくようである。土曜日の三時三十分からレッスンなのに、一時三十分ごろには家を出て、十分ぐらい離れた友人宅へ行き、テレビドラマを一つ見て、三人で音合わせをしてから教室に行くという。自分から行動を起こす娘ではなかったのに、今では、上ばきを洗う習慣もそこそこに、「いってきます！」と大きな声で飛び出して行く。

笛の先生には今、十人の生徒さんがい

る。ピアノの先生、国語の先生、算数の先生、英語の先生といろいろな先生になって子供達の前に座る。

先生の授業は三人組か、二人組である。内訳は、小学生が六人、中学生が三人、大学生が一人である。ちなみに大学生の人はピアノを習っている。

授業風景はというと、三年生の教科は先生も三年生にかえって一緒にやっている。何事もそうなのである。教えているというよりは、一緒に学習をしているという雰囲気なのである。わからない問題があると、前に戻って、復習をし、その問題へと導く。

何時間でも時間をさいて、納得するまで一緒にやってくれるのである。子供と一緒にいるのが大好きで、何かを吸収して育ってくれるのが楽しみなのと話していた。

学校の先生に戻ってもっと多くの生徒に教えていただきたい、という声が父兄の中から出たとき、「私は、一人一人を





ていねいに教えていきたい。学校に戻ったら自由に教えることは出来ない。いろいろな規制の中での教育には、ついていけないから、今のままでいいの。一人の子に何時間でもかけて、じっくり待ちながら一緒に解いていきたい」と話された。きちんとした何々方式の塾ではないのかもしれないけれど、点数にこだわらず、目先のことだけではなく、心の奥底を見つめながらのこの学習姿勢には、胸をうたれるものがある。

## 無限の可能性を秘める 子供たち

ここに通ってくる子供達は、様々である。心にきずをもった子、落ちこぼれ寸前の子、登校拒否寸前の子、だけど明るい。

多くの可能性を秘めているお子さん達を預かっているのだから大切にしなければと、先生も一生懸命である。

子供は宝である。磨けば磨くほど光を放つと言って、その子その子に合った教育指導なのである。

ときには、母親と談笑をして、その中から最近の家庭での状況をしっかり把握し、少しずつ授業形態を変えていく。

我が娘にとって、笛の先生との出会いは、自信につながり、明るく、積極的な子へと変っていった。三人で不協和音にならないように相手の心を思いやりながら作る音作りは、子供にとって大変なことかもしれないけれども、日常生活にお

いて、何よりも必要な思いやりという形で表われてきた。

生きていく上で、「学力」「知識」は大切な要素かもしれない。でも、もっと大切なものを私達は子供達に伝えようとしているだろうか。二十一世紀を背負って生きて行こうとする子供達に、今、親達は何を伝え、何が必要なのかしかりとした目で再確認する必要があるのではないかと反省させられた。

情報過多になって自分自身を見失っている親が、受験戦争を引き起こしているんですよ。人生八十歳と言われる昨今、もっと、もっと、のんびりゆっくり歩いてみませんか。

我が家の前を夕方になると重いカバンを背負った子供達が「塾」へと歩いていく。塾に対する嫌悪感が消えたわけではないけれど、許容範囲が広がったことは確かである。

# 塾で騒ぐ子どもたち

堀田 実子

愛知県名古屋市長古屋市



## 明治生まれの先生

私の経験が、わいふ読者の方々の塾選  
びの参考になればとおもひ筆をとりまし  
た。私は現在中二、小三、小一の男子と  
中一になる女子一人、計四名の子育てを  
しています。話は、長男、長女の小学校  
時代にさかのぼります。小学校で、九九  
を覚え終わったころ、私は長男を近所の  
珠算塾に入れました。実は、私も子供の  
ころ通ったことのある塾で、先生もその  
当時と同じ方でした。

私は息子を迷わず入れました。男の先  
生はとても厳格な方で、私はその塾の気  
風が好きでしたから……。先生はかなり  
高齢になられていましたが、明治生まれ  
の人らしい威厳のある風格は、たのもし  
くさえ思われました。

通い出して一年経ちました。ところが、  
息子はいっこうに上達しません。そこは  
六級から検定があるのですが、受験の話  
も聞きません。私は少々いら立ってきま

した。

しかし、そのうちにはと、翌年、長女も塾へ入れました。長男は二年近く経って、やっと六級検定の受験票を持ってきました。「やれやれ、これからだ」私は内心ホッとなりました。というのも、一向に上達しない長男の塾通いを、夫がいぶかしがるようになったのです。子供のころ夫は、そろばんが得意で、最初の一年間で三級までとったほどですから、三年間習って無級とは、どうも合点がいかない、といっていたからです。

本当はそのとき、塾のようすを調べればよかったのです。ところが、私には過去の先入観がありましたから、何もなかったのです。これは後になって夫からも「君の怠慢だ」といわれましたが……。

## 騒々しい教室

三年目の真夏の夜、教室になっている塾の二階から、子供達の声が騒がしく聞こえてきました。近所ですからよく聞こ

えます。

別棟に住む母が、とうとういつも使わない部屋の窓をあけて覗いてみましたら、何ということ、十人くらいの子供達が、寝ころんだり、立ち上がって歩き回ったり、とてもそろばんの練習中とは、思えない光景が目に入ったそうです。私もすぐ駆けつけて、母と一緒にみました。ちょうど息子は、立って別の長机にすわっている生徒の頭をそろばんで、こづいているではありませんか。ショックでした。声も出ませんでした。何ということ……。

先生は、二度ほど息子の名を呼ばれましたが、慣れっこになっているのか、余り効き目はないみたいでした。私は今すぐ塾の二階へ上がって行って、息子の頬を思いつきりはりとばしてやりたいくらい口惜しく、腹立たしい気持ちになりました。

息子の帰宅を待ち構えるようにして、私は塾での態度を叱りました。さすがに息子は吃驚し、すっかりしよげかえって

おりました。二度とこんなことのないようにと約束をさせ、私は、塾のある夜は、窓から見張るようにしていました。

夫に話すと――「すぐ塾をかえろ――」と言いました。その理由として、先生が高齢すぎることで、子供達をまとめきれないのだ。教室全体の空気がざわざわして、集中力が散慢になる、かえって子供にマイナスだ――でした。私は、夫の一方的に先生や塾を非難する態度に抵抗を感じました。

息子を含めて子供達が悪いとおもいました。親が注意してやれば、静かな教室になるとおもいました。それで、息子の珠算塾仲間のお母さん方に塾でのようすを、電話で知らせました。一人一人親から注意したらと考えたのです。それを機に塾を止められたお子さんもありました。でも私は、子供を止めさせる気持にはなれませんでした。

一体何が私を躊躇させたのか、多分、先生が、かつての私の恩師であったこと、

「先生への信頼」が最大の原因ではないかと、思われます。

## ついに塾を替えた

業を煮やした夫の怒りが爆発し、とうとう私は六年生になった息子を、勉強のためという理由で止めさせ、半年後に、長女を、同じ理由で止めさせました。すぐ、実績のある別の珠算塾へ二人を入れました。止めたとき五級だった息子は、塾を替わって八級からとりなおし、半年で四級まで進みました。また六級だった娘も、同じように最初からとり直し、一年間で三級検定に合格しました。この結果をみて、やはり、先の塾に通わせたことは失敗だったと思います。

私は子供を甘くみすぎていたようです。子供が外部環境に順応する能力を、軽く考えていたようです。あの喧騒の中で、周囲に打ち勝っていくなんて、そんなことは並大抵ではなかったのです。環境を変えたとたん伸びた成果が、なによりの

証となりました。

母親から叱られてばかりいた子供達が、今度は誉められる立場になったのです。短期間でどんどん進級していくのが、うれしくてならないようです、より一層頑張るのです。目を見張らんばかりの子供の姿は、母として、何故もっと早く決断しなかったのだろう、と反省するばかり

でした。

先生は、確かに昔の先生ではありませんでした。体力も気力も、小学生を相手ではきつすぎたのだと思います。

……以上が私の塾の経験談です。

(え・カステラネンコ)



# マン・ウオッチング

自分の顔に責任を持って、泣かせる男の物語

## がんばれ、Mさん

東京都府中市 赤井久美子

「末っ子がこの春、小学校に入ったのでね」と地元で再就職。よくあるパターンである。時々一緒に仕事をする事になった広告代理店のMさんもそんな一人。

おつれあいには中学校の教師。自身も保育所に子供を預け、史跡発掘のアルバイトなどしながら小学校の教員採用試験に

チャレンジしていたが、ついに果たせぬまま年齢制限をオーバーしてしまったとか……。

仕事は真面目で丁寧——それはいいのだが、真面目過ぎて、丁寧過ぎて、どうでもいいようなことにまでいちいち引っかかっているのだ、どうもこちらのテンポとかみ合わないのである。要するにドンクサイのである。で、仕事を立て込んでくると、ついついこちらも語気が荒くなってしまう。

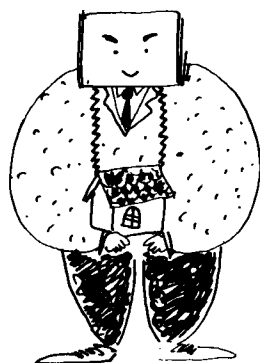
「すみません、まだ慣れてないもので」としよげられてしまうと、ああ悪かった

なあと思うのだが。

そうだ、私だって二年前、年齢も同じ三十六歳で再就職したときは、さんざんモタモタして皆に迷惑をかけたものだ。

「こんなハズじゃなかったんだけど」と、テキパキと仕事をさばいていた若いころの自分とのギャップに、ただもう落ち込んでしまった時期があった。「オバンはダメだな」という声が聞こえてきそうです辛い時期があった。

がんばってね、Mさん。慣れてくれれば



きつとバリバリの営業マンになれるから

ね——そう、Mさんはマン、男性なのだ。

三十歳半ばの再就職でドンクサイのになにも女性に限ったことではなくて、男性だってやっぱりドンクサイのであります。

### 蛇足・その一——

このMさんの話を夫にしたら、夫は、Mさんの奥さんは「ハズレ」の亭主を持つてかわいそうだ、などとのたもった。

私の見解はまるで違う。「ハズレ」どころか「大当たり」ではないのか。子供の就学まで、家事・育児を引き受けてくれた「主夫」のおかげで、妻はどんなに助かり、どんなに安心して仕事に打ち込めたことか……。

妙なコケンにとらわれず、サラリと「主夫」をこなしてきて、今もこなしているMさんは、当たりも当たり大当たり、表彰ものの夫だ。

そうだ、そうだ、とは我が職場の女性

軍の大合唱でありました。

### 蛇足・その二——

Mさんの子供は女の子が二人。「女なのでね——教育をつけてやらないと」と彼。男性ならば、何をやってもソコソコの稼ぎにはなるが、女性の場合はそうはいかない。男性なみの稼ぎを得ようとしたら、公務員か教師、医師や弁護士、いずれにしても教育をつけてやらねばならぬ、というのが彼の言い分であり、残念ながら「正解」でもある。

「再就職にしたらって、三十歳半ばの女性が正社員になれるチャンスはめったにないけど、男性の場合ならけっこうあるんですよね」

そうだ、育児のためにどちらかが仕事をやめざるをえないのなら、再就職の条件がいい男性のほうがやめるというのが賢いやり方なのかも……。

それにしても、こういう人にこそ、教師になって欲しかったなあ。

## 私は魚座の女

東京都東村山市 長井 淳子(52歳)

一瞬、自分の耳をうたがいました。

「エッ?!」とか「ハァッ?!」とか言ったような言われないような。私より数歩前の男は、ふりかえって普通の声で繰り返しました。

「おくさん、暇ない?」

まあ、なんて久しぶりでしよう。とんと忘れてましたが、たしか三十歳代の頃に二幸の前で人を待っていたときに声をかけられて以来のことです。うれしいじゃありませんか。私もまだ捨てたもんでありませんねえ。自信がよみがえって来ました。

その男は中肉中背、年齢は四十五歳まででしょうか。青ねず系のスーツも吊しでしょうか、きちんとしております。抱

えているカバンもあまり貧乏くさくはありません。地方から出張で来ているサラリーマンタイプです。出張旅費が浮いたのでひっかけてみるのでしょうか。でも態度が物慣れています。手あたり次第に声をかけているのでしょうかねえ。下手な鉄砲も数うちやあたるで私にもねらいをつけてくれたなんて……結構、結構。

このところ、とんとシゲキがなくてワンプターンな生活をくりかえしていたの。夫は五十八歳でかなり爺むさくなり、



息子も就職して一丁前にかえりが遅い。

かく言う私は五十二歳の塾女(字に注意。熟ではない)。中学生を相手に英語塾をひらいて、つつましい収入をはかっている。今日は「わいふ」の二〇〇号記念公開講座があると聞いて西武新宿の駅についたところなのです。ペペの上の本屋で、用をたしてブラついているところにこのお誘いです。

「おっしゃる通り、暇です。一時間半の暇があるので、どうです? このビルの中のプリンスホテルでおひるをいただきます。私、決して高いものだけ注文するようなことはしませんわ、ロースト・ビーフのサンドイッチとビール一ぱい、あとは口直しにシャーベットぐらいで、コーヒーをとどめにいただいて、さよならすると丁度一時には間に合うわ」

夫よ、息子よ、母はこれでも若いときはハツラツとチャージングな女性だったことを考えてほしいものだ。チビでデブでブスでとリズムをつけてヤユされてい

る私、今、久しぶりに男性から声をかけられ、ガゼン、ツヤが出てきた。よし、顔と姿には自信はないが豊富な話題でたのませてあげよう。東京みやげになるような一刻をとみにすごさせてあげよう。私もまたとないチャンスを取材? して「わいふ」に投稿できるではないか——。

と、この一瞬に私の脳細胞はめまぐるしく回転したのですが、やはり知性と教養が邪魔をしてしまいました。丸い顔をツンとさせて、その場を足ばやに立ち去ってしまったのです。

誰です!! 「物好きな男もいるものね」なんて言うのは。「私なんてしょっちゅう声をかけられているわ」と言う声もきこえますが、いいではありませんか、五十二歳の私に、たまさかに訪れたチャンスをたのしませてもらったって——。魚心あれば水心。魚座の女は気が多いと、ギリシャ人の女性にかつて占ってもらったことがありましたっけ。

(え・万谷陽子)

# 朝鮮と日本のはざままで

私は帰るべき家を失った

兵庫県 匿名

## 日本人を演じ切ろう とする両親

六月二十日をさかいに私は帰る家を失った。実家の両親に勘当を言い渡されたのである。一瞬わが耳を疑ったが嘘でも冗談でもなかった。父も母も、心底私の

行動に憤っていた。ことごとく違い違っている。両親と私の見解はどこまでも一致しない。そもそもが生き方の問題なのである。

帰化して日本人を演じきろうとする両親にとって、夫の朝鮮名で生活する私の存在は、目の上のコブともいえる。けれど私にだってとはしる思いがある。朝

鮮人であることを隠し続けて生きること、私には息苦しい。あるがままに生きることこそ人間本来の姿であろう。

といって私は何も朝鮮人を誇りになど思っているわけではない。むしろその反対である。私の受けた学校教育からはおよそ考えられないような、男尊女卑の封建色濃厚な在日朝鮮人社会の一員となる





気はない。私が求めているのは、女性が一人の人間としてあたりまえに生きられる場なのである。そこには日本も朝鮮もない。ただどんな場合にも、自分のルーツを隠したくはない。あるがままの私を受け入れてほしいから。

しかし夫は私とは違う。朝鮮をこよなく愛す朝鮮人なのである。そして在日同胞の人権獲得のために働いてもきたのであるが、どうにもならないのは、男尊女卑社会の中で育まれてきた彼の性格である。家庭内における男と女の立場にはとんと気がつかない。

そうした行き違いがつみ重なって、今では夫婦の仲も冷えてしまっている。一人娘が独立してしまえば、夫と二人だけの生活は耐えがたいものになるであろう。来るべきときを迎える前に、離婚準備ともいべきものをしておかねければならない。つまり夫と別れても一人で生活していけるだけの基盤を、築いておく必要がある。

ここまでわかっていながら、私はこの春まで勤めていた実家の仕事をやめた。理由は色々あるが、決定的なことは私は所詮「出た娘」であつた。嫁いだ娘は息子にはなり得ないのである。

それがはっきりわかつたのはある資格を取ってからであつた。不動産業に手を広げたがつていた父のために取つたその資格が、わが身を滅ぼすことになる。と、そのときどうして予測できたろう。ともかく私の資格を唯一の頼りに、不動産仲介の看板はあげられた。

雑用がふえて忙しくなるにつれ、便利屋にすぎぬ私の不満はたまつていった。親元とはいえ、やはり他の世間並みなのである。女はいくら頑張ろうと、使い走りしかさせてはもらえない。もちろん昇給もとまつたままで。

たまたま妹が離婚して親の庇護を受けねばならぬ立場にあつた。自分の椅子を妹に譲ることで、私自身は教師稼業に戻ろうとした。けれどことはそう簡単には

運ばなかつた。唯一の資格者である私にやめられては、不動産業が困るからである。もつともそのときはまだ私にやめる気はなかつた。ただ教職の魅力捨てがたい私としては、それに代わる私塾を、帰宅後の時間を使ってやりたいと思つたのである。

しかし両親は聞きなり烈火の如く怒りだした。そして、妹が資格を取つたら即お払い箱にするから、それまで塾をするのはのばすように言つてきた。

ところがその資格試験に妹はすべてしまったのである。私の立場は微妙なものになり、結局やめはしたものの、私の名前だけはもう一年残ることになった。不動産を扱うための資格者がいなくなつてはどうにもならぬからである。

そうしたいきさつがあつたから、私としては慎重にことを運んだつもりであつた。まず行動を起こす前に両親にお伺いを立てると、予想をはるかにこえる怒り方であつた。身勝手すぎるというわけ

ある。しかしこちらにものつびきならぬ事情があった。

## 日本国籍を否定する夫

私塾を開いてはみたものの、思うように生徒は集まらず、自立どころか私一人の小遣いがやっとであった。一方では娘の国籍変更のタイムリミットが差し迫ってくる。

国籍法の改定によって、わが娘にも日本国籍を取るべき権利はできた。だがそれには夫の同意が要る。夫が首をタテに振らなければ、娘の日本国籍は絵に書いたモチでしかない。その期間が切れるまで、ただじっと待つことは私にはできない。夫が同意しないのなら、せめて娘には自らの権利として、本当のところを知らせてやりたい。希望さえすれば、私のように帰化という手段を選ばずとも、簡単に日本国籍が取れるのであると。

朝鮮というか韓国の法律は決して女性を守るようにはできていないのであれば、自分のルーツを明らかにした上で、朝鮮系日本人として生きる道が、現在考えられる最もベターな生き方であると教えてやりたい。

けれども、娘が父親に日本人になりたいと主張などしたら、その瞬間わが家は修羅場と化すであろう。夫は猛獣の如く暴れ狂い、あたりかまわず滅茶滅茶にするであろう。その場面を想像するだけで恐ろしい。何故なら娘にそんなことを言わせる人間は、私しかないのであるから、その鋒先が私に向かってくるであろうことは目に見えている。そして娘には日本国籍の話は断じてならぬという、夫の厳命がある。それでも必ずや迎えねばならぬその日までに、私は自立していなければならぬのである。娘と二人生活していくために。

その後の電話の調子では、私が就職するなら不動産のほうはしばらく休業する

### 「最高裁を監視する会」を作りましょう

さる七月一日、手形割引にからむ訴訟に下した最高裁の判決を読んで、唖然としました。企業では、商取り引きに際してしばしば手形で支払いますが、二か月、三か月先の支払い日まで待ち切れない人のために、何割か安く割り引いて現金化する業者がいます。

訴えた業者が割り引いた手形には、漢数字で「壹百円也」と書かれ、その横に、アラビア数字で 1,000,000円と書かれてあって、実際の支払い金額は、百万円。

ところがいよいよ決済日がきて、割り引いた業者が手形を現金化しようとしたら、手形をふり出した会社は「ここには壹百円也とかいてある」と主張して百円しか支払わず。悪質もいいところで。

というわけで訴訟になったのですが、高等裁判所では、この「壹百円也」の漢数字は前後の状況からして明らかに誤記である、として原告が勝ったのです。

ということがあったので、父も母も諦めたのかと、軽く考えたのがいけなかった。今にして思えば最後通告であったのに、私はわからなかったのである。逆に許可がおりたものと解釈して、働く手筈を整えてしまった。

働くといっても年齢制限にかからず、子供の下校時刻に合わせられるような融通がきいて、パートではなく正規で働ける所となると、保険の外務員以外に何がある。私はためらわず研修に参加した。

女性であることもハンディにならず、時間どころか収入も自分でコントロールできるという話は魅力であった。それに入社するしないにかかわらず、日当つきで勉強させていただく場に出るのに、何を考える必要があったろう。抵抗を感じる人が多いのは「保険のおばさん」という言葉のせいもある。けれどそう呼んで見下す人達は、そのおばさん達の世話になっていないと言えるのであろうか。

保険の外務員はもっと社会的に評価さ

れてよい仕事であると思う。いわば家庭の縁の下の方持ちのような役割をはたしているのだから。

それはともかくとして、まだ研修中の身でありながら私は親を失ったのである。私のしていることは、今後親の家に出入りも許されぬような、それほど悪いことなのであろうか。自活の道をさぐろうとして、逆に親の怒りをおおうとは。

——夫と別れることを何とも思わなかったのは、やはり実家という後ろだてがあればこそであった。働くといっても子供がお荷物になることだってあろう。そんなとき、安心して預けられる場があるということとは、何よりも有難く心強いはずであった。まして娘にとっては大好きな祖父父母の家である。パパよりも好きなおばあちゃんをなくした娘から、さらにパパまで取り上げてしまうのはしのびないが、といってみすみす期限が切れるのを、黙ってやり過ごすわけにもいらない。私は大揺れに揺れている。

ところが最高裁では逆転敗訴。理由はなんと「法律には、手形の漢数字はアラビア数字に優先する」と書いてある」から。もう、驚くのを通りこして呆然とします。高裁での判決のほうが、どんなに納得のいくものだったかしれません。これではまるで弱い者のいじめです。

最高裁判事への訴追権が国民に委ねられますが、この権利ほど形骸化しているものはありません。でも、判事たちがどんなとき、どんな判決を下しているかを知ることができたなら、これまでのように「分からないから」と棄権することもないのではと思います。判事たちの誰が、どんなとき、どんな判決を下しているのか、しっかりと見守ろう、と思い立ちました。

データを取って、公表しましょう。

というわけで、新聞を丹念にチェックし、最高裁の判決のデータを集める女の会を作りたいのですが、一緒にやってもいいと思う方、ぜひお電話下さい。（余り時間はいらないと思います）ご参加をお待ちしています／編集部（田中）

投稿ホットライン——能ある鷹は爪をかくす

# 職場は多面体

愛すべき職場——死角の部分に何があるか？

## 牧場勤めを始めて

埼玉県東松山市 坂下 晶子

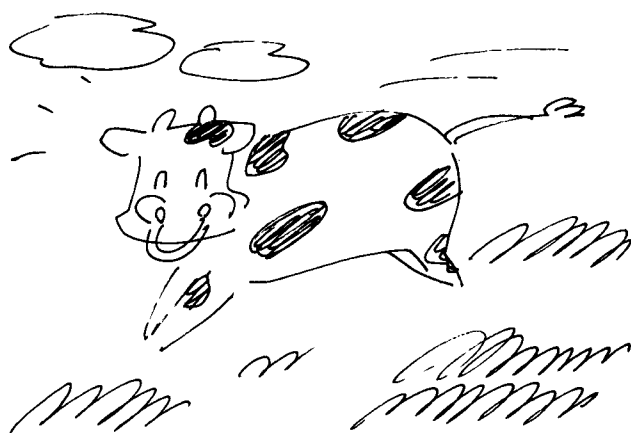
結婚五年目にして子供のいない私は、学童保育指導員のバイトを頼まれたとき以外、外で働くことはなかった。自分の意に満たなかったり、金銭目的だけの仕事をするなら、家事という立派な仕事をベ

ースに興味やボランティア活動に打ち込み、精神的に充実した毎日を送ったほうが、人生に有意義だと思っていた。

実際求人広告に目を通して、事務、

レジ係、ウエートレス、セールスレディなど、今ひとつ自分の性に合わない職種がほとんど。

ところが、である。今年の一月、牛のごはん作り”というユニークなパート募集広告が目についた。同じ市内に牧場があること自体驚きだった。食肉嫌いではあるが、動物大好き人間の私は、即日主人に相談もせず、独断で牧場に足を運ん



だ。何と、私の真意が経営者の方に通じたのか、何人かの応募者の中から唯一人採用されたのである。

・牛のごはん作り”はもちろんのこと、私にとっては何もかもが初体験だった。

古畳の藁が牛の餌になることも初めて知った。仕事の内容は、フォークリフトの運転作業、藁切り、二、三十キロものの袋詰め飼料の攪拌かくはん、餌やりなど、予想以上の肉体労働。早くも数日で、家事との両立が崩れそうな不安が襲った。

しかし、人間味豊かな経営者家族の方々に囲まれての労働は心地良く、次第に仕事を覚えるうちに体も慣れてゆき、いつのまにか半年近くが過ぎた。

北海道の広大な牧場のイメージとは程遠いが、季節の移り変わりを肌で感じ取れる自然の中で、楽しく働ける健康の有り難さ。見たこともない数多くの野鳥との出会い、仕事を終えて、牧場の飼い犬の散歩をさせながら野草を摘むひととき。現代の物質文明社会に厭気がさし、自然に飢えていた私の全身全霊に、生きていく喜びがみなぎる。

心身共にたくましくなり、一層若返って日常生活も活気づいていくようだ。本当にこの仕事を選んで良かった――。

## ファンが嵩じてセールスレディに

茨城県稲敷郡 宮本 法子

ポーラの山口洋子さんのファンの私が、とうとうポーラレディになってしまったのです。わいふの山口洋子さんを知ってまもなく、子どもの保育所で顔を合わせのお母さんから「ポーラ化粧品、始めたのよ。よろしくね」と、言われ「あら、私、ポーラのお化粧品より、仕事の方に関心があるのよ……。ほら、山口洋子さんって知ってる？」と、話はずんでしまったのです。

それから、ポーラの仕事の話を聞き、悩みの一週間となったのです。さて、自分がセールスをして歩けるかどうか、時間的に無理なのでは……子どもたちに負担がかかるのでは……と。頭がおかしくなるほど考えた結果、山口洋子さんを信じて良い方向に考え始めました。

もちろん、もと営業マンの主人は、反

対でした。以前、他メーカーの化粧品の元締めをしていた義母は、「あなたに、商売は無理ですよ」と、初めは言っていたのに、私があまりに熱心そうで、可哀想に思ったのか「やってみたら」と、言ってくれたのです。そして、それから、営業所に顔を出す毎日となりました。

実際、今までの仕事の中で、一番きつい仕事だと思ふのです。体力的に疲れまじし、研修会に出れば「売り上げ、売り上げ」と、目標に向かって、表へ出されます。営業所の所長や事務員さんが、気持ちの優しい方で、私は励まされながら続けています。「性格を売る」ことを教え込まれますが、「ははあ、売れないのは、自分の性格が悪いのだ」と思うしありません。

ポーラに入ってから二カ月半、やっと、ひ

とり、ふたりと、お客様ができました。気が小さい私が、私の好みの方には、ベッタリと離れずべばり付いて、ボーラの良さをわかってもらいます。アンケートを取ってくるのですが、幼い子どもを追いかけて忙しいお母さんのときもあるし、子どもが熱を出して不安な心境のお母さんのときもあります。ついつい「私もしつこ過ぎるな」と思ってしまうそうです

## 私の「紫式部」

今まで忘れるともなく忘れていて、最近、ふっと思いつくというの、私がその人の年齢に達したからだろうか。

「紫式部」——というのは、私が結婚前に三年間勤めた東京の教育出版社で、教科書の編集にあたっていた、さるキャリア・ガールにつけられたニックネームだった。

そのころ、すでに在職十年を越すベテ

が、「でも、やらなくっちゃ」と、一人でも多くの方と出会うのです。自分でも「性格が良くなるのではなく、心臓に毛が一本、はえてきた」と、真剣に考えられています。

山口洋子さん、私には、とても険しい道のようですが、とにかく、山口さんのファンのまま、ボーラのファンになってしまいました。前へ進むしかありません。

長野県長野市 岡村 和代

ランだった彼女は、ほっそりとしてはかなげで、物静かなさまは、まさに紫式部であった。

「浜田（私の旧姓）さんの憧れの人は紫式部なんだよ」と同僚にからかい気味に言われるのも嬉しいぐらい、私はその人に傾倒していた。

年に何回か社内で行なわれる大学入試のための模擬試験問題作成会議では、私

も紫式部も同じ国語の問題検討委員ということになっていたので、出席する機会があった。

当時、同じ社内でありながら、編集部の女子社員はお茶くみ拒否、事務担当の女子社員は一日に二回、お茶くみをするのが慣例となっていた。

前述の会議は、私の属するセクションの仕事のうえ、時間が夕食にかかるため、食事の接待もしなければならなかった。

先輩の女子社員と一緒にお茶出しや食事の世話に追われて、ろくに会議に加われない私を見て、紫式部はたいそう気がかりだったらしい。

ある日の昼食時、社員食堂でたまたま私が一人で食事をとっているのを見つけた彼女は黙って近づいて来た。

「あのね、私ね、貴女がお茶くみに追われて、とても気になるの。なんとか、雑用は他の方に引き受けていただいて、問題の作成に専念できないかしら」と言われて、私のほうが驚いてしまった。



「お気持ちはありがたいのですが、私としても、同じ課の先輩がお茶くみしているのに、座ったままで手伝わないわけにはいかないんです」

そう答えつつ、私の心境は複雑だった。私の先輩の女子社員は高卒、私は短大の国文科卒で、事務職に短大卒を採った経験のない会社としては、その扱いを決めかねているようだった。

美人の新人社員が入社すると期待していた周囲の男性社員の期待に添えなかった私は、入社以来、路傍の石ころ扱いで、ひどく傷ついていた。関係ない部署の人が、私のことを気にかけてくれたというだけで、心温まる思いだった。

私の入社後、すぐに労働組合が結成され、新入社員の誰よりも早く加入してしまった私は、労組結成時の熱い怒涛の中に巻き込まれた。

そして、すぐに婦人部が設けられ、その初代部長に紫式部が推され、就任した。労組の大会でも、彼女は明晰な頭脳と理

論で、私達のリーダーたるにふさわしい存在だった。

しかし、生理休暇もない労働条件で働く私達が、妊娠しても働き続けようとする女子社員のために、妊娠時短、育児休暇、育児時短等の権利を獲得するための闘いを展開するには、独身の彼女には、納得できぬことが多いようだった。

「母性保護っていうけど、母性を保護するためには、家庭にいるのが一番じゃない?」と言った彼女のセリフが、今も忘れられない。突然の退社の少し前だった。

退社の挨拶に社内を回っている彼女の姿を見かけたのに、私は一言も声をかけられなかった。ただ、私の憧れが消えて行く、という胸塞がれる思いで見つめていた。

退社後の彼女の噂は、それ以来、一度も耳にしない。

小泉久美さん、お元気ですか?

(え・カステラネンコ)

投稿ホットライン——あちらを立てればこちらが立たず

# 対話のページ

「子供会は必要だろうか」  
を読んで

茨城県牛久市 潮田 恵子



私は小学二年生の長男がいるが、今年の三月をもって子供会を脱退した。

小川さんもご指摘のとおり、PTAにしろ子供会にしろ、そのくだらなさは目にあまるものがあると感じたからである。

年に二、三度のお義理の行事にも長男はほとんど参加せず、帳尻合わせのプレゼントも「子供会やめたらもらえないよ」と私がいえば「どうしてもいるものだったら、チャ―（私のこと）に買ってもらえばいいじゃん」と、なんとも——そういうばもともと親が出した会費が、キーキやアシックスのソックスに化けて戻っただけのことか——説得力のあるお返事で、一も二もなくやめたとあいな

った。  
まわりの奥様方の反応はさまざまで、

「私もやめようかな——」とため息まじりにいう人あり（こういう人は絶対やめない）。

「誰だっていいやいやってるんだし、あんたひとりのためにみんなが迷惑するんだし、だいいち、私も私もなんてどんどんやめる人が出たら、いったいどう責任とるつもり」などと怒る人あり。

「責任なんて取るつもりありません。自動的に会員になってるにもかかわらず、あくまで強制ではないといはって、それじゃやめるといえばこんどは責任なんて冗談にもほどがある。私がやめることで脱退者が続出するようになっただとすれば、問われるべきは私ではなく、子供会のあり方ではないんでしょうか」の一言でその人は茹でだこのような顔をして帰っていった。

その後、なんだかんだといってた人達も、とりあえずは私を無視することで、身の安全をなんとか確保しているらしい。

そんなこんなで色々あったが、私としてはもうすっかりけりがついたと思ひこみ、会う人ごとにやめたやめたとふれまわっていたの



だが、どうやらけりがついてるのは私と息子だけだったらしく、何かにつけて役員会の茶飲み話に花をそえる結果となっているらしい。

たとえば、本人があれだけふれまわっているのだから子供会の回覧で他の会員に脱退を知らせたほうがいいとか、それを見てやめる人が出ると困るとか。

やめたのだから連絡網からはすすべきだとか、それを誰が私につげるのか。みんな悪者にはなりたくないから班長さんにお鉢がまわる、彼女とて思いは同じ。「一応連絡網からははずしておいて、私が班長の間だけは、個人的に連絡します」とここまでくれば、涙なくしてきけません。

私の知人に、「一度話をききたいのだが……」ともちかけた会長さんも、「あの人ならいつでも話し合いに応じるはずよ」の知人の言葉に、「友人に口のたつ人がいるからたのんでみなくちゃ」とのたもうたとか。

結局は当の本人はそっちのけで、それぞれに適当に盛り上がってというのが現実なのである。

それはそれでいっこうにかまわないけれど、もっとうスマートに、私に対しては表面的ではあるにせよ、よき理解者のごとくふるまって、陰にまわれば、迷惑だ自分勝手だ無責任だというのでなく、迷惑なら迷惑といい、連絡網からはすすならさっさとはずし、自分のやるべきことをしっかりとやった上で、私の目をしっかりと見て挨拶を返す、などということがそれほどむずかしいことなのだろうか。

最新の情報によれば、会費もおさめず、集団登下校からもはずれ、名簿から名前が消えたにもかかわらず、我が家の脱会はまだ保留状態であるということだ。

当然後に続く者などあらうはずもない。

## 女性はお茶くみ要員 ではないゾ!!

東京都田無市 匿名

二〇〇号のわいわいガヤガヤ「お茶くみ考」を読んで、全く同感。男性の中にも女性だけ

がお茶くみすることへの疑問を持っている方がいることを知り、とてもうれしく思いました。

私も都内の市役所に勤務して数年ですが、男女平等は本当に建前だけで、役所というのは封建性のかたまりであるという事実には、いまだちと絶望の日々を送っています。

雑用の女性への押しつけなど、いろんな差別がありますが、一番目に見えるものとして、一日四回のお茶くみ（朝・十時・十二時・三時）は、すべて女性がやっています。

係に一人か二人しか女性がいないところが



ほとんどですから（故意にお茶くみ要員として配置しているのでしょうか）、誰かと交代することもできず、勤続何十年の女性が「あいちちゃん、お茶ちょうだい」なんて言われたり、だれかのおみやげのお菓子を配って歩いたりしています。

時間がくると、どんなに忙しくても席を立つので、仕事も非効率としか言いようがありません。雑務的ないつでも席を立てる仕事しか回ってこない職場もあります。会議のお茶くみのために、残業をする人もいます。

こんな状態の中で、女性に意欲的に仕事をすることができるとはでしょうか。

確にお茶くみを女性の天職のように感じたり、何の疑問も持たない女性もいるのかも知れません。でも「どうして女性だけが」と、差別に泣いている人も多いのです。

しかし、職場の中で「お茶はセルフサービスにしましょう」と言うのは相当な勇気のいることです。波風を立てるのはイヤだし、仕事ができなくなっても困るしで、私さえがまんすればいいなってしまっている人が多いよ

うに思えてなりません。まだまだ性別分業の根強い社会です。不満を口にだすことも、はばかれる意識もあるのです。

でも、私は、お茶くみをまずなくし、男女が真に平等な職場にしたいのです。

どうやったら、女性の共通認識として、たかたっていけるのか、今はただ、静かに考えています。

## 刺激になった二〇〇号!!

愛知県名古屋市長 岩田 和子

香川県丸亀市、山田幸子さん「『胎教』という強迫」よくぞ言っておきました。今までは、長女が生まれる前の私が最悪の精神状態を思うと、「胎教」という字すら正視できないほど恐ろしかったです。『わいふ』に体験を書く勇氣もありませんでした。私もこれを機会に「胎教」で母をおどす社会を否定していきたいと思います。できれば個人的にお礼を申し上げたいくらいです。

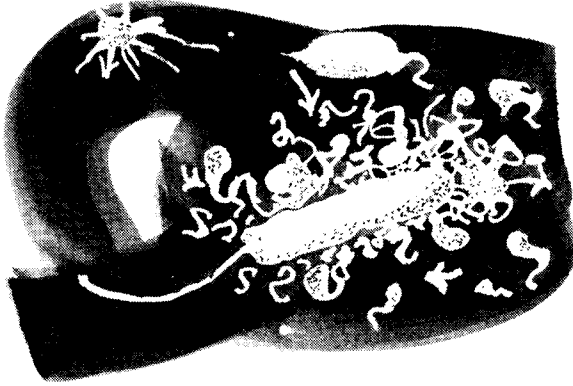


国分寺市前田信子さん「理系の男を夫に持てば」私にはおつれ合いがなぜこんなに信子さんから悪口をいわれなければならぬのか、全くわかりません。

相手にのぞむことがあるなら、正直にはっきりと言うことがフェアなのに、白を黒といつて、白と誤ってくれなかったというのは、どんなさんが「僕にどうしろというのか」とのたまうのもむりはないと思います。カミュ「誤解」にもあるとおり、自分というものはっきりと出さなければ殺されることだってありうるのです。同様のことを「プライベート・ルーム」の田口和子さんに対しても感じました。

タンポン派のあなた  
気をつけて

栃木県宇都宮市 野本千津子



上原さんの投稿を読んで数日後、友人からびっくりするような話を聞きました。「わいふ」に投稿しようかな、と思っているうちに日が過ぎ、そのうち二百号が届き、古池さんの投稿を読んで、これはぜひ皆さんにお知らせしなければと思います。

友人のAさんは、色のついた「おりもの」が多量に出始め、そのうちに下腹部の痛み、足のつけ根から太ももへかけてのつっぱり感、熱をもった感じなどの症状が現れ、これははっきり「ガン」に違いないと思い、あわてて病院に行ったそうです。結果は、「タンポンの入れっぱなし」だったとのこと。

病院に行ったのが生理が終って一週間後ということから、少なくとも一週間は入れっぱなしだったことになります。タンポンはひもごと膣の中に入ったまま、細菌が増え、子宮内部は炎症を起こし、ひどい状態だったのか。「ついでに子宮ガンの検診を」というAさんに、医師は、「そんなことのできるような状態ではない」と言ったそうです。「いったいなんでまたそんな」と言う私に、「わか

らないの。全然記憶にないの」と言うAさん。何の違和感もないタンポンだから一度入れてしまえば、何かのはずみでヒモごと中に入ってしまったとき、忘れてしまう（感違いする）ということもあるのかもしれない。

そこで思い出したのが、もう七、八年も前のことですが、アメリカでタンポンを入れたばなしにしていた人が二、三人、あいついで亡くなったこと。最初原因不明だったのが子宮内部のタンポンによる細菌の増殖が死亡原因とわかり、小さい記事ながら、何回か新聞に載ったのです。当時は友人と「タンポン入ればなしなんて、考えられない」「アメリカ人は日本人と衛生観念が違うのよ。同じタンポンを二日も三日も入れとくなんて」と話したのですが、案外、Aさんと同じようなケースだったのかも知れないと思いつきました。「死ななくて良かったね。そんなことで死んだらつまらない」という私に、「ホント。でも、その人達、きつと自覚症状あったと思うよ。すごく痛かったもん」とAさんの返事。何事もなかったから良かったけれど、

まかりまちがえばあのアメリカ人のように……。と考えるとほんとに恐ろしい。

めったにあることではないのでしょうが、タンポン愛用者の方々は、出し忘れないようにくれぐれもお気をつけ下さい。

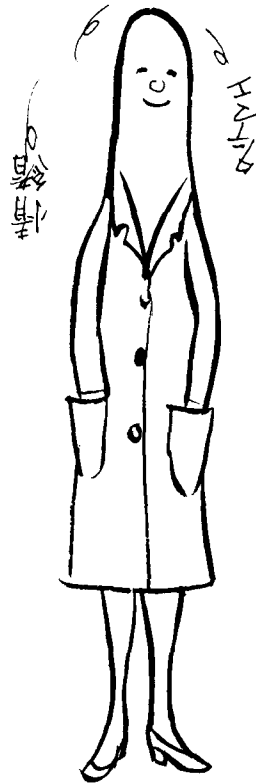
## 私、理系の女です

東京都国分寺市 竹内 睦子

ウワァ、いた、いた。『わいふ』の読者にも数学人間が!! 豊橋市の谷山さん、何をかくそう、私も理系の人間なのです。

読書は昔から好きだったけど、字を書くことはどうも苦手、全く数式や記号なら一行で済むところを、何が悲しゅうて主語述語。心のひだは、ツルツルテン（これ、二〇〇号のマン・ウォッチングの前田さん——実は私の友人——の文の引用よ）、ついでに右側の脳もツルツルテン。もってまわった言い方、行間の感情、どーもよく分からない。

『わいふ』の中身は、みんな本音だから、単



刀直入で、私も「そーだ、そーだ」とうなずけるけど、日常の女どもの会話ときたら、見栄とお愛想、タテマエと謙遜にアール・デコ調に飾られていて、もう、ツルツルテンの私は、目もくらまんばかり。そして結局は「あの、はつきりとしやべる人」なんて言われてしまつて、妙な難用を押しつけられる。げに悲しきは理系の女なり。

よーし、一念発起、シネクネと、人との話の中で「分っかんない」「えーと、それでエいいです（本当は良くない）」をやつてみつか。と思うだけでも、ウゲッ、となるは理系の性。

それでも、こんな文章でも、書いて送る気

になったのは、『わいふ』投稿大好き人間、心がひだひだになった友人達の影響か。一度、こうして書いてみると、こりゃあ、なかなか良いもので、日ごろ頭の中で、ツルツとすべつてどっかへ行つてしまうものが、文字になり、曲がりなりにも体系化されてくる。と、自分というものが浮かんでみえて、あら、私にも、心のひだつてあったのネ。

数学大好き、専門の有機化学はもっと好きで、いずれまた、独身時代にやつてたように、研究室で助手でもやりたいけど、まあ、子供の手が離れるまでは、ポツポツと投稿なるもの、してみますか。

## 理系人間の弁明

愛知県豊橋市 谷山由美子（29歳）

「理系の男を夫に持てば」を読んで、思わず笑ってしまいました。あまりにも、私たち夫婦と組み合わせが反対だからです。

私の家では妻の私が理系、夫が文系です。私の夫も、前田様のように内心思っているのかと、反省することしきりです。

ただ、ご主人様の名譽のためにも、私自身の自己弁護を兼ねて、少し理系人間の精神構造を説明させていただきたいと思います。

思うに、文系の人というのは、人間というものにとっても関心を持っているようです。文学・歴史・法経など、どれをとっても人間の営みや、人間の内面に深くかわるものばかりです。

それに対して理系の人間は、宇宙の法則や自然界の摂理など、人間とは別次元のことに強い関心をいだいています。

たとえば例として、池に石を投げたとします。これは投げる人が怒って投げようと、楽しんで投げようと、石はただ黙って沈むだけです。このとき、文系の人はおそらく、投げる人の気持ちがどうであったかということを重視するのではないのでしょうか。

ところが理系の場合は、なぜ石が沈むのか」というところに着目します。そして「浮力より重力のほうが大きい際に物体は沈む」という法則を思い起こし、納得します。

またある人が言いました。

「二つの粘土を一つに合わせてこねれば一つになる。一たす一は一のこともある」と。

なるほどそういう考え方もあったのかと、はなはだ感心したしいですが、それだけでは納得しかねます。なぜなら、二つを合わせた粘土は、明らかに重さも体積も二倍になっているからです。そういう事実を無視して、ただ数が一つだから一だと考えるのは、あまりにも無謀で非科学的と言わざるを得ません。つまり、理系の人間というのは、悪く言えば杓子定規、良く言えば科学的な思考回路を持

## ●セミナーの記録テープをお分けします

わいふ編集部では、七月三十一日、横浜市婦人会館で左記のセミナーを開催しましたが、会場が横浜、しかもわいふの発行日とはズレがあり、読者の皆様にお知らせができませんでした。まことに残念ですので、記録テープをお分けしたいと思います。

主婦に取ることができ、実際に役立つ資格の情報が得られます。お友達とお聞きになってはいかがでしょう。テープの長さは九〇分です。

## ●講演・生きる資格・生きない資格

原田静枝（わいふ編集部・再就職アドバイザー）

お申込は編集部二六〇―四七三七へ  
お値段は一本三千円です。

っていると言えましょう。だから、逆を言えば人間を相手にすることが、とても苦手と言えます。

人間の心というのはたいへん曖昧で、移ろいやすく、つかみどころがありません。自然のように公式どおりにはいかず、顔で笑っていても心で泣いたり、怒ったりしている場合が少なくないからです。

ところが、理系の人間は、人のことばも自然現象同様ともに受け取り、信じてしまいます。この辺が、心を読めない、気がきかない、おもしろみに欠けると言われるゆえんでしょう。が、同時に、人のことばを曲げて解釈したり、裏をかんぐったりするということもありません。

けれども、人間だの自然だのと言っても、究極のところは同じところにたどり着くような気がします。

私には、人間の存在や喜怒哀楽も、大きな宇宙から見れば、ほんの自然現象の一部にすぎないような気がするのです。

もちろん、その中でお互い労りあい、楽し

く暮らしていくことを考えなければいけないのです。

## 二〇〇号を読んで

神奈川県横須賀市 松本 弘子

「一つの原稿から何冊の本を？」とおっしゃる山本さん、私にも同じ経験があります。B氏の作品集をムリして三冊買ったところ、半分は前に出た別の作品集と同じ、しかも、一部はそのまた前に出た本に収録されているのですから、まるでサギにあったよう。

出版界に詳しい友人に、「そんなの常識、売れる作家の作品は手を変え品を変えて出すの」と言われて、なるほど商魂たくましいのは出版界として例外ではないと、以来注意して購入しています。

「教師とケンカする法」の門野さん、気がついてみたら学校教育イコール軍隊づくりになっっていたでは取り返しがつきません。そうはさせじと親はしっかり目を開いて、はつきり



横山浩司

## 子育ての社会史

子育ての知恵を発見する聞き書きを中心に、子育てを生活史、社会史のなかに位置づける。 2200円 250

H・E・シューウォーツ  
北野弘久・神長勲・神長百合子訳

## ローヤリング

ウォール街も、法廷も、「運動」も男社会だった。アメリカ女性弁護士ヘリーンの闘いの記録。 3000円 300

## 富士谷あつ子・上杉孝實 学び働く女の時代

生きるために学び、学びつつ生きる女たちの意欲と行動力を支えるための指針を示す。 1900円 250

国際女性学会編

## <女と仕事>の本 2

1975-1984 働く女たちをとりまく現状を探り今後の課題を考える。既刊1〔1945-1974〕 各2000円 250

## ディクソン／加藤愛子訳 オーストラリアの 女性哀史

抑圧された女性像の脱皮をめざした近代における豪州女性のアイデンティティの探究。 2200円 250



勁草書房

東京文京後楽2-23

☎814-6861 御東京5-175253

もの申さねばならないと思っているのですが、制服の是非を問うと親はこぞって大賛成、ついでに文具の類も定めてもらったほうが良いと言いつつ始末、親が寄ってたかつてタイヤキ工場化を進めているようなものです。「子供会は必要だろうか？」の小川さん、私の町でも子供会は盛んです。小・中学生はみな会員、行事はもり沢山、役員たる親たちが企画、運営して、手取り足取り子供を指導するわけです。役員には、私のように子供会嫌い、ないほうがいいと思いつつも止むなく関わらざるを得なかった者、反対に子供会大好き、子供会が生甲斐、だから子供が成人してもまだ関わっている人もいます。保守系議員の選挙母体化しているような子供会もありま

す。昔から今に至るも軍都に違いない横須賀の、戦前から住民のさして変わらぬわが町の、子供会の体質はご想像におまかせしますが、八年間関わってみて、矢張りあったほうがいいのではないかとこのごろ思うようになりました。嫌いだから不参加、不要と言えは簡単ですが、一皮むけば問題の多い地域社会にあって、隣近所の付き合いが断ち消えてしまったに等しい今日、地域の親たちが多少なりとも交流する場があるのは子供会だけといってもいいくらいなのです。問題が少しでもホッとして話し合えるような何とか頑張っているというときには「いや」と言える仲間を作っておかねばと思うのです。

「三宅島の米軍基地」の近藤さん、私も反対運動を応援します。逗子の米軍住宅にせよ、戦時中の「軍の命令に不可能はない」さながらの有無をいわせぬ横暴を、再び許してしまふ事態に、歯止めをかけなくてはなりません。「原発」も同様ですが、不要なものを建設して大もうけするのが、大企業と一握りの政治家なのです。住民には、とてつもないゴミと騒音と、心の荒廃だけが残されるのです。雑誌「世界」六月号に鎌田慧氏が書かれた三宅島の実情を、一人でも多くの方に読んでいただきたいと思います。日本という国がよく分かります。

(え・早乙女光子)

# おんなの道楽

女が何かをやればどれでも道楽、ウレシイ！

## 太極拳一泊合宿体験記

大阪府豊中市 加藤 君子（42歳）

六月十四日、新大阪九時四十六分発の

新快速に乗り京都まで出る。そこから一時間に一本しかない湖西線に乗り換えて約一時間、目的地近江高島に着く。車窓からはもう田植えの済んだ田んぼの早苗が緑も少し多くなって美しい。

参加者の顔ぶれを見ただけで、とても心がワクワクしてくる。総勢二十七名で、七十五歳のおばあちゃんから二十代の若者まで老若男女のことば通りの集団にな

った。

この合宿は、日中友好協会の大阪府連合会西支部が主催し、各地区の教室の生徒に呼びかけ、また京都、奈良、兵庫、名古屋の指導者の方にも来ていただいて開催した。私は一年ほど前から東淀川の公団の自治会サークルに所属して練習している。

さて、いよいよ一時から旅館所有の体育館で開講式をして、中国音楽にあわせ

て、中国式ラジオ体操のような準備体操をし、練習歴にあわせて四つのクラスに分かれて、太極拳の練習に入った。年配の方々もおられるので、途中何度も休憩を入れ、五時まで練習が続いた。

太極拳はゆっくり動くので、一見簡単そうに見えるが、足腰がしっかり安定していないと動作が滑らかに進まず、とてもむずかしい。動きがゆるやかなため、お年寄りの運動のように思われがちだが、これもれっきとした中国武術であって、気を入れてやればけっこうきつい。

お風呂で汗を流し、夕食は昨今はやりの「グルメ」とは縁遠く、一皿盛りのおかずと大きな碗盛りの飯と味噌汁だけ。だけどビールはたくさんあった。合宿所にふさわしく、ゴツゴツのテーブルにつき、全てセルフサービス。こんな夕食でもよい汗を流した後はお腹はペコペコで、私は全部たいらげてしまった。

続いて部屋へ帰ってからの交流会は最高に盛り上がった。



一人一人の自己紹介があり、短いことばの中にその人の年齢の重みや、太極拳への情熱が伝わり、また日中友好協会という民主団体の平和への願いが、お一人お一人の体験の中から出てくることばによって、具体的に私の中に作られていく。

独身女性の方の参加も多く、とかく主婦という狭い世界にどっぷりつかっている私にとって、何かと世間では差別をうけておられるであろう彼女らが、伸び伸びと活動しておられる姿をまのあたりにして、うれしくなった一方、主婦にとつてこのような一泊合宿でさえ、夫や子どもが足かせとなつて出にくい現状も見落とせない。

翌朝六時過ぎ琵琶湖畔に出て、さわやかな風をうけて練習した。体育館の中では味わえない松林の中での太極拳は、交流会の寝不足でガンガン頭は痛かったが、<sup>いつとき</sup>一時の清涼感をもたらしてくれた。一時間半ほど練習し、朝食を済まし、また九時から練習再開。昼食で一時間休んで二

時半まで練習が続けられた。閉講式後、あわただしく後片付け、部屋の掃除までして急いで大阪へ帰った。帰りの電車は日曜日とあって、比叡山、琵琶湖バレイ、

比良山等々のハイキング帰りの人達で、少し混んでいた。明日からまた主婦に戻らねばならない。アーア。

(え・カステラネンコ)



投稿ホットライン——ずっとこけた・ぶったまげた・頭にきた・ジーンときた

# エッセイスト・クラブ

あの日のこと、この日のこと、つれづれなるままに……書いてみよう。  
読んで面白い、読ませて喜ばれる、大傑作集

## 婦人科検診

大阪府豊中市 高宮 みか

婦人科の検診を三年も怠っている。

そんなところへ親しい友人が、子宮検診の結果再検査を通告された、と不安そうに電話をかけてきた。

気になる兆候があったので検診をうけ

た、という。

私にはさしあたって気になる違和感はない、というと

「いいな」

と、小さな声が返ってきた。

さしあたっての異変がないうちに、定期的な検診を受けなければならないのは百も承知なのに、私にとって婦人科の検診ほど決心のなかなかつかないものはない。

新しい土地に越してきたりするとなおさらである。

近所の婦人科医院について、芳しくない情報を集めようと評判をきいてみる。

「とてもいい先生よ、お年もおとしだし」  
そういうのでは、明日にでも検診を受けにいかなければならず、困るのである。

「だけど……」  
「だけど、なに？」

「はい、おわかりました。なにも心配ありませんよ、と、カーテンをさっと引いて、股の間から笑顔をつきだすの」

嫌だ！ そんなの。  
話を聞いただけでショックを起こし、一年はすぐに過ぎてしまう。

もう一軒、流行っている医院があるという。

「にこりともしないかわりに、思いやりのゆきとどいた感じのよい医師よ」  
そんなに非のうちどころがないと、本当に困るのである。

「だけど……」

「だけど、なに？」

「先生はとても感じよいのだけれど、診察台の真上に、丸い大きな照明灯があって、その笠に自分の姿がまる写しなの」

嫌だ！ そんなの。

といつても、目をつぶっていれば見ないで済むわけだけれども……。でも、駄目！ 私にはもうすでにまる見えだもの。かくして、あつという間に二年は過ぎしてしまう。

「あら、あなた、何をそんなに意識しちゃって、私なんか半年に一度、かかさず検診を受けるわよ」  
と、いう人に会った。

いったい、どういう気持ちの持って行きようをしているのか参考のために聞いてみようとおもったのが、そもそも間違いのもとで、決定的な衝撃をうけた。

その日は朝から風呂にはいり、身体をくまなくきれいにみがきをかける。その辺までなら私にだって納得できる。当然の礼儀だろう。

ところが私より七歳年上の彼女の場合、自分が見られる立場になって、一度自ら点検するという。

「え！ どうやって？」

「かがみでよ」

平然と彼女はいつてのけた。

「わかった、わかった。それで？」

まだ自分が充分若さを保っていることを確信し、事にのぞむのだという。

だめえ！ そんなことできない！

仮に出来たとしても、見る目を全く養っていない。万一、見る目を養ってあったとして充分若さを保っている自信なんて、いったいどうやって持てるというの？

かくして三年は飛ぶように過ぎ、なんとか事なきを得ているけれど、友人のかぼそい声が

「いいな」

と、耳にこだまして眠れなくなる前に、明日こそ決心して朝風呂にはいろうとおもう。

# 台風銀座の島

福岡県福岡市 池田 洋代

台風銀座といわれる宮古島に転動した当初、公務員宿舎の在住者たちは、かつての台風のすさまじさを話してくれた。雨戸のない宿舎の窓が割れ、部屋中の家具が次々に反対側の窓から外へ吹き飛んでいった家もあったとか。

「もし窓ガラスが割れたら、子どもさんは窓のない風呂場に避難させなさい」などと聞くと思わず体がひきしまる。

六月から十月ごろまで、台風はひんぱんにやってきた。大きいのが小さいの、憎らしいことにアベックでくくることもある。上陸したならば、いつも長の滞在だ。宿舎の中庭にあるバショウの葉は、大粒の雨と強い風に踊り狂い、びっしり茂ったデイゴは引きちぎられていく。鉄筋

コンクリート三階建の家が、かすかに揺れる。サッシ窓の分厚いガラスは、これが限度とばかりに仕なってくる。サッシの隙間から入り込んだ雨は、ポコポコと敷居に溜る。付近の民家はどの家も、シャッター状の頑丈な雨戸が付けてある。幸い被害に遭うこともなく、三回目の台風シーズンを迎えた。ベランダの前にあるデイゴの木にハトが巣を作り、二、三日前から母バトのおなかの下にヒナの姿が見られた。淡黄色のフワフワした毛をしている。せっかくヒナが産まれたというのに、台風が上陸してしまった。

激しい雨に打たれながらじっと座り、おなかの下にヒナをかばっている母バト。風は強さを増し、母バトの体がときどき

浮きそうになる。「がんばれよ、落ちるなよ」と声を掛ける二人の子どもは、雨の打ちつける窓を離れようとしなない。

翌朝、枯木のようになったデイゴには、巢の形もなく、ハトの親子もいない。まだ雨も風も強い。

二日後、やっと雨がやみ薄日がさしてきた。ベランダに出てみると、向い側のテニスコートの柵にハトが一羽止まっている。

「さっきもきてたのよ、あのハト。母バトかしら、ヒナを捜しにきたのね」と、となりのAさんがベランダ越しに話しかけた。「ゼゼーポッポー」と鳴く声が切ない。

突然Aさんが「キャーッ」と叫ぶ。

「あそこ、あそこよ」と指さすほうを見ると、巣のあった木に、二メートル近いヘビが登っている。デイゴの枝に付いている小さなトゲもなんのその、二つに割れた細い舌をチラチラさせ、眼は一点を見据えて必死に登るさまの速いこと。体の茶色が木の色と似ていて、波うつ腹の白さが目につく。巣はなくなり、ハトもないというのに。嗅覚の鋭さに驚く。

巣のあった場所まで登ったものの、目的の獲物はいない。所在なげに首を振り振り方向を変えて下りだした。Aさんの悲鳴に駆けつけた住人たちが、「ハブじゃないか?」と木を見上げて騒いでいる。猛毒を持ったハブが人家近くにいてなんて怖い。

風で飛んできた棒切れや木の枝を手にした二人の男性が、根元近くまで下りてきたヘビを一撃した。誰かが連絡したのか、パトカーがやってきた。動かなかったヘビを棒の先で転がしながら、二人の若い警官はハブではないことを見定め

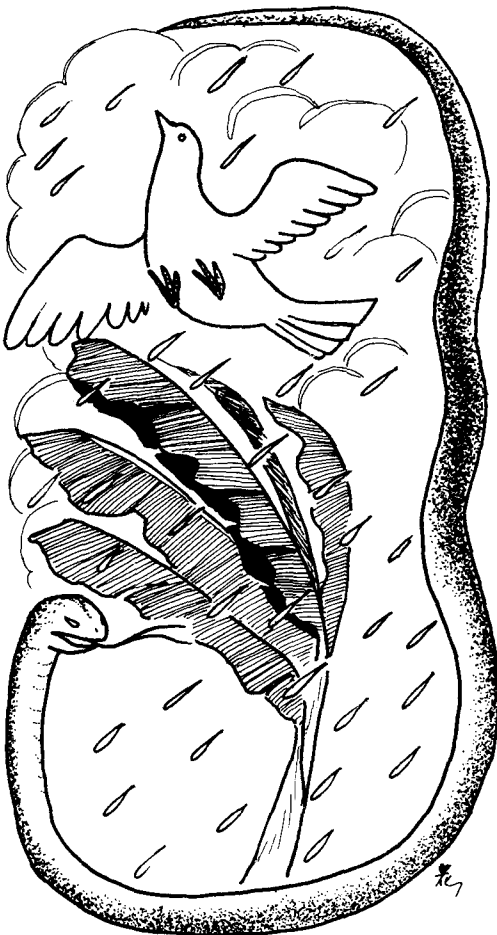
た。

沖繩の島々は、沖繩本島から一つおきにハブが生息するといわれている。したがって、本島の次に位置する宮古島にはハブはいないと聞いていたが、やはり本当だったと安心した。太い紐のようになったヘビを重そうに片手にぶら下げて、警官は引き揚げた。

三年間の任期を終え、私たちは本土に

戻った。後任のI氏からきた最近の手紙には、宮古島のあの宿舎に雨戸が取り付けられたとあった。次々にきては銀座通りを暴れ回る台風たち。雨戸があれば、宿舎の住人たちも安心して台風に対応できると思い、ホッとした。

願わくば、島の人家やサトウキビに、今年も被害がありませんように。



# ナチュラリスト志願

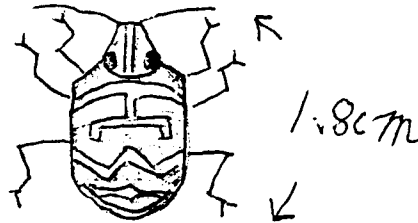
神奈川県横浜市 北川 淑子

十数年前の十月の話。その日の探鳥会のリーダーだったH氏が、キブシの葉をクルリと裏返した。そこには直径一センチ余りの丸に近い隋円形の黒い虫が、何匹か固まってしがみついていた。黒地の下半分には白い半円状の筋があり、洋服のボタンのようで可愛らしかった。

「何ですか、コレ」

「アカスジキンカメムシの幼虫です。金緑色の地に赤い線の模様がついた、綺麗なカメムシです」

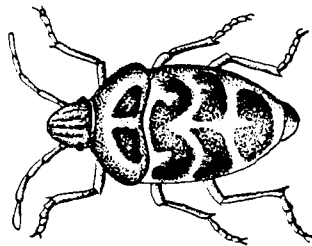
カメムシなどというものは、本来たいして美しくもなく、誤ってつかもうものなら、はなはだ気分の良くない臭いを発



娘(桂子)の描いた図と  
図鑑からのコピーです。

する虫で、子供のころから虫好きだった私であるが、どうも好かない、興味の湧かない虫であった。

ところが、金緑色の地に赤いスジだな



赤と金緑色のしま  
をもつアカスジキン  
カメムシ

なんて、そんな極彩色のカメムシがいるのならば、ぜひ見たい。これは名前を覚えておかなくてはと、この長たらしい名前を友人と二人で分けて覚えて帰った。友

人は「アカスジ」私は「キンカメムシ」と。

気をつけていると、我が家の近くの雑木林でも、木や草にへばりついているこのカメムシの幼虫をよく見かける。しかし、見る目がないせいか、美しいという成虫にはトントお目にかかることがなかった。

六月三日の夕方、「自転車に綺麗なカメムシが二匹ついているよ」と娘。「どんなの」「緑色に金色のスジが入って、模様みたいになってる」「えっ、ひょっとしてアカスジキンカメムシ？」

臭いから嫌だという娘にビニール袋を持たせ、持って来させてみれば、確かに図鑑のとりのアカスジキンカメムシ。妙にエキゾチックな虫である。しかし、二匹ともアラビア模様のような背中のスジはアカではなく、金色をしており、キンスジキンカメムシと呼びたいような体色である。

ともかく、やっとお目にかかった嬉しい

さに、「まあ、珍しい。よく写生しておくといいね」と描かせたのが、同封の図。

どうしてこんなにハデな色合いなのか、本で調べてみると、鳥などの捕食者に対し、「私は臭いカメムシです。食べてもちっともおいしくありません」そういう表示に目立つ色をしているとある。南洋にいるチョウチョの仲間に多い生活の知恵、種族保存の知恵と一緒である。たいていは、マズイ味のチョウに似せた羽色を持つ、おいしいチョウがいるものだが、アカスジキンカメムシのオイシイそっくりさんは見当たらない。「綺麗なバラにはトゲがある」「綺麗な虫には悪臭がある」願ひ叶って十二年目にやっと出合えた虫だけど、結局、手のひらに載せてじっと観察することもなく、ベランダから逃がしてしまった。

逃がした後で、考えた。十二年も心の隅に引っかかっていたものを、たとえ小さな虫にしても、一瞬、満足すればそれっきり。「ファールブルには、なれないな」

## わいふ原稿整理方針

◆投稿誌であるので、「原稿尊重」の方針で整理しています。

◆常用漢字表にない漢字または読みであっても、間違いでない限り、原則としてそのまま載せています。ただし次のような語はかな書きに直しています。

又↓また 程↓ほど 位↓くらい 為↓ため 事↓こと 丈↓だけ 方↓ほう 様↓よう 御↓ご 迄↓まで etc

◆送りがなについては、一応次のような方向で統一しています。

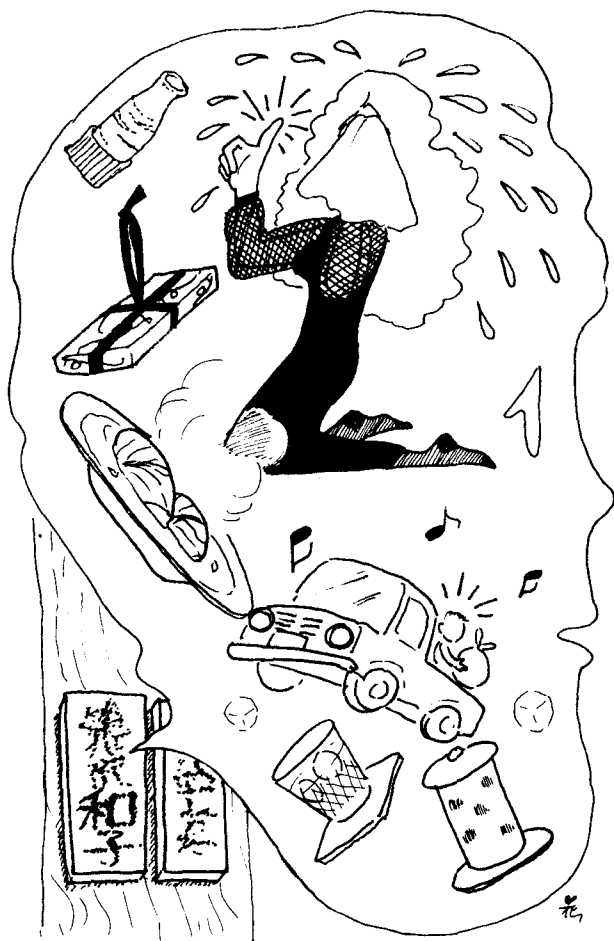
例 変(わ) る↓変わる 浮(か) ぶ↓浮かぶ 話(し) 合う↓話し合う 気持(ち) ↓気持ち 行(な) う↓行なう 表(わ) す↓表わす

◆用字用語の原則は三省堂発行「用字用語辞典」に準拠しています。

◆ハガキ以外の投稿は必ず原稿用紙にお願い致します。

# 姓が変わった表札

東京都多摩市 荒井 明子



「吉田和子」、表札には確かに、そう書かれている。私が彼女所有のこのアパートに住んでいたのは、二十年ほど前のことである。当時、彼女は銀座のクラブのホステスでもあった。

アパートで会う彼女は、いつも素顔で、掃除、洗濯と、クルクルとよく働いた。

私の部屋と彼女の住まいは廊下でつながっており、ときには押しかけてきて、豆ごはん、あさりと豆腐の煮物、ロールキャベツなどの料理を教えてくれた。夜には遠慮がちのノックがあり「お菓子があるから、お茶飲みにいらっしゃい」と誘われた。別の夜は、ちょっと荒いノックがあり「ねえ、飲みにつれてってあげるヨ」と、飲み足りない顔で現われ、二



人で、飲み屋、すし屋と回り、午前様で帰って来た。帰りぎわには、あまり飲めない私のために、いつ用意させたのか、すし折りを私に持たせ「お夜食よ、」と気をつかった。

めずらしくお化粧していると思うと、おどけた顔で、

「今日は、コレが来るのよ」と、右手の親指を立てて見せた。そのころになって、私にも、彼女がいわゆる二号さんらしいということがわかってきた。

ある夜、久しぶりにノックがあつて、お茶に誘われた。が、いつもと様子が違い、彼女は、ウイスキーをストレートであつた。目の前に私がいるのに、一人言のようにつぶやく。

「具合が悪いのは知ってたわ。でもお見舞には行けないじゃない？ そんなことしたら、家族の人にも悪いもの……」

「ねえ、そうでしょう？」今度はにらむように私に同意を求めた。

「具合が悪いんですか？」私はつまらな

い質問をしてしまった。

「……死んじゃったのよ」

クールな言葉で自分を支えていたが、やがて、その顔はゆがみ、涙でグショグショになった。主語ぬきの会話であつたが、誰の死であるかは、すぐにわかつた。彼女の複雑な立場はわかるものの、私には慰めようがなかつた。側にいるのが辛く、帰ろうとすると「もうしばらくここにいて、」と言う。こんなに弱く、こんなに荒れた彼女を見たのは、はじめてであつた。

しばらく彼女を見かけない日が続いた。いささか私には持て余し気味の大家さんではあつたが、姿を見かけないと心配であつた。

ある春浅い日曜日、めずらしくドアがノックされ「話したいことがあるの……」と言う。元氣そうなのでホッとしてお茶を、ごちそうになる。「話って何かな？」と思つていると突然、

「私、結婚するの、」

私に、何も言わせないほど、強い口調であつた。「彼女は、真剣なんだな」と私なりに納得した。店の常連客にプロポーズされ、決心したという。

相手の男性には、自分の衣類と車だけ持つてここへ引っ越して来るよう頼み、あとの財産全てを、離婚した妻や子供に残すように頼んだという。いかにも彼女らしいと思う。

気持ちちが落ち着いたのか、いつもの彼女にもどり、照れたように、

「籍は、あと半年ぐらい入れないの。本当にうまくいくかどうか、わからないものネ。この人とやっていける、と自信がついたときに、籍を入れようと思うの。だから、しばらくは改姓しないわ」と言つた。

私は、その結果を見ずに、アパートを引っ越した。

今、格子戸の柱には、ご主人の表札の左に、改姓された彼女の表札が、落ちていた色あいで並んでいる。

# サービス券地獄

茨城県北相馬郡 勝浦恵美子

物を買えば買うほど、お金を払った上に労働を課せられる。

いつの時代の、どこの話？

現代の日本の話。

スーパーでもらう××チップなるサービス券。帰って、その手で台紙に貼るなんてマ・メなこと、生来の無精者の私にはできかねる。そこで、空になったティッシュペーパーの箱に放り込んでいくのだが、ほどなく必要になる次の箱。そうすると、これを台紙に貼りつける作業は、もはや、れっきとした労働だ。

私、労働よりは本が好き。ここは、得意な他力本願で楽をしよう。

まず目に入るのは、水割り片手に、何時間でもテレビっ子の夫。

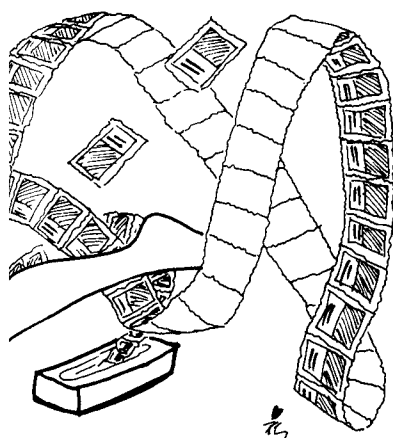
「見ながらお願いね」

とチップス入りティッシュの箱を押し付ける。

「バカ！ こんなこと出来るか！」

どなられて、初回にして失敗。

次に頼るは、身内の女性たち。一時帰国の上の妹を、実家に迎え、女同士が炬



燵談義のある夜、持参した××チップの袋詰めを取り出した。

「唯しゃべっていても、時間がもったいないでしょ。手を動かしながら、おしゃべりして」

ここで一分、あとで二分と、展覧会用の墨をすり溜める母。制服を着がえる間にも、英会話のテープのスイッチを押していた上の妹。気が向けば、本を丸ごと暗記できる下の妹。こういう勤勉な人たちの手を借りると、果たして、山なるチップスは一夜で、台紙数十冊に収まったではないか。

が、代わりに、私に向けられる非難ごうごうの集中砲火。

「こんなお店、行くのやめなさいよ」

(そももいかないのよ)

「券はいりませんって言えば？」

(スーパ―に得をさせるわけ?)

「台紙に貼らないで持ってたなら？」

(数えられないでしょ。断られるわよ。私、気が小さいから、とてもじゃないけど……)

「糊のせいで手がかゆくなっちゃった。

ほら、真っ赤！」

(はい、クリーム)

「内職の封筒張りしてる気分！」

(やったこともないくせに)

皆様、ご苦勞様。景品でお礼をしたいところだけど、四個も、では、ろくな物がもらえない。私一人、遠慮したら、叱られただけ損じゃない。やっぱり、ポット一個もらって、三人へのお礼は今度しよう。

一息ついたのも数か月。知らぬ間にチップスはふえている。上昇一途の体重や、ちらほらの白髪より、ふえている。

ある日、自宅で教えている英語の生徒



の女子学生、ふと「何かを貼るのが私の趣味」と言う。変わった趣味ね。あっそうだ、ハタと膝を打った私、  
「これ、いつでもいいから貼ってきて下さらない？」

なんだか、出来すぎた話。だけど、趣味というからには、一日中でも、やりたいのでは、と思ったまで、お礼に何がいかな、ぐらいいは考えていた。

何か月か過ぎた。彼女のお母様が、お中元を持って、たずねてみえた。手には、のし紙付きの包の他に、なんと、糊とチップスでふくらんだ台紙六、七冊。

どうやら、あの子、趣味とかなんとか言っていたが、飽きてしまつて母上に押し付けたらしい。パートで忙しい母上に、「どうぞ、これはお宅様でお使い下さい」と恐縮の体の私。いえいえ、と再度おし返される。

とんでもない先生だ。宿題の代わりに、つまらぬことをさせるとは。息子には、親ばかりから、一層勉強しなくなりはし

まいかと、頼まなかったことを、生徒にさせるとは。赤くも青くも、恥じ入ったのである。

これに懲りた私、もう景品なんか、どうでもいい。とはいえ、ぎゅうぎゅう詰めの箱を見るたび、責められるのは我が身の怠慢さ。精神衛生上、考えなくては、親しい友人に、例の箱ごと、どんなあげてしまうことにした。彼女は××チップ歓迎派で、それもそのはず、東大卒の君さまが、テレビの前で喜んで貼って下さるのだそう。いいわねえ。人のいい彼女は、「貼れたらお返しするわよ」と言ってくれたが、とんでもない。そういう図々しいことは、こりごりだ。どうか、どうかお使い下さい、と、きっぱり。

そうは言ったが、気前のいい彼女のこゝと、折を見て、到来物の和菓子や、サラダ油、手製のパンやケーキを届けてくれるのは、まちがいない。つい、こう思ってしまった、思った自分に、また、恥じ

入った。

罪もない人間を、何度も恥じ入らせるなんて、恥を知れ、××チップ！

だが、せっかくの良策も、長くは続かなかった。チップスの貼り手さんが、パソコンに転勤となり、彼女も一緒に日本を離れてしまったからである。ああ。

双児の出産でパニックだった昨秋は、広島から助っ人の、夫の母が、あるだけ貼ってくれた。助かりました、とカタログを広げる。

「お好きなものがありましたら、取り寄せておきますけど」

「年を取ると、欲しいものが余りなくなるんよね。あなたの欲しいものにしない」

むむ。

さて、現在、チップスはいかに。ティッシュの一箱から、はみ出ばかり、またも適正在庫を超えようとしている。この数年、「甘えの構造」そのままに、切り抜けてきたが、この先、女性よ、人に頼

るな、となると、いかがしたものか。

頭を抱えている折も折、夫が別のサービス券を手に入れてきた。いい酒屋を見つけたという。野菜や缶詰も必ずくれるという。

「なによ、これ!! これだけ××チップで困っているのに、こんな馬鹿らしいものって、あなただって、いつも言っているじゃない! 今度から、券はいらないって言って! 代わりにまけてもらってよ。それとも、おまけのトマトをもっともらうとか。個人商店だから融通きくでしょ」

「だけど、これ××チップより効率いいんだから。この紙一枚に貼ったら、五百円のものとか換えてくれるって」

「私は絶対はりませんからね!!」

夫はしぶしぶでもなさそうに、自分で貼ってしまった。

券の分だけ高い代金払って、その上、時間と労力を払わされて、誰も文句を言わないなんて。これ、現代の日本の話。

投稿ホットライン——楊枝で重箱の隅をほじくろう！

# マスコミむしる

## 女性の名前 何故出さぬ

香川県丸亀市 山田 幸子

いささか旧聞に属するが、東京サミットと続いて行われた英国皇太子夫妻の、歓迎宮中晩さん会席順名公表に、ともに奇異な感じを抱いたのは私だけだろうか？  
というのは、図のように皇族や政府関係者の出席者のうち、夫人たちの名前がスッポリ抜け落ちているからである。彼

山崎駐英大使  
最高裁長官夫人  
中曾根首相  
衆院議長夫人  
三笠宮妃殿下  
高松宮妃殿下  
礼宮殿下  
皇太子妃殿下  
天皇陛下  
ダイアナ妃殿下  
浩宮殿下  
常陸宮殿下  
三笠宮寛仁親王妃  
高田宮殿下  
英大使夫人  
木村参院議長

### 宮中晩さん会席順（中央部）

外務次官夫人  
矢口最高裁長官  
参院議長夫人  
ジフアード英大使  
高田宮妃殿下  
三笠宮殿下  
秩父宮妃殿下  
チャールズ皇太子殿下  
皇太子殿下  
常陸宮妃殿下  
高松宮殿下  
三笠宮妃殿下  
三笠宮寛仁親王  
首相夫人  
坂田参院議長  
駐英大使夫人

'86・5・14（水）朝日新聞

女たちはすべて、「妃殿下」もしくは「夫人」としてしか列記されていない。どうして「妃殿下○○さま」ないしは「夫人△△さん」とネームを入れないのだろう。夫たちはそれぞれに、個有の肩書きや氏名をもって発表されているのに、夫人たちはまるでサシミのツマのような、添えものとしての存在感しか伝わってこない。

唯一の例外はダイアナ妃である。さすがに「チャールズ皇太子妃殿下」では、ぐあいが悪かったのだろう。これは、報道陣の責任だろうか？ それとも政府（宮内庁）段階での発表なのだろうか？ いずれにしても、男性主体の社交界、ないしは政経界（サミット）を象徴するものとして、妙に印象深く残っている。（編集部で朝日新聞社会部へ問い合わせたところ、「字数の関係で削ったかもしれないが、誰がやったか分かりません。宮内庁で発表した通りでしょう」と木でハナをくくったような答えが返ってきました）

# 業界の裏側を見た

東京都江東区 匿名

## 簡単で金になる

## 仕事？

遠くて長い道のりだった。私が七年前にその仕事を始めたのはちょっとした偶然からだ。

当時乳飲み児を抱えていて金は欲しい、されどフルタイムで働くほどの決断もできかねる、という宙ぶらりんの状態だったときに、「子どもからの自立」という本を読んだ。その中の「主婦とは健康な成人なのに働かなくて当然と思いこんでいる不思議な人たち」という一文に出会い、はじかれたように働く決心をした。

赤ん坊を抱えて毎日働くのはきついから、初めは月の半分ぐらいアルバイトでもしようと軽い気持ちで知人に相談したところ、その人が簡単で金になる仕事を紹介すると言う。仕事の概略は一応説明されたが、想像力の貧困な私はたいした警戒心もなしに、翌日にはその仕事をするための面接に出かけていた。

その日から七年近くも続けた仕事であったが、私は長い間周囲の人には自分している仕事を隠していた。かりに話したとしても都合の良いさわりの部分だけを話したのは、私の自尊心をいたく損なうような仕事であったからだ。

その仕事は生命保険の調査だった。生命保険の調査には二種類ある。一つは入院時の健康調査であり、もう一つは入院給付金や死亡の際の保険金を支払う際に行なう調査である。

生命保険というものは自分から積極的に申し込むものではなくて、たいていはセールスマンに拝み倒され根負けしてしぶしぶ加入するものであるから、無理矢理入らされたとか、義理で入ってやったとか言う人が多い。自分から加入したいと申し出れば、何か意図があるのではないかと疑われるのがせいぜいである。

そんな性質の商品であるが、保険会社のほうではセールスマンが四苦八苦して獲得してきた客に対して、もろ手をあげ



# 私は保険

で歓迎しているのではないのだ。加入時にセールスマンが病歴を一応尋ねる建て前になっているし、有診査契約では医師の健康診断を受けることになっており、いわば二重の関門を通して加入者をチェックしているわけだが、そのうえにさらに、生命保険調査員によって病歴などの調査をされている、という事実を知る人は少ないのではないだろうか。

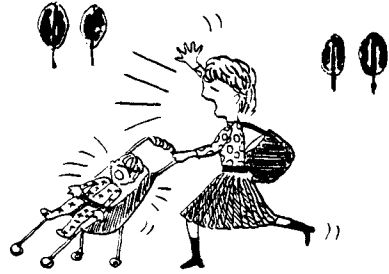
給付金や保険金の支払時の調査については、保険金詐欺などの犯罪報道など、ある程度は周知の事実となっているが、保険会社は加入者全体の平等をはかるという名目で、病歴のある者や、現在病気の人をふるい落とすための生存調査を、契約前後に行なっている。病弱者は将来給付金を支払う可能性が高いので、病气持ちをたくさん保険に入れば入れるほど支払額が多くなり、保険会社の取り分が減ってしまう。取り分を多く残すために保険会社はできるだけ満期まで死んだり入院したりしない健康な人に契約して

もらいたい。

そういう意図のもとに、契約時の生存調査が行なわれている。生存調査の歴史は古く戦前から行なわれていたという。私がりなりわいとしたのは契約時の保険調査であった。

## 近所を回って 聞きこみ調査

生存調査は具体的にどんな方法で行なうのかというと、契約者の住居の周辺の家を尋ねて、健康状態についての聞きこみを行なうのである。見知らぬ家のブザーを押し、調査員の身分は明かさず「何軒先の誰それさんの旦那さんは、今まで病气したり入院したりしたことはありませんか」といかにもさりげなく聞き出す。「あなたは誰でも何の目的でそのようなことを聞くのだ」と問われれば「保険関係の者ですが……」と口を濁し、「どこの保険会社か名乗りなさい」などと追及する人がいても決して会社名は言わずに帰



り、別のうるさくなさそうな人をさがして、病歴の有無をきいて帰ってくる、そういう仕事だ。

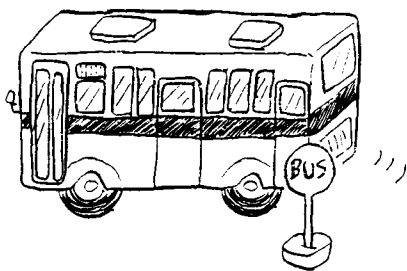
初めてこの仕事をもらったとき私は途方に暮れてしまった。赤ン坊を乳母車に入れ、目的地まで電車とバスを乗りついで出かけたが、いざ調査対象者の家の近くに行っても、近所の家のドアを叩く勇氣もない。声も出ない。人一倍ブライドが高いのに、何故こんな地を這うような仕事をしなくてはいけないのか、という思いと、折角働き出したのに、今やめてしまつては道は開かれない、との思いが私の中でせめぎあっていた。それでも仕事をもらった以上、やらなくては仕方がないので、なんとか声を出して所定のせりふを言ったのが三日目ぐらいのことだ。なにもこんなことをしなくても仕事はいくらでもあるはずなのに、と自問自答しながら足を棒にして一日歩き、聴取人から「ブライバシーに触れるようなことは答えられないよ」と言われて傷つき、

体中が疲労で綿のようになってきた。家で家に辿りついた。からだの節々が登山の後のように痛み、疲れて体が火のように燃えていても、夕食の準備や子供の世話をこなさねばならない。乳母車を押しての道行きでは私にも子供にも負担が大きき、数日後から実家の親に子守りを頼むことにした。

母が七時に家を出て八時半に私の家に到着すると、入れ替わりに私が出かける。三時半ごろ仕事を終えて帰宅すると、今度は母がさよならをして、五時すぎに家に着くという寸法である。

寝ても覚めても自分がこんな仕事をしているのが信じられない思いで、あした目が覚めれば状況は変わっているだろう、と夢うつつに考えながらも、朝起きれば、鞆にどっさり入った調査票をこなさねばならない現実の前に、仕方なしに重い足どりで家を出るのであった。母に来てもらう都合もあって、週二日だけ働くことにして、働く日は集中的に仕事をこなす。





そうやって得た最初の報酬は、七年前で月に八万円だった。月に十日の労働である。

## 病歴を認めたがらない 加入者

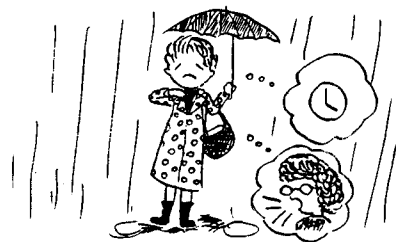
はじめのうちは近所の噂を拾うだけの仕事だったが、二か月ほどたつと、直接調査という仕事が入った。これは保険に入った人が病気であるとか、全快したが以前に病気であったなどという話を近所で聞いた場合、会社の指示で直接契約した人の家に向くのである。

本人が家族に面接して、調査員が病歴について知っているなどということはおくびにも出さずに、「何々様はこれまでお医者にかかったり、入院したり薬を飲んだりなさったことはありますか」と質問する。それだけの問いかけで「そうですね一度手術したことがあったわ」などと答える人はよほど無防備な人で、八割ぐらいの人は「病気なんてしたことない

よ」と答える。

そこで引きさがっては子供の使いで「検査などを受けたことはありませんか」とか「どこか具合が悪くて心配だったことはないですか」などとなんとか工夫して相手に病気だったことを言わせようとする。それでもだめなら「高血圧で薬を飲んだことはありませんか。胃潰瘍、肝臓病、糖尿病、胆石、ぎっくり腰になったことはないですか」と病名を羅列して迫る。

先に病気などしたことがないと言った同じ口の下から「ああ高血圧と言われたけど、薬をきちんと飲んでいるから具合が良いよ」と答えが返ってくる。薬を飲んでいると言わせたらしめたもので、あとは芋づる式に、かかっている病院名や治療期間を聞き出し、告知書という書類を取り出し、病名を書いてもらい、署名捺印をお願いする。同時に病院に行き、主治医に会って診断書を書いてもらってもよいという同意書にも署名捺印をお願い



いする。

この段階でやむをえずサインしてしまふ人と、契約に不利になるのではないかとちゅうちょし、サインを断わる人がある。またはセールスマンに拝み倒されて、入りたくもないのに無理に入ったのだから、保険をやめると言って怒り出す人もいる。強制できる性質のものではないので、相手が拒否すればそれまで、仕事は終わりである。

病気であったことを告知してもらおうとして、いろいろ工夫して問いかけても、頑として病気の経験はないと言い通す人も五割ぐらいはいる。そういう人には「健康でなによりですね」と言って帰ってくるしかない。しかし病歴を告知しないで保険に加入しても、入院などして給付金を請求したときに、過去にさかのぼってカルテを調べられ、発病時期が契約日以前とわかれれば、給付金は支払われない仕組みになっているらしい。

金を集めるときは笑顔で低姿勢に、金

を出すときは注意深く用心する。そうでなければ生命保険会社が銀行以上の勢力で融資額を伸ばし、都心にさん然と輝くビルを持ち、内勤社員にどっさりボーナスを出せるはずがない。

## 会社のしつこいやりと 辟易

直接調査を始めたばかりのころは、慣れていないので、何と話をしたら良いか見当もつかないまま、おずおずと相手の家に出かけたものだ。今でも印象に残っているその家は、職人さんの家だった。間接調査で二軒先の奥さんが内職の手を動かしながら「あの人は胆石で入院したことがあったわよ」と、いとも気軽に教えてくれた家だ。

会社の指示で当の家に行き、所定の言葉をやつとの思いで口から押し出すと、その奥さんは「病気は一度もしたことがないわ」と取りつく島もなく「診査を受けて入ったのに、なぜ同じことをまた



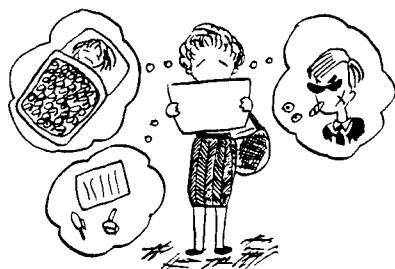
聞きにきたのよ」と怖い顔をする。「保険会社の指示で確認があがったまでで……」と、こちらはしどろもどろになる。胆石で入院したと隣人から聞いたので告知してもらいに来たとは間違っても言えない。

成果をあげられなかったことを報告すると、会社はもう一度同じ家に行って、今度は旦那さん本人に会いなさい、と指示してきた。普段働いている人なら平日に家にいるわけもないので、日曜日に出なければならぬか、と気が重くなる。土曜日ならいるかも知れないとかすかな望みを抱いて行くと、二十歳ぐらいの息子が一人で音楽を聞いていた。

「お父さんとお母さんは？」と聞くといないと言う。そこで何気なく「お父さんは前に入院してたことがあった？」と聞くと「はい」と言う。「どんな病気？」と聞くと「石ができる病気だった」と言う。「いつごろ？」と聞くと「大分たつから忘れちゃった」と言う。

一応家族から話を聞き出したので、もうこれで勘弁してもらいたい、と会社に報告すると、これだけ聞けたのだから、もう一度訪問して書類に印を押してもらって来い、と言う。あまり会社もしつこいので辟易したが、断わることはできないから、仕方なしにまた出かける。何度か無駄足を踏んでようやく奥さんをつかまえ、馬鹿気ていることは百も承知で「病気をしたことはありませんか」と同じ質問をくり返す。

「何度同じことを聞くのよ。うちの人は病院なんて大嫌いだから行ったこともないわ」とぞんざいに言われる。「でもね、この間息子さんがお留守番をしていたときにお聞きしましたが、前に何か入院したことがあったそうですね」「え？」「石ができたのかなんとかで」「あっ、そんなことだったの、前にね、ずっと前よ」「いつごろでした」「三年前かな、あつ四年前だわ」「それではこれに病名と病院名を書いて、署名捺印して下さい」こ



ういうものは相手の気が変わらないいうちに下手に出て書いてもらわなければならぬ。

ところが、相手の奥さんもなかなかしぶとくて「病院名を忘れたから書けないわ」と言う。何回足を運んでも交通費が出るわけではなく、調査料の中から足代を出さなければならぬので、こちらもいい加減うんざりしてくるが、旦那さんに聞いておいてもらうことにして帰り、後日また訪問してみると、「旦那も病院の名前を忘れてるし、ほんの二、三日の入院だから書く必要ないわ」とあっけなく断わられて、その件は終わった。相手のほうが一枚上手だったようだ。

この場合のように何度同じ家に足を運んでも、一回で仕事が済んでも、調査料金は均一なので、なるべく一回で終わらせないと、手取りが少なくなってしまう。調査会社は、紙切れ一枚の指示で調査員を自由に動かして、支払い額も変わらない仕組みになっているが、実際に動きま

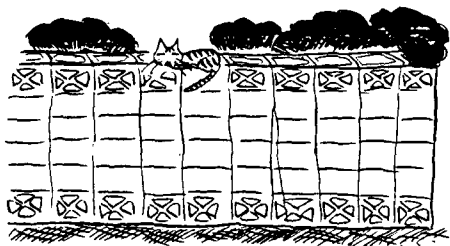
わるほうにとっては迷惑この上ない。こうして、一年目は月に十日ずつ半年働いて、パートの年間限度額に達してしまっ

## 歩く 人生の裏街道を

前述した調査は期限が三週間だったのと比較的余裕があり、予定を組んでこなせばよかったが、慣れてくるにしたがい、高額調査という急ぎの仕事が送られてきた。これは期限が四日と短いので単価は高いが、調査場所がとんでもなく離れているものが送られてくるので、先の普通調査と高額調査の両方を週二日の労働でこなそうとすると、出勤日は八面六臂の活躍をしなければならない。

バスと電車を乗り次いで、広い受持ち区域を縦横にかけずりまわると、排気ガスにまみれて埃だらけになり、口をきくのも厭になった。

この仕事は会社に毎日出社する必要が



なく、仕事は全て速達郵便で送られてくる。郵便が毎日ぼとりぼとりと玄関の郵便受けに落とされるたびに、開封するまでは行き先や指示内容がわからず、不安で憂うつになる。それでもやめずに続けたのは、週五日の自由時間が魅力だったからだ。

だが、この仕事は本当に精神的負担が多く、仕事に出ない日でも、きれいさっぱり仕事のことを忘れてしまうというわけにはいかなかった。

仕事を始めてから二、三年たつと、間接調査にかわり、病気の有無にかかわらず加入者本人か家族に会わなければならぬ、面接調査の比重がふえた。

間接調査は、誰でもよいから在宅している近所の人を探して、話を聞けばよかったが、面接調査は、指定された家が不在であれば、二度三度と訪問しなければならぬ。昨今は、妻も日中不在の家はざらであるから、何度行っても会えない家がどうしても全体の四割ぐらいいは出る。

会えなかったと報告してもよいが、それですんなり終わる仕事はほとんどなく、会えるまで行けとの指示が、日を置いて戻ってくるのが普通である。

電話をかけると、このような調査があることを知らない人がいぶかしがり、調べるなら保険をやめる、と怒り出して苦情になるのがつねであり、電話をかけて在宅を確かめて行くことは禁じられているので、いるかわからないかわからないのに、何度も足を運ばなければならない。

各種保険なし、交通費無支給、怪我をしても労災さえ適用されない。週二日の労働で年収三百万円をこえた年もあったが、老後の年金のことを考えると、各種保険完備の保険のおばさんのほうが、余程恵まれていると羨ましく思うこともあった。

この仕事は保険のおばさんの辿った道筋を追うので、豪邸を訪問することもあれば、トタン屋根が風に吹かれてパタパタ鳴っているような、今にも崩れ落ちそ

うなアパートの住人を訪問することもある。零細企業の経営者などは、保険に入ってた客だという意識からか、必要以上にでかい態度で威張っている人もときどきいる。

中年をすぎても内縁関係を続けている男や女などは、横丁に必ず一組ぐらいいたし、東映映画でおなじみの人たちも、普通の家庭を持ち、普通の人に混じって住み、近所の人がいい人だと思われて、ごく普通に住んでいるが、保険会社は道徳的な懸念がないか、一応心配するのだ。昨今は保険金詐欺などの事件が、週刊誌をにぎわしていることが多いので、健康状態にあわせてモラルの危険性がないかも調べるが、近所づきあいではわかる程度の情報や、五分ぐらいの面接時間では、この種の潜在的な悪意は見抜きようがない。

## 保険のホの字も 口にせず

この仕事を始めて数年たつと、会社の

方針が変わり、近所で話を聞く際に、保険関係の者であると名乗るのはもちろん、保険のホの字も匂わせてはならないことになった。「何町から来た誰ですが、何軒先の誰さんは近ごろ病気をしませんか」と聞けという。

つまり、保険会社もこのような仕事はやましいと考えているので、できるだけ保険会社の仕業だと世間に知られたくないが、さりとて情報は欲しい、というわけなのだ。

だが、見知らぬ家のドアを叩いて個人名を名乗ったところで阿呆と思われるのが落ちて、「あんた何屋さん、何の目的で聞いているのよ」と問い詰められるのが当たり前である。このように言い渡すことで万が一、契約者が「保険に入ったことを近所の家に話されて、あることないこと聞きまわられた」と告訴した場合に、それは何町の誰それが個人的に聞いたことで、保険会社とは関係ない、と言いのがれるつもりかとあんたんとした。いつ

までも続ける仕事ではないと骨身にしみて感じてはいたが、家を出ればパートタイマーの半月分ぐらいいを一日で稼げるペイの良さが、転身の気持ちさをまたげる。ひょっとすると、私は老人になるまでこの仕事を続けているのかも知れない。

出来高制の賃仕事であるから、賃金水準は何年たつても横這いであるというのに。

この仕事を続けている間、つねに、これは私のあるべき姿ではない、と思い続けてきた。だがあるとき気がついたのだ。本当はこれは実力に応じた姿なのではないか、と。そうこうして自分自身はなかなか変わることができないでいたのだが、世の中がプライバシー法案設立への動きを見せていくなかで、会社はある日突然間接調査を廃止し、全件面接調査に衣がえをした。

ただでさえ身動きがとれないのに、全件面接にこぎつけるにはどれだけ大変かと思うと、ぞっとした。それでも、怠け者の私が転職して毎日出勤するのはでき

ない相談だし、管理されると猛然とはみ出したくなるので、会社勤めは無理ではないかと思い、自ら状況を変えることができない。

全件面接調査を一月に二百件も抱え、行けども行けども不在の家が五割を越すという状態で、調査員のAさんが、会えなかった人に会ったと書いたことがばれて首になったという情報が入る。どこまで続くぬかるみぞという思いで、仕事を情性で続けていくが、困難な調査がやたらとふえていく。そこでようやく私も意を決して仕事を棄てることにした、と書けば格好がよいのだが、そうではなく、転機は別な形で訪れた。

## クビにされて 手にした自由

ある日、速達で送られてきた業務連絡を斜め読みしていると、思いがけない文字が目の中にとびこんできた。「あなたは病気事故発見率が低下したので、三か

月後に契約を終了致します」

本当なら憤慨するべきかもしれないが、その文章を読んで私はようやく重荷がおりて、すべての桎梏から解放された思いで、どんなに心が軽くなったことだろうか。その嬉しさは形容しがたいほどだ。一生足を洗うことができないと思っていた泥沼から脱出できたのが、信じられないくらいだった。

だが、保険調査をやめることができる喜びは別として、一時は最高年収三百六十万まで稼いだこの手が、もう一円も稼げなくなるのは許しがたいことだった。

私は履歴書をしたため、週六日も働く自信はないので、週休二日制の会社を新聞で物色した。とらばゆを買いいに出たりもしたが、本屋の店先で保育園時代の知り合いに「あなたの年齢なら、とらばゆを買っても無駄よ。職安に行ったらどう」と言われる。それでもくじけず求人欄を漁り、おずおずと面接に出かけた最初の会社で、なんと十一歳も若い子と

一緒に採用されたのだ。それも希望通り週休二日制の会社であった。

先の解雇通知を受け取って十日目に採用通知を受け、十一日目には十余年振りに、正社員としてオフィスワークに返り咲いたのだ。他律的であったが、人生の新たな局面を迎えることができたという喜びは、驚きに近いものがある。

今でも、とんでもない場所の調査を指示されて、溜息をついている自分を夢に見ることがあるが、この文章は隠したい過去を総括することなしには、一歩も進めないと考えたための結果である。また、このような仕事の存在は、保険会社が公にしたくない恥部であるうから、万が一同居の家族に迷惑を及ぼすことがあってはいけないと思い匿名にさせていただいた。

なお、私が働いていた調査会社の親会社である保険会社は、近隣調査を全廃したが、いまでも、近隣調査の形態を採用している会社が数社あるという。

(え・新井祥子)

投稿ホットライン——言うべきか言わざるべきか

# 親のホンネ

この際言っちゃう！親だから、感じるここといっぱい

## スローな娘のドツキリ発言

千葉県市川市 狩野 陽子



「おかあさん、暁子のこと本当に好き？」  
「好きに決まってるじゃない。嫌いだったら暁子が宿題忘れたって、勉強できなかったって関係ないもの、何も言わないよ。好きだから言うんじゃないか。黙ってるほうがラクなんだよ」と私。（本当は、黙っているほうがよほどの忍耐が必要なのは、世の母親の皆様はご承知でしょうが、この際は子供にこういえないでしょう）  
それに対する娘の答えは、思わず聞き返してしまうほど意外な言葉だった。

「ああ、よかった。もし嫌いだったら、暁子クズレてしまったよ」

一体どこから、崩れる“なんて言葉が生まれてきたんだろう。小学校二年生の子供の語らいの中に、自分が崩れる“なんていう恐ろしい言葉があるとは想像もしなかった。その言葉は反射的に、あの十二歳で自死された岡真史君、高史明さんと岡百合子さんの一人息子である少年の詩「ただ崩れ去るのを待つだけ」を連想させた。



もちろん、うちの娘がその詩集を読んだはずもないし、早熟で聡明だった真史君と共通する要素はゼロに近い娘だが、それでも子供にとって、共通の思考や感覚から生まれるものなのだろうか。だとしたら……。

娘の返事に一瞬言葉を失った私だったが、「バカだねえ、暁子を嫌いなはずないでしょ。大好きだよ」と抱きしめてやる。(内心の後悔を表に出さないように気をつけつつ)

それにしても子供は敏感だ。二年生の娘が私の母親としての未熟さについているのだから。確かに長女の言うように、公

平であるべき母親が、二つ違いの気のきいた妹や去年生まれた弟に比べて、自分を不当に扱っていると感ずるのも無理はないのだ。それというのも、何かにつけてテンポが遅く、気のきかない長女の姿の中に、私自身と似た部分を見ると、一層腹だたく歯がゆくてイライラしてくる。

以前、数人の母親が集まった席で、ある人が言った「自分の子供が(勉強が)できないのを見ると、自分が傷つけられる気がする」——名言だし真実をついていると、今つくづく思う。

だけど、何だって今の小学校はこんな

にスピードが速いのか。算数にしても国語にしても、親の私たちの小学校時代と比べてはいけなと言われるけれど、なぜそんなに違う必要があるのだろう。学校の授業だけでわかるのはムリだから、家庭で毎日必ず復習する必要があると先生自身がというような授業が、子供たちにとってどんなものなのか。

学校教育への疑問がふくれる一方で、現に落ちこぼされかかっていた娘を、何とか並のレベルまで引っっぱりあげるには、やはりやるしかない」と娘のお尻をたたき続ける毎日なのです。

(え・岡田正子)

## からだといのちと 食べものと

定価 一五〇〇円  
(千二百五〇円)

鳥山敏子

子どもたちのからだに生き生きとした鼓動を取り戻させたい、そう願う鳥山先生と子どもたちの学び合いの記録です。

## 別冊 百姓になるための 手引

定価九五〇円 (千一百五〇円)

一足先に農的くらしを始めた人々からのアドバイスや体験談、99人へのアンケート、実習受け入れ先の紹介など、「帰農」の流れにこたえる始めての実践書です。

## 七月二五日発売 自然食通信 28

定価四五〇円

### 特集 新しい野菜

従来の育種からバイオテクノロジーまで。

年間購読料 三三〇〇円(送料込)

ご注文の際は発売元・新泉社で  
東京都文京区本郷2-6-10

☎03(816)3857 振替・東京5-78026

自然食通信社

# 教師とカンケする法

⑥

東京都練馬区

門野 晴子

「帝国憲法」と化した  
校則

「みなりはその人の品性をあらわします。頭髮は、常に清潔を心がけ、特異な髪（パーマ、染髪、不快感を与える長髪等）は禁止する、と校則で定めています。お子さんの髪は長いからもう少し切れ、とその先生に言われたのでしょうか。五ミリ切れ、とは言っていないですよ。とにかく、全員の先生がいいと思わなければ、頭髮検査に合格はしないですよ」

私と高二の娘の前に冷笑を浮かべるのは、担任、副担、学年主任、生徒指導のいずれも中年の男教師。またおいでなすったな、とガン首を揃えて余裕しゃくしゃくのオジン連。

話は前々日にさかのぼる。夏休み後の恒例の頭髮検査。ほとんどの生徒はどうせ切らされるんだから、と夏休み中に伸びた髪のまま登校する。娘も当然検査に引っかけり、下校途中に美容院へ寄っ

て短く切ってきた。翌日、再度の検査では、担任、副担任はOKしたにもかかわらず、若い女教師ふたりがからんできたのだ。

「あと五ミリ切りい！」「何でやのん、こんなに短く切ってきたのに」「あと五ミリ切ったら可愛くなるで」「何やてえ！」

「可愛い女」と言われて、屈辱を感じる女のこもいることをご存じないナ。

女教師ふたりはロングのバサバサ髪で、娘はそれを指摘する。

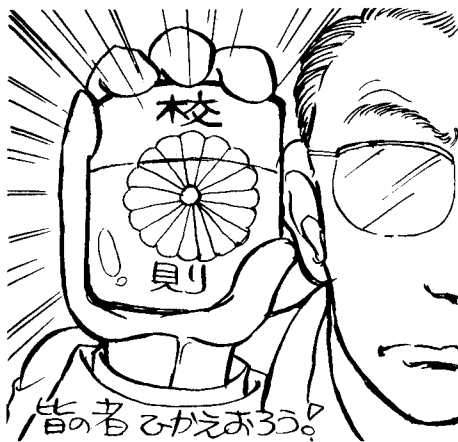
「先生かてそんな長い髪をしてるやないの。教育者がまず模範を示さなあかんのと違う？」

「アホなこと言うな。私らは先生やからいいのや。たかが五ミリやのに、何でそんなにこだわるの？」

「それはこっちが聞きたいわ。どういう理由であと五ミリなの？」

「五ミリ長いからや」

「これが私の限界よ」



「校則に限界はない」

「その校則じたい納得できへん」

「五ミリ切ったら、校則に対するモヤモヤがなくなるで」

校則——いまや「帝国憲法」と化したその脅威の前で、頭を突き出してトラ刈りにされる男子生徒。泣く泣く美容院へUターンして「これ以上どう切ったらいいのや」と美容師を嘆かせる女子生徒たち。切り捨てて免の校則は魂ぐるみの

「拘束」が狙いだから、五ミリであろうが五センチであろうが、服従度を試すイヤモンツケにはかならない。

高校生らしさとは何か、なぜあと五ミリなのかという話し合いを抜きに、有無を言わさぬ暴政が荒れ狂う学校という治外法権世界。生徒を殴る蹴る退学させるいや、水戸第五中の例をはじめとして殺しても罪にならない「教師天国」が、右の女教師の言葉に「そうや、そうや」と周囲の教師に口を揃えさせる。

「アウシュビッツみたいやないか！」と娘は叫び、ジャンボな十七歳が泣き泣き帰宅した。同校卒業の息子も髪が多くてターゲットになりやすかったが、ふたりとも自分で闘うようになっていたから、私はお呼びじゃなかった。だが、いまや「たかが髪の毛」の問題ではなくなってきた。モノ言わぬ親たちをいいことに「非行」の大義名分を掲げ、家庭ぐるみの支配をもくろむ学校と行政。

## 髪の毛五ミリ、 会議で検討

娘の「許し」が出て、私は高校に乗りこんだ。職員室に入って行って大声で怒鳴る。

「娘の髪をあと五ミリ切れと言った女教師ふたりに会いたい！」

昼休みでほぼ教師は揃っていたが、それが問題の女教師かわからない。担任がすっ飛んできて、私を小部屋に案内した。「あなたはOKしたんでしょ。女教師を出さない」

「いま会議中ですから、私がお話を伺います。お子さんも呼んできましょう」

「昼休みに会議なの。ヘー」

そこへ呼びもしない男教師どもが入ってきて、冒頭の間面となったのである。

「全員の教師がいいと思わなければパスしないなんて、教師の主観や感情次第だと白状しているようなものでしょう。あなたたちは授業で憲法の拡大解釈まで教

えるわけ？」

「いえ、校則の範囲内で検査しています」

「娘の髪をよく見てよ。これが校則の『特異な髪』にあたりますか」

「ですから、私たちはいいと思ったのですが、他の先生が少し長いと判断したので……」

「だから、その教師を出せと言ってるのよ」

「いえ、ですから、明日の会議で検討した結果、切る切らないをお知らせします」

「そんな権限があんたたちのどこにあるの」

「とにかく授業が成り立たないような髪をしている生徒もいるので、厳しくやらないと」

「話を娘にしぼりなさい。この髪をあと五ミリ切れば授業が成り立つわけ？」

「――」

私はついにケツをまくった。

「からだをはって子供を育てているんだ。

娘の髪がどうあろうと大きなお世話だ。

あなたたちがいまやっている『狂育』の結果に責任をとれないだろう。親はイヤでも永久に責任を問われるんだから、よけいな口出しをするな！」

眉つり上げた教師は何と言ったか。

「責任をとれるんですね！」

「ああ、見せてやろうじゃないか。何年先でも訪ねてきやがれ。いいか、これは人権侵害だ。娘の髪は娘のモノだ。五ミリだって命だ。手を出したらレイプだぜ」

「――」

教師どもは女ヤクザだと思ってビビッタろうが、私は映画や芝居で覚えただけである。いくらタンカが好きでもめったに使う機会はないから、それが試せたときは勝とうが負けようがワクワクしちゃう。この血は、浅草大空襲で死んだ祖母の隔世遺伝で、祖母とは六歳までしか暮らさないから（敗戦時、私は国民学校二年生）、ほとんど覚えていないが、長じて

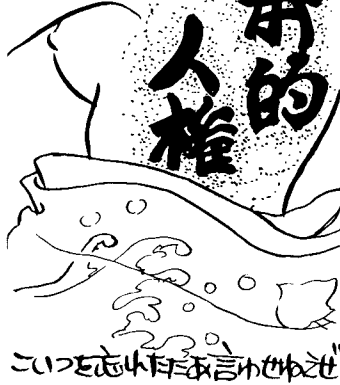
母に「おばあさんは昔、辰巳芸者だったんだよ」と言われて、ケンカっ早さを納得したものだ。

まあ、勇ましいいわね、とても私には（下品で）できないいわ、と言われそうだが、中高年の男教師が四人、口々に規則と言う前で、か細い（ホントに細い私）女がひとりで闘うには、このくらいの迫力を見せなければとても勝てない現実がある。

遠く法隆寺の伽藍を見ながら、斑鳩の延々と続く田畑の中を娘と帰る。「オバサン、お先に」と自転車で追い抜いて行



## 基 督 的 人 権



こいつと忘れようと言わねば

く子供たち。どの顔も「刑務所」から解放されて晴ればれとしている。と、自転車を止めて声をかけたカワイイ男の子。この年から大阪の大学に行った娘の恋人の弟で、同校の一年生だ。

「また何か悪いこととして呼び出し食ったんやろう」

「アホめかせ。こっちから乗りこんだのだ」

うれしそうな私に、娘が茶化す。

「ママ、あたしをダシにして遊んでるんや」

「ワハハ、そうやろな。兄ちゃんによる

しく。たまには帰ってこいと言うて」

と言ったのは弟である。兄ちゃんはこの年はじめ、つまり高三の三学期から、わが家に住みついてしまっている。

さて、会議の結果、娘は「切らなくていいです」と言われたのだ。母娘でうれしがってはいない。教師は頑張るべきだ。そんないい加減なことで注意したのではない。教育上これこれの理由でどうしても五ミリ切ってもらわなければ困る、と母娘を説得すべきだ。そういう信念があって、生徒と真剣に向かい合っているのではないのか。校則は生徒を人間として育むための座標軸なのです、となぜ胸をはって言えるものにならないのか。

五ミリの髪の毛も、三百万人の生命と引き換えに手にした民主教育も、譲り渡すことはできない。モノ言えぬ時代の轍を再び踏むのがイヤだからこそ、モノを言うのだ。教師の信念とは、平和への信念ではなかったのか。

（え・田井亮子）

連載⑥

# ただ一枚のチラシから



ポータル化粧品と私

東京都日野市 山口洋子

何のために働くか

一つの家庭の中の家族の一人一人がそれぞれの目的を持って生活しているように、働く目的も人によって、さまざまだと思う。

目的がはっきりしていて、職場の人間関係がうまくいっていれば、仕事はつらくても、何とか高波を乗り越えていけるようだ。

多くの働きたい女性に会って、この目的を聞くと、二十歳代の人は、「家賃くらいは自分で生み出したい」と言い、三十歳代になると、「自分と子供のために自由に使える分として、五万円くらいは欲しい」と言う人が多い。四十歳代になると、子供達の教育費の山を迎えるために、自分自身のほうにはなかなかまわってくる分がなく、いろいろな面で、がまんを強いられる年代のようだ。

多くのサラリーマン家庭では、夫が一番忙しい時期にさしかかっているし、

子供達も中学、高校ともなれば、母親から離れることを望む。

私もこの大荒波にもまれている年代だ。情緒不安定な息子を相手にしていると「何てバカバカしい／＼」と思うことがたびたびある。せっかくの親切心から言ったことが邪魔だったり、毎朝弁当は作ってもらいたいのに、親はうっとうしいらしい。

浪人中の長男が自分の努力は棚に上げ「俺の頭は母親に似てしまつて困つたもんだ」と嘆いた。すかさず私は「お母さんに似れば、体を使って働くことが好きなんだから、何とか生きていけるよ／＼」と言い返した。

母親って何なんだろう？　と思つたとき、私は仕事を持っていて本当によかつたつくづく思う。

私の場合は、一生続けていこうと思つている音楽の月謝はせめて自分の働きで、というきっかけから、先生のお宅で受けるときのグラランドピアノの音に魅せられ

て、手持ちのアップライトよりはグラランドピアノが欲しいと欲がでてきた。

この目的のために歩き続けようと思つたら、真夏のガラガラした炎天下でも、嵐の中でも、大雪の日でも、自分さえ身支度してしまえば、ちっともみじめには感じられなかった。

そして道端の隅に咲いている可憐なすみれに話しかけたり、真夏の暑い日、一本の木陰でホット一息ついたり、自然と対話しながら一歩ずつ足を進めている。

今まではボケーと見過ごしてきた道端にも、四季の変化があることを知ることができた。また、それまでは、ずっと便秘に悩まされていたが、体力を使うことと規則的な生活のせい、腸の様子も快調になった。

## 莫大な数字を抱えて

ゆとりを持って仕事をし続けたいと、いつも思っているのだが、現実にはなかなか思うようにはいかない。販売会社で

ある以上、販売実績の数字ぬきでは考えられないからだ。一年が上期（一月から六月まで）と下期（七月から十二月）に分かれている。

前期の実績によって今期の販売目標額が決まってくる。半年の間、毎月きちんと計算して販売実績を上げていけば、期末だからと少しもあわてることがないのだが、私の性質は「いざ」がかからないと本気になれない、なまけ癖がある。

小さいときから一夜漬けでものごとを処理してきたので、自分では変えなければと思いつながら、なかなかうまくいかず、事務所の数字にもそのまま素直に表われてしまう。一人で解決できることならともかく、事務所の中の社員とチームワークを組んで、数字をこなしていかなければならないのに、毎月さぼっているわけでもないのだが、数字の残が期末にはがっぽりとふくれ上がり、莫大な数字となってしまう。

期末の月を迎えると、数字が頭から離

れず夢の中にまで数字がでてきて、三日間くらい眠れなくなってしまった。ふらふらになって前を向いて歩くしかないというところからスタートするのだから、何ともしたいない、このへんで脱皮しなければと深く反省している。

全国的なボーラの営業所に目を向けたら、素晴らしい実績を上げているところがたくさんあるのに。またトップクラスのセールスマン一人でさえ、何倍もの実績をこなしていることを思うと、恥ずかしくさえなってしまう。

## 仲間たち

私の事務所の仲間は全員、主婦で子供のいる人なので、入社の際は、仕事をすることによって、精神的、経済的に豊かになってもらうことに目標をおき、家庭はくれぐれも大切にするようにして、仲間になってもらっている。

今の日本の社会一般からは、セールスウーマンというと、何か軽薄で口先上手

な人達と見られているようだ。かつて私が骨身にしみて味わった、夫、家族の反対のなかから出発する人が多いので、きちっとした家庭運営と仕事としての実績を残すこと、そして本人がしっかり職業意識を持って行動し続ければ、自然に認められてくるように思う。

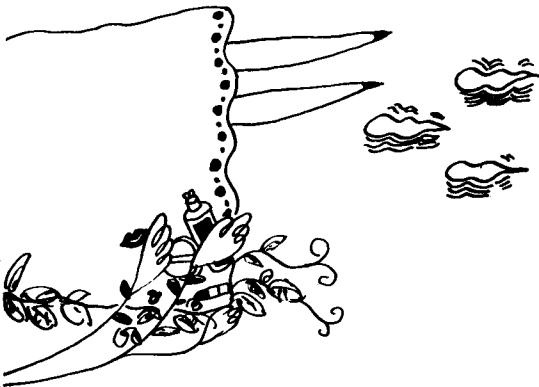
事務所の大黒柱的存在のMさん。もと

もとメーカーアップアーティストになりたかった人なので、メーカーアップの腕前は拔群ノ。どんな方でもこの人に手を入れてもらったら、魔法にかかったような美人に生まれ変わってしまう。

ご主人が手作りの額縁屋さんなので、家の仕事を手伝いながら、上手に仕事をまわして、お客様とのつながりを大切にしている。持ち前の美的センスとご主人の仕事を手伝うことによって素晴らしい絵を数多く見ることができるとも、Mさんを磨く大きな要因になっている。

ボーラ化粧品に入社したのも私より二年先輩なので、相談に乗ってもらったり、これからもどしりと、黒光りし続けて欲しい。

茶目っ気たっぷりでおちよこちよいのHさん。人柄の良さからお客様からはとてもかわいがられている。この人が事務所にいるときは、パッと花が咲いたように賑やかで、出かけた後には必ずといっていいほど、忘れ物が残っている。忘





れ物があつたというと、Hさんか私のどちらかと疑われるくらい、忘れ物で競い合っている。

入社的时候は一歳半くらいでおむつをしていた子も、小学校四年生になり、すっかりしたお嬢さんに成長した。その後に生まれて、今は保育園児の弟のめんどうもよくみているようだ。

この姉弟は、はじめ隣にあったボーラの保育所にいたので、事務所の中に貼ってある出勤グラフや売上グラフをじっと見ていたのだろうか。たまに用事で事務所に出て来たりすると、お母さんのグラフがとっても気になるらしく、一番グラフが伸びていたりすると大喜びする。

Hさんは春先になるとスギ花粉症になり、鼻づまりや頭痛で家に長くいるようになると「私はね、きれいになって仕事をしてお母さんのほうが好きよ」と手厳しく言われてしまうそうだ。私の言いたいことを、このしっかり者のお嬢さんが言ってくれるので、じつに頼もしく、



ほほえましい気持ちで見守っている。

子供の教育熱心では一番のSさん。独身時代は働いた経験がなく、長男が中学生になったので、初めて自動車の免許をとりに教習所に通い出した。

一歩外に踏み出してみたら、家庭の中だけではなかった味と、子供達が思っ

いたよりずっとしっぺりしているのに驚き、「仕事をしてみようかな」と事務所に面接に来た。

しっぺりした信念を持って生活しているので、Sさんでなければというお客様とのつながりで、長く続いている。

このSさん、長男が高校受験の際には、母親として悔いのないようにしたいからと、三か月間は仕事を休み、今高校三年生の下の娘さんの、小学校・中学校・高校とPTAの三役を引き受けて頑張っている。私など、つい忙しさのあまり、ご無沙汰しがちな学校の様子は、Sさんから情報を得させてもらっている。

幼稚園児を抱えて、思うように動けず、悩み多いNさん。近所に住んでいる義妹さんの手を借りて、一年間はがむしゃらに行動してきたが、幼稚園は帰りの時間が早いので、このまま続けていってよいものやら今思い悩んでいるようだ。

少ない時間を上手に組立てて、できた時間は最大限に活用してと励ましている。

Nさんは、小学校三年生のお嬢さんが、お母さんがボーラレディになったのを誇りに思っていることと、おしゃれが大好きで、感性豊かな人なので、これからが楽しみの人でもある。

この仕事は「年齢関係なし」を実証してくれているSさん。一人娘さんがもうすぐ嫁いでしまうので、そのときの心の準備にと、五十九歳でボーラのドアを叩いてくれた。

主婦として家にいた時間が長いので、ちょっと心配だったが、マッサージ、メーキアップは目を見張るほどの上達ぶりだった。そのはずである。このSさんはもと小学校と中学校で絵を教えていた人。結婚してからもずっと油絵を描き続け、生まれつき色彩感覚は抜群の持ち主だったのだ。

腕のほうは上達しても、新しい人と出会って一步玄関の中に入ることができるまでに大分時間がかかった。頭では分かっていても、どうしても一步進むことができ

ず、無我夢中で動き回るだけで、成績は足踏み状態が続いた。

しかし一年間は休むことなく、事務所から出している皆勤賞（一万円）か精勤賞（五千円）を目指して頑張った。Sさんの努力には頭が下がり、私のほうがじっとしていられないような気持ちになり、いろいろ教えてもらった。

身体を大切にし、歳を重ねた貴重な体験を生かして、これから先もずっと若いメンバーのためにも頑張って欲しい。

事務所に欠かすことのできない事務員さん。しっかりと事務所の商品、お金の出し入れ帳簿類の整理と、家庭の中で言えば母親役のなことを受け持ってもらっている。

営業の人達が仕事に出かけ、涙の出るような思いをして帰って来ても、ガッチリと受け止めてくれるので、安心して何でも話すができ、その場で終わってしまう。

また半年毎に行われる在庫検査（棚卸

し）では、商品と帳簿がぴたりと合っているという、素晴らしい仕事振りを発揮してもらっている。

Mさん、Iさん、Yさんなど、書いた人の話はまだまだあるが、紙面の都合で書けないのが残念だ。

ふり返ってみると、誰一人として喜んでくれない、後髪をひかれる思いのなかからの出発だったが、「行動あるのみよ」と飛び出し、いろいろなことに当たって碎けて、仕事に対する心構えや人生の道など数多く学べたこと、大勢の方々の知恵や力を借りて、ここまで歩んでこられたことに感謝している。

「私の働く場所もあってよかった」といって生き生きと家事をこなし、留守をしつかりと守ってくれる姑と「何をしでかすか分からなかったが、仕事の進め方は間違っていないかったな」とてれくさそうに話す夫。この言葉を聞くまでなんと年月のかかったことか。

（完）

（え・万谷陽子）

# ファミリー・イン・ブルー

知に働けば角が立つ。情に棹させば——ああしんど!

## 老夫のお守りに悩める老妻

東京都田無市 法村 祐子



早春のある日、言いくそくに、夫が、「お母さん、僕三月に勤めをやめようと思うんだけど」「ああ、そうですね、もう五十年も働いてもらったんですもの。いいじゃないですか」とは言ったものの、ほんとうにやめられたらどうしよう。顕微鏡をのぞくことと一杯やること以外には何一つ趣味をもたない人だから、一日中家の中に座っていて相手をさせられたら、私自身も動きがとれなくなるし、こ

りや何とか考えなきゃ……。

五年前にやめる話がでたときには、娘達と相談の結果、記念碑をつくるという名目で三年間は働いてもらわなければならないから、と退職は延期できたけれど、今度はそんなわけにはいかないし……。

ああそうだ。若いころに尺八を吹いているのを見たことがあったのを思い出した。

「お父さん、尺八でもならってみませんか」

「ああいいね、やってみようか」すぐに話にのってきた。しめしめ。

早速尺八を手に入れて先生に紹介、そこまではうまくいったのに、

「お母さん、こりゃ駄目だ、入れ歯が落ちてきて吹けないよ」と、なさない声。ああそうか、主人の上のほうは総入れ歯だった。これも駄目。

これが駄目というならと、私は今度は大正琴を買ってくる。元来医科学者なので、何事も研究熱心な人だ。我流ながら

も、一応は自分の知っている歌はひきこなし、幾日たたずあきた様子。これもだめか……。

じゃ今度は三味線は如何。三味線三年というから、これならいいかも……。

テレビで紹介されている通信販売の品を注文して買った。そこが素人の考えのあさはかさ、カセットテープと教本がついているというので、買っては見ただものの、音は悪いし、バチの持ち方もよくわからないし、これじゃすぐにあきらめられうだ。それでは困ると思った。

そこで私は「ねえお父さんは熱心だから先生について基礎から習ったら」と熱心にすすめた。お父さんこうしてけいこに行くはめになってもう二年あまり、今は八曲を弾きこなせる。

その熱心さには正直驚かされた。が、そこまではいいんだけど、今度は私にも弾けと注文する。自分がただで教えるかと、これには困ってしまう。何かしていると「ちょっとおいで」と呼ぶ。行っ

てみると「僕が伴奏するから、あんた謡いなさいよ」と言う。これじゃなんのために、三味線習わせているのかわかりやしない。

## ファミリー・イン・ブルー アフター・ブラック

神奈川県川崎市 小林 昌子

私と彼は、昭和四十三年十二月十五日の年末の多忙なころに、結婚式を挙げた。五つ年上の兄は、その二か月前に式を挙げている。兄嫁は私と同じ年。

私の彼は、まだ大学院生で無給。私が働く。兄は超一流のサラリーマンで、給料バッチリ。

二組は言い合わせたように、翌年の十月に女の子をもうけた。我が家は、私の蓄えで生きながらえた。

二年後、嬉しいことに男の子が、同じように産まれた。

実家の祖母が、八十三歳で亡くなり、

さあ今度はどういう手を考えようかと、目下思案中である。どうしたらいいでしょう。わいふのみなさん、良い考えがあったら教えて。

皆が集まったときである。三歳の兄の娘は、お姫様のような（私にはそう写った）ドレスに、一人前のコートを着て、なんと、革靴をはいていたのである。私は小さな革靴を見てうなってしまった。私の夫はどうか国家公務員になっていたが、私の革靴さえまだ買えなかったのだ。我が娘もせいぜいピンクの運動靴がせいじっぱい。

兄嫁は、皆の朝食が終わった九時ごろ、この一人で起きてくる。

「低血圧だから、朝が弱いんだよ」と兄が、言いわけをする。

十年が過ぎ、兄嫁は車の免許を取り、娘の塾通いの送迎ではりきり出した。

私は、子供は子供らしく、伸び伸びとしなくちゃと、大いに遊ばせた。陰で、「教育ママゴン」と、夫と悪口を言い合いながら。

十七年が過ぎた。

兄の娘は息子ともども、超有名私立中学と高校に通っている。二校共、東大へ毎年五十名ばかり行くそう。

我が娘は、中流公立高に通い、ジャズダンスに夢中。大学は行かぬと言う。たのみの我が息子は、ダブダブのズボンに、毎朝洗髪し、チックをテカテカ塗ってくさい臭いをプンプンさせ、公立中学に通う。何度、学校からの呼び出しをくったか。成績は、腹が立つより、私は涙が出てくる。

私の育児は、どこか間違っていたんだ。妊娠のときの栄養が悪かったんだ。あのころはピンボーだったもの。

我が子達を見ていると、心身にとても

悪い。

そろそろ私も、子離れするか、と思う。と言っても、特技は書道の五段しかない。お習字を子供に教えるかな。生徒が集まるだろうか……。

こんな今日ごろ、用で兄の家へ電話した。

「私ね、四月から中学校の英語の先生をしているの。（ええー！ ガガーン）低血圧？ ああ、あれは結局甘えだったのね、子供達が一緒に遊んでくれなくなっただしょう。親のほうの子離れしなくちゃね。忙しいから、夏休みにでも遊びにいらして」

ルンルンの兄嫁の声が、受話器を置いてまだ、こだまする。

一日中、何もする気が出てこない。  
ファミリー・イン・ブルー アフター  
・ブラック。

（え・岡田正子）

## ★わいふバックナンバー

- 176号 わたしの恋愛体験
- 177号 肉親の老いをみつめる
- 183号 女の言いたい放題誌
- 184号 私の災害体験
- 185号 私の親ばなれ闘争記
- 186号 お医者さんを診断する
- 189号 知的内職の落とし穴
- 190号 わが家の夫婦ゲンカ
- 191号 集合住宅で生きる
- 192号 私のやってみたセールス
- 193号 学校教育への疑問
- 197号 親があなたに伝えたもの

四五〇円 以下同じ

送料は一冊二〇〇円、二冊〜三冊二五〇円、四冊〜六冊三〇〇円、七冊〜九冊まで三五〇円です。十冊以上は編集部で負担致します。ご注文は編集部へどうぞ。

Tel (〇三) 二六〇一四七七

投稿ホットライン——物いわぬは腹ふくるるわざ

# マジの発言

黄色い声、赤い声——五色の声でもの申そう！

## 弔電

東京都豊島区 藤 輝美

M銀行のお得意様係神谷と名乗る、若い男性からの電話をうけたのは、心臓病で急死した姉を弔った日の夕刻だった。用件は、姉名儀の定期預金が近日中に満期を迎えるので、継続を依頼するつもりで我が家を訪れ、思いがけず本人の不幸に出会った。

その足で葬儀場のHT寺へ弔電を送ったが、届きましたでしょうか、と遠慮勝ちな声に、はて？ と首をかしげた。

確か私が受け取った数通の弔電のなかには、M銀行や神谷名はなかったように思う。でもなにかの手違いかも知れないし、と側で目を潤ませている母とともに、礼を述べておいた。

二、三日後に姿を見せた声の主は、今春大学を出たばかりの、さわやかな青年だった。

こちらで再契約をいただきますと、私の仕事ははじめになりましたが、今はご遠

慮いたします、と若者らしい率直さについて、姉はK社に勤めていたので多少の貯えもあるでしょう、などと、言わずもがなのことを口走っていた。

彼と入れ違いのようにあたふたと現われた中年の男性は、神谷青年の上司だとか。

その青木課長によると、神谷は新人ながら信頼できる人物だし、将来も有望である。なんなりとお申し付け下されば当人のためにもなるので、どしどし使ってやってほしい、とくりかえす。

その熱意にほだされたのか。青木氏が引きあげた後も「やさしい課長サンやわ、さすが天下のM銀行」などと目を細める母とはうらはらに、なんとも後味がわるい。このまま老いた母を残して帰京するのは気掛かりだが、いつまでも滞在するわけにもいかないし、とひとまず神戸をあとにした。

ひとりぼっちの母と例のやさしい課長サンのあいだに、どのような意志の疎通

があったのか。

「おばあちゃんに頼まりましたので」と間延びした声を耳にしたときは、妙な胸騒ぎを覚えた。話の主旨は、他の銀行が保管中の、姉名義の貸金庫を開けるための必要書類として、私の住民票と印鑑証明書を二通ずつ、大至急お送りいただきたい、というのだ。

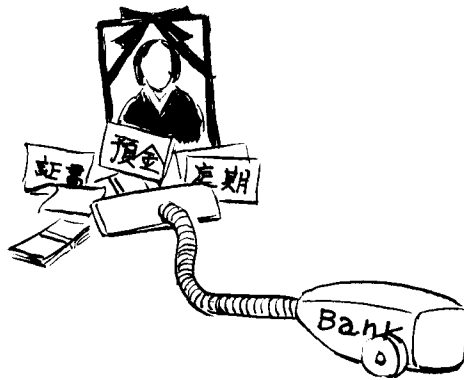
「なんのために？」「あんさんは法定相続人ですよってん」「母は承知していますの」とどうしても納得がいかない。しかし青木氏は、私が帰京した後の母のところへ足を運び、ありし日の姉の思い出話を聞いたり、写真などを見せてもらっているうちに「すっかり仲よしになりまして」と自信に満ちた口振りである。

とりあえず本人に確認のうえで、と早々に受話器を置いたが、母は確かに課長サンにお任せしたという。

「どうして、娘の私がいるのに」と詰め寄ったが、「あんたは親をほかした娘やないかッ！」と、そのひとことに打ちのめ

された。

私が母の涙をよそに家を飛び出し、夫とともに東京で世帯をもって三十数年になる。



当時の姉は、愛する男性<sup>ひと</sup>を戦場で失い、母親を抱え、身動きがとれないままに、奥さんともお母さんとも呼ばれずじまいの生涯だった。

その娘に寄せる憐憫のおもいが、私へ

のにくしみとなって再燃したとでもいうのか。受話器を握りしめたままの私は、返すことばを失っていたようにおもう。

この一年のあいだに、他の金融機関に分散してあった預金のすべてはM銀行に一括された、と聞く。故人の意志を無視したえげつなさに腹も立つが、当の本人が納得していることだし、側からとやかくいうこともあるまい。

まして天下の——M銀行サンが元金をしっかり守って下さるのだから、と傍観することにした。ただ、今でもひっかかるのは、M銀行と関わるきっかけとなった弔電の一件である。あれは神谷青年個人の好意なのか、それとも銀行のしきたりだろうか。

いずれにしても、H丁寺へ送ったという弔電は行方不明だし、一瞬なりともオバハンの心をゆるがした例の好青年は、あれ以来、顔を見せないままの行方不明？だという。

(え・早乙女光子)

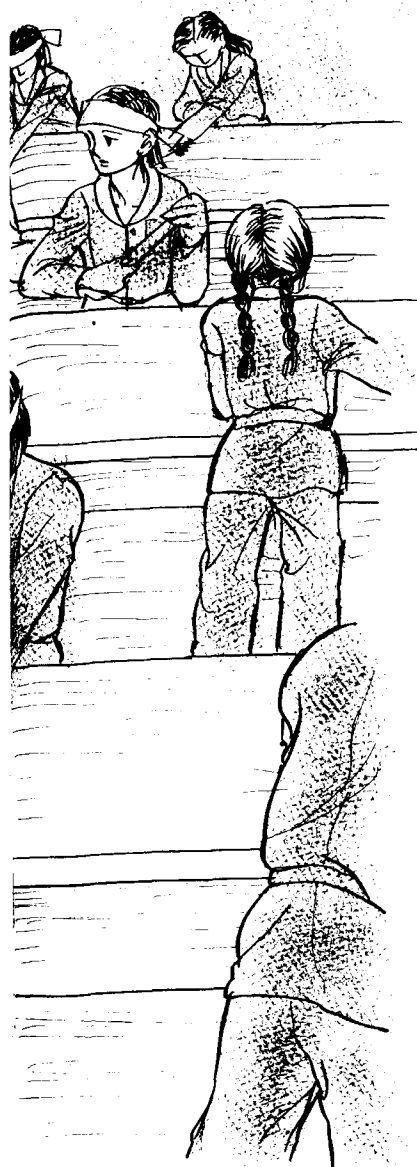
# 私の昭和史

⑦

桜井淳子

進め一億火の魂だ

！だ”玉





# 產生增強



昭和十九年四月、私は都立目黒第一実践女学校へ入学した。

油面小学校から数人の生徒が一緒だった。玉石混交とはこの学校にびつたりと言葉であった。大多数の石の中に、キラリと光る玉がいくつか混じっている。

私の友人、星野さんは正に玉の最たるものであった。私は彼女がまさか私と同じ学校に入るとは夢にも思わなかった。小学校四年から同じクラスであったが、彼女はいつもトップクラスに属していた成績優秀な子であった。六年の三学期に彼女から突然、同じ学校へ行くと告げられびっくりした。

彼女は、都立第三高等女学校へも、都立第六高等女学校（地域的に、この二つは女生徒にとって最高の学校であった）次のランクの都立目黒高等女学校へも充分に入学出来る学力と体力を持っていた。

彼女は私に言った。高等小学校へ入学するつもりでいたが、教師から目黒第一実践女学校を勧められたという。家庭の事情でこの学校へ入学した子は彼女の他に何人かいた。学費が普通校に比べて安く、しかも、公立なので教師も揃っていた。

生徒は不揃いもいいところであった。

入学試験とは名ばかりで、簡単な口頭試問と身体検査だ

けだった。試験に落ちた子は皆無に等しかった。

当時の中学校や女学校は、選抜試験制度で学校のレベルに合わせて、一定の水準の子ばかりを集めていた。高度の学校は、勉強の出来る子ばかり、私立のお嬢さん学校は裕福な家の娘ばかりを入学させた。費用もかかるが、それなりの教育もしたのである。家政科の専門の学校はきちんと家事や裁縫を教えた。商業校では、そろばん、簿記などの実務に関するものを教科にしていた。

私の入った学校は、そのいずれにも属さない面白い学校であった。

学校は、目黒高等小学校の校舎の一棟を借りていた。一年年二クラスずつの小さな学校であった。

どの学校からもしめ出された子や、病弱のため出席日数が足りず普通の女学校へ入れなかった子、私のように虚弱児だった故に体格が水準以下の子、個性が強すぎて、はみ出しっ子になってしまった子、裕福ではあるが、どのお嬢さん学校からも落ちてしまった学力の無い子等々をみんな拾って受け入れたのである。

私は毎日、もんぺのようなズボンをはき、制服を着て（当時制服は、全国共通のへちま衿の制服であった。夏は白、冬は紺で、冬はへちま衿に更に白い衿をかけたもの、



素材がスフなのですぐにへたってしまうものであった。防空頭巾と救急袋を肩からかけ、教科書の入った手提げ袋を持って通学した。

小学校と異なり、教科ごとに先生が代わるので張り合いがあった。私達の入学と同時に着任した師範を出たばかりの教師がいた。音楽と体育の専門であったが、体操の時間に、アラベスクといって、バレエの基本を教えたり、音楽は、戦時下のまっただ中なのに、アメリカ民謡や、フォスターの歌を教えられた。

「ミネトンカの湖畔」「なつかしきケンタッキーホーム」「コロラドの月」「峠の我が家」「谷間の灯」等々である。体操も音楽も得意でなかった私は、その他大勢の一人として、ついていった。

国語は、若い青年教師であった。背の高いなかなかの好

男子である。色あくまで白く、隆い鼻の上に縁なしめがねをかけていた。戦時下の若い青年教師は珍しかった。噂によると肺病のために兵役を免除されたという。むべなるかな。国語の時間以外に、自由時間に、小泉八雲の「怪談」の原本を手にしながらか、「雪女」や「むじな」等を訳して聞かせた。

原因ははっきり記憶にないが、私はこの教師を怒らせたことがあった。私のために、蒼白になって怒ってしまった。今でも、そのときの彼の怒った顔が目に残ってくる。

課外授業の華道の先生は、生花の他に、俳句や、短歌も教えていた。

被服（裁縫のことをこう呼んでいた）の先生は、時節がら（布も糸も配給制度だったので）部分縫いばかりを教えていた。あとはノートの上の理論だけ。

物象（物理のことをこう呼んでいた）の時間はわからなかったが、何故か面白かった。先生が良かった。

代数、幾何もわからないままにどんどん進んでいった。しかし、毎日が楽しかった。学力の差がありすぎるので特に勉強しなくても、トップクラスにすぐに入れた。星野さんや、その他の特別の人達はいつも学校で光り輝く存在であった。

あっという間に一学期は終わった。新しい友人も増えた。

私の好みで、相変わらず本をたくさん持っている生徒を友人にした。酒井さんという友人から吉川英治の『宮本武蔵』や『太閤記』の全集を一冊ずつ借りては読んだ。中里介山の『大菩薩峠』も最後まで読んだ。

笠原さんの家には、講談本の全集があった。一冊が七八センチもある部厚い本ではあったが学校の帰り道に寄っては、一冊読み終わると次の一冊を借りて、全部読んでしまった。

クラスでは私のことを「本狂い」と呼んでいた。勉強そっちのけで、乱読に次ぐ乱読をしていたからだ。

ラジオからは、勇ましい『軍艦マーチ』の代わりに莊重な『海ゆかば』の曲が流れては悲しい臨時ニュースが伝えられ、日本軍の航空戦力の大半が失われたことや、サイパン島の日本軍全滅が伝えられた。

八月には学童疎開が実施され、東京から小学生の大半が姿を消した。

九月の新学期になった。

学徒勤労令が発令され、本科の生徒は、学校の近くにある北野電気という軍需工場へ働きに出た。北野電気は現在のスタンレーという会社の前身である。

ただでさえ小さな学校なのに上級生がいなくなり、一年生と二年生だけになると学校はガラガラになってしまった。

教師の半分は、勤労学生とともに工場に出向しなければならなかった。

一、二年生も正規の授業が終わった後、二時間ほど働くことになった。北野電気で作っている電波探知機の部品作りである。

セレン整流機<sup>やすり</sup>といって、それに使うセレンを、きれいに鋳<sup>やすり</sup>で削る作業であった。

簡単な仕事であったが、慣れない女生徒には初めは大変であった。工場からベテランのおばさん達がきて指導された。

工場長も、これは大切な仕事なので、一所懸命にして欲しいと挨拶した。

作業に慣れてくると、おしゃべりをしてても、手は器用に動き、けっこう楽しかった。作業が終わるころになると、工場から大きなおにぎりの入った箱が届けられ、一箇ずつおにぎりが配られた。軍需工場用の特配であった。みんなおべんとう箱を洗って待っていた。月末になると、作業しただけの労賃が支払われた。生まれて始めて、自分の労働で得たお金を手にしてうれしかった。

全てのものが不足してきた。石鹸や歯磨きなども姿を消した。灰からあくを取り、洗濯をした。歯は塩を使って磨



くようにした。

銭湯はいつも満員であった。湯舟の中も洗い場も、脱衣場もいっぱいでごった返していた。

女の子の頭に、虱がたかるようになった。私は妹や姉の頭にたかった虱を取った。齒の細い梳櫛で梳くと、大きな虱は、櫛にひっかかって取れるが、生まれたての小さな虱や、びっしりと、毛の根元に生みつけられた卵は手で丹念に取るより方法はなかった。生え際のやわらかな毛の根元に卵は生みつけられる。にぶい真珠色をした一ミリぐらいの卵は集団で何本かの毛についている。みつけると、伸ばした爪の先で引っかけしごいて取る。生まれたての虱はほんとに小さくて、色も赤茶色でよく見ないとわからない。白い地肌に吸いついていて。これも爪の先でつまみ取る。卵は、広げた紙の上に乗せておき、まとめて火にくべると、プチプチと音を立てて消えていく。

虱のほうは、白い湯のみに水を張り、取ってはその中に入れる。大きな成虫は、その中で胡麻のようになると回っている。やがて次第に溺れていく。

妹の毛髪を丹念に分けては虱退治をするのは、面白いあそびの一種でもあった。姉は私の頭を見る。姉妹で、取った虱の数を競い合うのである。

溺れた虱は、親指と親指の爪と爪の間にはさみ、押しつ

ぶす。プチンと小気味の良い音を立てて虱は、爪の間で押し殺される。虱の腹からは、血が押し出される。

家中で虱退治をしても、また、どこからか移されてきて、完全駆除はむずかしかった。

衣服にたかる虱も、銭湯で移されたか家中に広まり、ねまきや、シーツ、肌着などを全部煮た。煮沸消毒で一応は根治出来たが、いつ、またもらってくるかわからない世の中であった。

衣服の虱は、頭の虱と異なって、白かった。卵は衣服の縫い目の中にびっしりと生みつける。虱自身も縫い目の中にかくれていて、人が身につけると、もぞもぞと出て来て、血を吸うのである。血を吸った虱は、お腹の中が透けて見え、そこに血が入っているのが見えた。

当時は、のみもいたが、虱に比べれば人間の体を住家にしていただけ可愛気があった。むしろ、ぴょんぴょんと飛ぶ仕草に愛嬌があり、親しみを感じた。

食糧事情は、日に日に悪くなっていく。

配給の魚は「ほっけ」という味も素っけもない魚ばかりである。野菜も保存のきく大根や人参、ごぼうのようなもので葉物類はなかった。

父も徴用工として羽田にある日本鋼管の工場の人事課で働いていた。二人の姉も、勤労学生として働いていた。軍

需工場で働いていると、帰りにべんとう箱に入れておにぎりや珍しいものを持ってきてくれる。母も妹も私も、それが楽しみであった。

ある晩、父が、生きているうなぎを数匹おみやげに持って帰ってきた。家中は興奮した。早速、母は、取っておきのお米でご飯を炊いた。父と母とで、うなぎを裂いてむした。大切にしまっていたあった砂糖を出し、しょうゆでたれを作った。家中が固唾をのんで、このごちそう作りをみつめていた。むしたうなぎは、串に刺し、炭火で焼いた。たれをつけて焼くと、家中が美味しいかば焼きの匂いに包まれ始めた。

久しぶりの、固い何も入っていない光っているごはんの上に、かば焼きを乗せてたべた。『美味しい、美味しい』口から出る言葉はそれだけであった。みんなお腹いっぱいにかば焼きとご飯をたべた。

そして笑った。みんなの目にうれし涙が光っていた。

『進め一億 火の魂だ』

こんな歌が流れていた。

好むと好まざるとに関わらず、日本国中が戦争の渦の中にのみこまれていくのだった。

(元・田井亮子)

# 主婦の誕生

●アン・オークレー著 ●岡島茅花訳／1,800円

〈専業主婦〉とは、労働と家庭生活を分離させた産業革命によって誕生し、その後の産業社会と並行して定着してきた。本書は、産業革命前後の社会状況を歴史的に検証し、〈近代主婦業の誕生〉の過程を探り、主婦労働の内実、社会的位置付け等を分析する。〈兼業主婦〉が急増しつつある今日、その将来像を問う！



樋口恵子 ●エコノミック・アニマル論  
データに見る日本男性像

渥美雅子 ●離婚と現代男性像

加藤富子 ●日本男性の意識構造

木村 栄 ●新しい男たちの動き

## 日本男性論

男たちはどう変わればいいのか、なぜ変わらないのか——

女性をめぐる社会状況の変化は著しいが、

男性の現状はどうであろうか。

気鋭の女性陣が男性諸氏に贈る、

熱くて厳しいメッセージ。1,400円

## 羽仁進の新・家族論

●羽仁 進著／980円

いま、「家族」が変貌しつつある……。

旧い「家族」像は崩壊し、それぞれのモラルや

価値観で創り上げる『新・家族』像を意欲的に探る！



## シングルス・リポート

●J. シムナウアー&D. キャロル著 ●石川弘義訳／1,700円

結婚よりも一人で生きることを選び出した

米国のシングلزが、本音で語る『独身白書』。

## 現代の雇用平等

●花見 忠著／1,700円

なぜ“真の雇用平等”は確立できないのか——

雇用平等の世界的潮流と米・英国などの法を紹介し、

グローバルな視点から今後の課題を提示する。

雇用平等の基本法理を知る上で、女性必読の書！

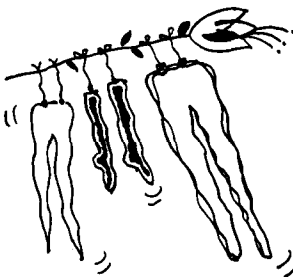
**三省堂**

☎03(230)9411(編集)・9412(販売)

〒101 東京都千代田区三崎町2-22-14

# ワンポイント情報⑨

## ストッキングあれこれ



### 質問

- ① 銘柄とねだん ② 愛用の理由 ③ もちの長さ、使捨て派か、長もち派か  
④ 一か月に何足消費 ⑤ 伝線ストッキングは？

### オー、ノーパンストッキング！

五、六年前、アメリカにいる姉が、「お土産に」と持ってきてくれたのが、それ。形は普通のパンストで、ちょうどショーツに当たる部分だけが綿一〇〇パーセント（白）で出来ていて、その他は普通のバ

ンストと全く同じ、というもの。私は、にぶいものだから、ショーツの上にさらにこのパンストをはいていたのです。ところが、見た目がしっかりしているわりに、たったの三回着用で伝線……あえな

く、ゴミ箱へポイ。その後、私は、痔を初めとして、下々のあらゆる器官と言いますか、ことでした。大、中、小の穴と言いましょか、本当に穴があつたら入りたいような、お恥ずかしいお話なのですが、朝日新聞でなくて（朝日もパンス

東京都杉並区 山本 陽子



トについて投稿募集していました  
が、「わいふ」だからこそ、書く  
のです。(余談になりますが、私  
は、ひどいアレルギー体質なので  
血行が悪く、お肌が超デリケート  
なので、いろいろな病気を引き起  
こすようです)

医学書をちょっとひもといてみて  
も、泌尿器科や婦人科系統の器官  
にとつては、「パンストは有害無  
益」と書いてあります。ミニスカ  
ートとパンストがセットになって  
大流行してから若い女性の膀胱炎  
は激増したそうです。つまり、む  
れて(高温多湿で)、バイ菌君の

住み心地が良いので、ドッカとい  
すわるそう。こうなると、パン  
ストは、女性の味方どころか、女  
性の敵のような気もしてくるので  
す。

そこで、私は、ひざ上ストッキン  
グに切り換えてみたのです。とこ  
ろが、これは、ゴムが太ももに食  
い込むわりに、どうしてもずり落  
ちてくるのです。とくに、正座な  
どすると、始末に悪い。

やはり、大昔の、あの懐かしいガ  
ードルタイプがいいのでは、など  
と感懐にふけていたところ、ふ  
と思ひ出したのが——例の、あの



ショーツ付きパンスト。——「そ  
うだ、あれだ!!」あれこそ、通気  
性抜群、しかも、ずり落ちる心配  
全くなし。

さんざん探し回ったけれど、残念  
ながら、いまだに例のパンストは  
みつからないのです。みつけた方

は、至急ご連絡下さいませんか。

今、この文を書きながらハッと気  
がついたことがあります。それは、  
アメリカの女性達は、あのパンス  
トをじかに身につけているのでは  
ないかしら……つまり、ショーツ  
をはかずに。これぞ、まさに、オ  
ー・ノー・パンストッキング!!「ウ  
ム、なんとなくエロティック」と  
目をシロクロさせるやら、感心す  
るやら。それにしても、なんとに  
ぶいこの私!日本のメーカーの  
方も、このノーパンストッキング、  
早速、作ってみてはいかが?き  
っと若い女性に受けますよ。

## ひざ上ストッキングのファンビズ

夏の間だけ、ひざ上ストッキング  
愛用しています。パンストにくら  
べ格安なので、銘柄にとらわれず、  
気に入った色があれば、まとめ買  
いする。



汗をかいていても、はいたり、ぬ  
いだりが、簡単。その上、大たい  
部は涼しい。破れたら片方だけ取  
り替えればよい。  
はいているとき、伝線しても、物

香川県小豆郡 広瀬サカエ  
陰などで、容易に取り替えられる。  
破れたものは、洗たくして、袋に  
詰めておき、たくさんたまった  
ら、ハギレでクッションをつくる。

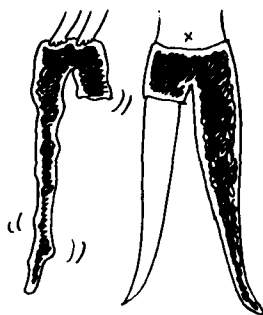
# 玉ねぎ入れて軒下に

①銘柄はとくに決まっていない。

下着を購入するついでに目についたものを、カゴにほうり込む。値段は五足組三百円〜五百円程度。

②肌ざわりのよさそうなもの。色は茶系かグレー系。夏は多少明るめ、秋冬は濃いめのものを選ぶ。

③使い捨て派。友人の一人で、片



方ずつ伝線したパンストを絵のよう

に切っただけでいる人がいるが、腰の部分が二重になるので暑そう。それに同色じゃないと困る。

④一か月に四、五足。

⑤古新聞をしばるとき重宝する。

伸びがいいし、絶対切れない。また玉ねぎを一寸ずつ入れては結び、

却って欠点を助長してしまうようだ。

く、この修正がけっこう厄介なのです。急ぎの外出前なんかもうイライラしてきて、こんなとき、シームレスの不便をつくづく感じます。

この点ガーターフリーだと修正が簡単ですし、第一、片方が破れても同色は何足も備えておくと、片方だけとりかえればいいわけで、とても経済的です。また昔のと違

## シームレスの不便を感じる

①もっぱらグンゼのガーターフリー「シア・ペーヌ」というのを愛用しています。値段は二足入二五〇円。といっても別にグンゼファ

ンというわけではなく、たまたま行きつけのスーパーマーケットの売場でひざ上ストッキングはこれ

一種だけなのです。

②パンティタイプは種類も色もたくさん並んでますが、私にいわ

せれば、パンストはどうも不経済ではきにくいですね。真冬ならともかく、夏なんかショーツをはいてガードルつけて、その上にパンストをはくと、何だかムレてしま

いそう。

それよりも最大の理由は、爪先からまっすぐにと気をつけてはいたつもりでも、太腿のあたりまでくるとねじっではいていることが多

く、この修正がけっこう厄介なのです。急ぎの外出前なんかもうイライラしてきて、こんなとき、シームレスの不便をつくづく感じます。

この点ガーターフリーだと修正が簡単ですし、第一、片方が破れても同色は何足も備えておくと、片方だけとりかえればいいわけで、とても経済的です。また昔のと違

く、この修正がけっこう厄介なのです。急ぎの外出前なんかもうイライラしてきて、こんなとき、シームレスの不便をつくづく感じます。



東京都新宿区 時尾 松子

愛知県知多郡 伊藤 智子

って腿のつけねのガーターも非常にソフトで、しめつけ感はなく感じません。

③最近のストッキングはよほどの特売用でない限り、値段と破れ具合

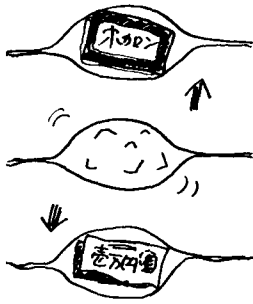
## ストッキングに凝るわたし

私、恥ずかしながら三十歳を越え

独身である。さらに恥ずかしながら、体の中で細いところは脚だけである。そんなわけで靴とストッキングには割合凝るほうだ。今回のワンポイント情報には喜んで参

加してしまふ。  
①アツギ夢のベール一足六百円。  
②もちがよく、はき心地がよい。脚がきれいにみえる。  
③週二回ぐらいはいて三、四か月ぐらいもつ。場合にもよるが長持ち派。④三足

## ホカロン入れて冬釣りに



①西友無印、大袋十足入り八百八十円。冬は主にグレー系、夏はアイボリー、ブラウンを中心に七、八色どまり。とカラーが少ないのは難点だが、②安いもちが良いから妥協。

③少々乱暴に扱っても破れないが、



④年に何回か同色のをまとめ買い(十足分ぐらい)してますが、一か月の平均消費量は不明。冬は厚手のウーリタイプに、夏はひざ下ストに切りかえるので……。

⑤破れたストッキングの始末について、今のところ未練がましくためてはエィツとばかり捨てています。みなさんのアイディアをお聞かせ下さい。

東京都大田区 高橋 玲子

ぐらい。⑤冬場ジーンズの下にはく。あとは靴磨きに使うぐらい。レースのストッキングは最初抵抗があるが、一度はいてしまうと、はき心地が良く楽しい。ピンクのものなど思いの外きれいに見える。

埼玉県所沢市 法村香音子

手袋をして丁寧に穿けば、一足が一週間以上もつ。勤めに穿いているから毎日替えるが、少ないと洗いにくく面倒なので、四、五足溜めて網袋に入れ一度に洗う。断然長もち派。

⑤のことを考えて浮気をしない。

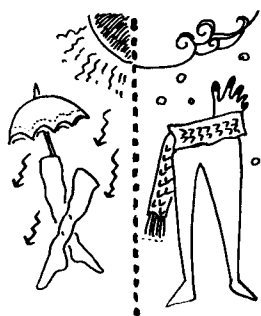
⑤先ず第一に、チョットよじれるから少し気持ちが悪いけど、細い伝線なら内側に回して知らん顔し

て穿く。

●片足だけ重症なのは、思い切って太モモのところで切り落とし、なんともないほうを片足パンストにして、冬用にする（ここで同じ色だけの袋買いがものをいう）。一本足のパンストをそれぞれ穿くと、お尻のところは二枚になって温かいし、コルセットみたいに締め付けないで、ほどよく締まって、気持ちが良い。

## パンストは保温用だけに

パンストは、補助、レナウン、カネボーなど一足四百円前後の品を、主として、冬期に、または旅行などに使用します。街路や、駅のホームに吹き上げる寒風には、パンスト着用でぐつと締めていると、底冷えが違います。ブラウン系を、一か月に二足ぐらいというところ



●破れた個所にもよるが、足首から先が健全ならば、ふくらはぎから切りはなし、これも取っとく。次に、少々のはきはきにせず足首のところで先を切り落とし、男の人がモモひきにソックスを重ねる要領で、パンタロンの下などに穿いたり、ブーツのときに穿いたりする。一日中穿いていても不思議にずり落ちない。家に帰って急いで足を洗いたいときなどはまこと

に都合が良い。

●以前、暇をみて斜めに細く切つて巻いて溜めて置き、ハタ織り機でマットを作ってみたが、滑りやすい上に、洗ったらダンゴになってしまつてこりた。

●二十センチほどの長さに切り、一方を結んで、台所シンクの流し落とし型ゴミ入れに入れ、上蓋で押さえて、水切りとして使う。ただしこれはすぐに目が詰まるので、

その日のうちに取り替える。

●玉ネギなど沢山買ったら、ストッキングに入れて、外につるして置く。

●誰でもやっていると思うけど、私は冬釣りをするときホカロンを入れて腰に巻く。金持ちの母は旅行をするとき、お金を入れて胴に巻く。することは同じでも、中味は大違いだ。

山口県防府市 伊藤 薫

夏は、ヒザ下ストッキングです。暑くて汗の出る季節は、パンストは敬遠します。

色は、ベージュ系の、明るくて肌の色と差のつかぬ色にして、ひざ下だけであるのを、万一のとときカバーします。

ながく座るお座敷での会合などは、ひざ下にしないとたまりません。

ひざ下は、主としてバーゲンで、五足四、五百円くらいの仕込み、一か月に、二、三足の使い捨てです。

左右が一緒に痛むことはないの、痛まないほうは、洗って残しておき、つぎの分と合わせて使用します。

(え・万谷陽子)

投稿ホットライン——百聞は一見に如かず

# 観たり聴いたり

## ひとり芝居

### 「どっこい! 下北漁民伝」

千葉県市川市 近藤 美子

……おぼんでございました……  
この俺 ワダシ 勝間田頑蔵は、一度、死  
んだ人間でございました……一度、  
死んだ人間が、こうして、お目に  
かかり、しゃべりたいことが……  
やまほど……

このように始まる愚安亭遊佐さ  
んこと松橋通蔵さんのひとり芝居  
を、六月十五日日曜日、「すべー  
す・しょう 中野」へ見に行った。

観客は全部で七人。障子三枚と  
小さなイスひとつだけの舞台。津  
軽井で二時間近く下北半島に住む  
人々の生活を語る。

半農半漁で、まずしいながらも  
村じゅうの人々が仲良く暮らして  
いた時代から、お上の方針で、土  
地が切り売りされ、ほんのひとに  
ぎりの人間しか残らなかった現在  
までを、そこに住む勝間田頑蔵と



愚安亭遊佐ひとり芝居

どっこい! 下北漁民伝

作・松橋通蔵

6・13・14・15・20・21・22

すべーす・しょう 中野

いう一人の男を通して語らせる。  
海に生きる男と海に生きる女。  
金に目がくらむ男とそれに負けず  
と必死に生きようとする女。

津軽海峡の荒波が、踊る魚たち  
が、その舞台の中に見えてきそう  
な気がする。

分家から十メートル先の本家へ  
行くのに、にぎり飯とお茶を持ち  
防寒具を着なければ、遭難してし  
まうという。

そのときは、まるで自分が吹き  
すさぶ吹雪の中にいるような気が  
してくる。

厳しい自然環境の下北半島。そ  
こには、海を愛し、海とともに生  
きる人間がいる。たとえお上と言  
えども犯してはならない生活がある。  
日曜の午後三時開演、そして見  
ごたえのあるお芝居、にしては、  
見ている人が少なかった。秋にま  
たどこかで再演したいと松橋さん  
は、話していた。

二時間ばかり、本州最北端の下  
北半島へ、どなたか一緒にワイプ  
してみませんか。

# 「知的セミナー」



## の落とし穴

東京都墨田区 高津由美子

一週間前には想像だになかった場所で、ある土曜の夜、二時間を過ごしました。きつねにでもつままれたように。

ことの発端は職場での一人の昼食。顔みしりのA氏に出くわしたところから始まりました。同じサークルに入っているし、親しいとまではゆかないけれど、「一人で食事をしたいので失礼」というのはそれこそ失礼にあたるので、ご一緒した次第。

今までの静かな印象とは違って、A氏はよく話しました。仕事忙しいこと。それは夜用事がある残業ができないため云々と……。『それはどうして?』と聞くべきだったでしょうが、でも詮索されるのはもちろん、するの

も嫌なので「ああ、そうですか」で済ませていましたら、A氏のほうから説明が始まったのでした。

××セミナーなるものへ通っていることです。

A氏の説明を聞いても、今になっても姿がはっきりつかめないのですが、パンフレット丸写しにするなら、「××セミナーは、〇〇年△月国内外での数年にわたる研究をもとに、独自のアウェアネス(気づき)トレーニングとしてスタートしました。——中略——いわゆる心理療法とは異なり、自分自身に投資する意志をもった健康人のためのセミナー」だそうです。

繁雑な、一つ一つの事柄に意味を見出せないような日常の中にいますと、「自分自身に投資」するなんて、ほんとうにカッコイイなあと感心してしまいます。

そんな気持ちがふくらんだころ、A氏から連絡を受けました。

次の一週間「ゲスト・セミナー」なるものがありますよ、と。これは無料。時間は毎日二時間。毎日テーマが変わること。ゲスト・セミナー終了後、本来の××セミナーの申し込みをしたらと。

××セミナーの効果を充分享受しているらしいA氏は、たいへん好意的に勧めてくれたのでした。

はつきりしない、訳のわからないことほど、気持ちが悪く、それでいて魅力的なものはありません。こと、知的なものに限っては。

好奇心旺盛でいながら憶病でもある私ですが、このときは前者が勝利を収め、万障繰り合わせて、冒頭に書きましたように、土曜の六時三十分、表参道に着きました。

大雑把な地図を頼りに、やっと定刻十分前に××ビルに到着。殺風景な入口には何の表示もなく、あるのはエレベーターと階段のみ。エレベーターの中なら何か書いてあるのではと乗ってみました。先客が一人。三Fを押したので、すかさず「ゲスト・セミナーへ参加なさるのですか」と聞きましたら、「そうです」でしたので、三Fのフロアに降りました。すぐ、ロビーの入口です。そこには、にこやかな女性が二人並んでいて、「ようこそ」と迎えてくれました。中に入れば、照明が目一杯明るいのも同じように、名札を渡してくれる人（前もって予約することになっていました）も、そしてAさん（後で知ったことなのですが、紹介者は必ず来ているのです）も、

そして他のスタッフも、結婚披露宴にでも同席しているように、終始笑みを絶やさず、「こんばんわあ」「いらっしゃあい」と語尾を上げてネアカに声をかけてくるのです。

定刻になって、別室に入るように言われました。立ったり動いたりするので、ハンドバッグ類も参加者一緒くたのロッカーに置いてくるように言われて。

その部屋は、横のドアから入ると正面に向かって横に長い部屋で、ずらっと椅子が並べられていました。五、六十名ほどの人で部屋はいっぱいになりました。

司会役の女性が前へ出て、マイク片手に、にこやかに、ゆっくり、セミナーの説明を始めました。これはまったくパンフレットどおりでしたので、初めの部分と重複するかも知れませんが、以下抜粋です。「××セミナーは、自分自身の意志で、自分自身の目的のために自分自身に向けていこうとする人のためのセミナーです。——中略——××セミナーは、外界に合わせて走り続けることから離れ、ただ、自分自身のために投資する四日間

三十八時間です。××セミナーとは、自らの価値に気づく三十八時間の体験である——」

次にファシリテーター（覚える必要はないけれど、ゲームの進行や説明をする人と思ってくださいとのこと）が現われました。

この日のテーマは「可能性と限界」ということで、いくつかのゲームやクイズが指示されました。

若々しく（三十歳前後？）、話術のたいへん巧みな方で、「何でもいいこと、いいものを、人は他人に教えたがらないものですが、例えば恋人を友人と共有したりしないように……。でも、私達はいいいことは教えたい。皆さんにこのセミナーを体験していただきたい」というふうな。

では、まずということ、全員立ち上がり、部屋の中を歩き回りながら（椅子の置いていない空間はわずかしかないので、一、二歩進めば誰かとぶつかります）会う人ごとに自分の名を言い、相手の名を聞くゲーム（と言ってよいのかわかりませんが）をしました。

いったん椅子に戻って、今度は名札を隠し

て、また会う人ごとの名前をあててみるよう指示されて、そこで初めて、何のための自己紹介かを知る始末。

次のゲームは、ひざがつくほど近くに椅子にかけ、二人（初対面の人に限る）向きあい、片方の人（A）がもう一方（B）に向かって、三分間話し続けるというもの。話の内容は相手に関してのみと制約があります。

その場合、Bは一言も言葉を発してはいけません。次にその逆。最後に、お互いにどこが合っていてどこが違っていたか、確認するための三分間。

困ったのは、初対面の人の目など見つめるのが耐え難かったこと。

まわりでは、「朝は○○を食べました。血液型は何型。趣味は○○」と堂々と言いつけているというのに、私はと言えば「お酒が好きそうですね」とか、「事務職でしょう」などどやっと言ってみるそばから、まったく逆のような気がしてきて、支離滅裂の三分間になってしまいました。

私の相手になってくださった方は、初めて

ではないらしく、随分よく当たっていました。

ファシリテーターの説明によりますと、人を判断するとき、過去に知っている人の型に当てはめて、思いこみで決めつけているようなことが多いので、事実とどのように違うか試してみたということでした。

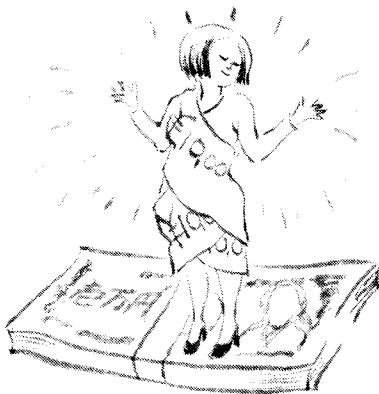
ゲームとゲームの間と、最後に、知能クイズのような図形の問題がありました。

前者はそれぞれ紙と鉛筆を渡され、九つの点を四本の直線で結ぶというもので、一度でも見たことがあるか、幾何に強い人なら何の変哲もなく、私のように初めての者や、柔軟な思考を持たない者には、見当もつかぬ代物。後者は、黒板に貼ってある模造紙の上半分に円が描かれていて、その下に直線を書くというもので、これも初めての人が次々と前に出てマジックで線を引いてゆきます。

両方とも、思考の柔軟性を試し、それに気付かせようとしているのでしよう、きつと。

九時に三十分を残して、ゲストセミナーは終了しました。

どこが「可能性と限界」なのか判然としな





いまま、それでも、「では、これまで」とか言われて、「申し込みはいつでもどうぞ」ぐらいで帰していただけたのなら、何か変わったことをするのもおもしろいなあという程度の感じは残ったでしょうし、気まぐれに、八万五千元（四日間、三十八時間のセミナーの費用）を自分に投資するのも悪くないなどと思っていたかも知れません。

でも違ったのです。

私の紹介者の方は同じ職場のせいか人柄ゆえか、それほどありませんでしたが、他の方の紹介者やこのセミナーのスタッフが、入れ替わり立ち替わり、「もう、申し込みました?」「決めましたか?」「ねえ、やってみましょう」「迷っているのなら、是非やってみたほうがいいに決まっている」等々、攻め寄ってくるのです。

日曜日を含めての四日間であっても、三日は仕事を休まなくてはなりませんし、家族のこともあって、また、今回申し込みを受けつける七、八月の予定の日は、どちらも一日は既に予定が決まっています……経済的にも……

と困りながら、自分のために使う八万五千元という法外な金額は、向上心に溢れている者にとつて、何という魅力であったことか。まるで、自身への愛を試されているようでもありました。

現に、連う日のゲストセミナーに参加したAさんの友人は、「形に表われないものに投資するのはおもしろい」と言って、申し込んだそうです。

でも、何かが違うのです。

何も変わらず、自分を知ることが、百五十名の人（××セミナーの定員）とのコミュニケーションやゲームを通してでなければ得られないものなのかどうか、不思議でならないのです。

書くことこそが自分を知ることと、やっと気付いたばかりの私は、人それぞれ気付き方が違ったり、遠回りであつてよいのではないかと思えて仕方ないのです。

時間がたつにつれて、このセミナーに対する不信感と、同席したスタッフの方々の強引な勧誘の際の顔、顔が、頭に浮かんで消えな

くなってしまいました。

「裸の王様」という童話は、裸で行進している王様に向かって、少年が真実を叫ぶ筋立てでしたが、今の私が、その少年のようだと思うのは、決めつけが過ぎるでしょうか。

今や、教育産業という商売もあるのですから、こころの問題を商売にしようとする人が現われても無理はありません。

学問的発想からゲームのノウハウへ行くまでは、研究の成果があつてのことでしょうから、三十八時間の何の道具も必要としないセミナーの費用が高過ぎると思うのは、庶民的発想でものを言っているからかも知れません。

それなりに効果のある人、目が開かれたと満足する人もいることは否定しませんが、この二日前に参加した「わいふ」の公開講座のように、自身を動かす力が自然と湧いてくるのとは違って、得体の知れない何者かに頑固さを矯正されて、みんな同じように、明るく楽しくなるのがいいことだとは、どうしても思えないのです。

（え・早乙女光子）

投稿ホットライン——三度のメシより本が好き

# 生きてます 活字人間

——目の鱗、落としますか？

あっこちゃんの日記

植木亜紀子著

植木 誠著・編

神奈川県藤沢市 河野 民枝

午後から出かける用事があったのに、昼食後の休憩にと娘が借りてきたこの本を読み出した。三歳で白血病を発病し、十一歳で死んでしまった少女の闘病日記をもとに、父親が母の日記もまじえつつ、経過をたどった本である。

子を持つ親としてはツライナと

思いながら読み始めた。案の定、涙が出て、涙が出て、鼻は真っ赤、目はくしゃくしゃ、とにかく午後の用事に遅れてしまう有様。といっても、単に悲しみを盛りだくさんにした内容なのではありません。たった十一歳の少女が、こんな人々を思いやるのかと、人間の素

晴らしさに感動してしまったのです。

急性リンパ性白血病というのは本書によれば「血液の中にある白血球が、がんの細胞に悪化してどんどん増える病気で、主として骨髄で増え、次第に首、肝臓など全身に増える（中略）ほとんど一年以内で死亡する」

頭痛や吐き気、そして脊髄注射とツライ入院生活を繰り返すこと九回。その中で日記を書き続け、母とともに洗礼を受け、聖書を学び、

自分の痛みに耐えながら、常に同病の子に心をかけるのです。

人々を思いやるとはどういうことか、力いっぱい生き抜くとはどういうことか、それを同世代の人や他の多くの人々に知ってもらいたいと、父親はあとがきに書いています。毎日の日記に必ず書かれていたことを読むと、悲しみよりも、人間讃歌の気持ちがあふれてくるのですが、病院にあって学校給食を望んで食べさせてもらっていた心情を思うと、あっこちゃんとこの親の深い傷みが心にさざります。

この両親や医師の号泣の中、十一歳の春にあっこちゃんは天国に旅立ってしまったのです。たとえ短くても残したものはかり知れない。生きるとは何かを思い知らせてくれる良書なのです。

キリスト新聞社一五〇〇円

## 女・あすにつなぐ

女が語る・男も語る

読売新聞大阪本社婦人部編

「いま、娘たちは」と書き出してある第一章を読んで引きこまれ、一気に読んでしまいました。昔よりもっと保守的に、もっとイーजीに「女の幸福」を夢みているような娘たちがこんなに多いなんて驚くというよりショックです。でもそこからスタートして、男女が対等に暮せば世界は二倍になると、ほんものの平等な暮らしをしている人々からの発言、働きアリを強制されるのはゴメンと声をあげる男たち、夫婦別姓を実践していきいき暮している妻たち、と未来の明るさを垣間みせてくれるレポートが続く、ようやくほっとする思い

東京都港区 高野すみ子

で読み終ったのです。

いろいろな角度から、女と男の現在が書きこまれていて、新聞連載ものを一つにまとめた本はツマラナイ、と思いこんでいた偏見を一挙に正される思いがしました。国連婦人の十年の間に、何が起ったか、よく分かるのが嬉しいです。ミネルヴァ書房 一〇〇〇円



## 子育ての脳生理学

高木 貞敬

「三歳までは母の手で」とか「インプリンティング」とかいうことが中途半端に飛びかっつて、私たち母親はそれにふりまわされてしまう。「三歳まで」ということは

にどんな裏づけがあるのか、知りたいと思っていたこと、知らなければならぬことを、こんなふうに分かりやすくまとめてある本を初めて読んだ。

人間は他の動物とちがって、脳が大きくなりすぎたためか、異常に未発達な状態——生理的早産といわれるほど無力な状態で生まれてくる。そして脳は生後半年で約二倍の重さに、六、七歳で成人の九〇％に達してしまう。

東京都新宿区 田中喜美子

この脳の働きのよしあしを決めるのは幼いうちに出来る神経細胞の線維同士のかみ合いの疎密によるものだそうである。

その発達を促すために、何が必要なのか。母親だったら誰しも、「頭のよい子に育てたい」と望んでいるわけだけれど、そのために必要な中途半端でない知識をこの本はしっかり与えてくれる。

ものを覚えるとき、「やる気」がなくてはほんとうに覚えられない。そのへんの脳細胞のメカニズムまでちゃんと説明している。学問の発達に感嘆したくなる一冊だ。

朝日新聞社（選書） 八八〇円

## アメリカ時代の終り

A・ハッカー著

北野 利信訳

東京都八王子市 和田 好子

ドッベルゲンゲルという奇怪な現象は、人間が自分自身とそっくりの人間を、幻覚することである。

例えば玄関を開けて帰宅したとたん、ひょいと顔を出して迎えたのが自分自身である、というような。

昔は一種の妖怪と考えられ、これを見ると「影の病い」にかかり、間もなく死ぬ、とされていた。しかし現在では精神病の一症状であることが分かっており、精神科医は稀にはあるがそうした患者を見ることはあるという。ある精神科医は、「私は幸いにも一例に遭遇している」と書いていたが……さて幸いにも、私たちはこの本

を読むことによって、ドッベルゲンゲルを見ることができるのである。

ここに描かれているアメリカは、まさに日本のドッベルゲンゲルなのだ。例えば子供の教育について、「出世する見込みのない子どもを持って、満足している家族は少ない。かれらの念頭にある成功は比較的つつまじやかなものかもしれない。しかし、たとえ労働階級からホワイトカラー的生活様式へのささやかな出世であっても、それには幼児のころからさまざまな試験をパスしなければならぬ。そこで親は、社会が全員を成功させ

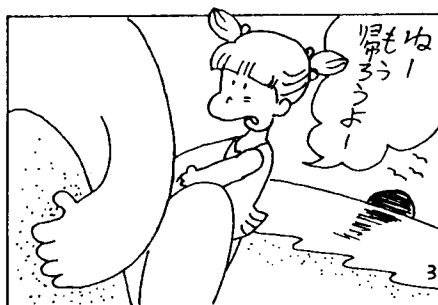
まいとして設けている障害物の、どれかに自分の子がつまずかないかと、やきもきすることになる。」「教育を完了し、結婚や職業を通じて高い身分に出世することを願っている」親たち。そっくりではないか。

幼児にはきびしいしつけが行われず、「自由放任」「進歩的教育」の理論がさかんで、幼児に対する母親の話しかけは、ハッキリした命令などではなく、「ねえ、いいでしょう」と、母親が子供に尋ねる形が多い、という。これは理論の影響というより、「大人のアメリカ人が自信を失った」からで、「子供のいうがままになり、子供に思ったままをいわせる風潮が広がったのは、父母や教師が行動基準について自信をなくしたためである」と著者は言っているが、全くよく似ている。



日米の一般的、もっとも多数派の価値基準は、①成功する（競争に勝つこと）②自分の家を持ち、快くで安楽な生活すること③税金は払いたくないし、社会の不正には目をつぶる④個人的なことに価値があり、全体的社会的なことに関心が薄い、などで、エゴイズムの社会という点びったり一致している。著者はアメリカの終末と崩壊を予言しているが、日本もアメリカの後を追うのだろうか。めったにないコワイ本である。

評論社 九八〇円



迷ってること悩んでること怒ってること  
知りたいことどんなことでも大歓迎です

読者のための相談室

# 幼稚園に モノ申したいのですが

相談

アドバイザー

(心理カウンセラー)

たまき久美

森本 邦子

## 理想の園と 思ったのに

息子が通うS幼稚園は、二極分化の幼児教育の現状の中で、一方の最先端——お勉強、お遊戯など上からおしきせのカリキュラムがない。自主性を尊重する——をうたう幼稚園です。

家から一番近いこと、友だちもみんなS幼稚園に通うことなども、S幼稚園は私にとって願ってもない場所でした。

保育料は、他の一般の幼稚園にくらべて、五千円ぐらい高いのですが、その分先生が多いし、内容が充実している、というのが園の説明です。

息子は昨年から途中入園させてもらい、二十人の園児に二人のカラーのちがう先生がついて、息子にとって毎日が楽しくて仕方のない場所でした。

今年度、フタをあけてみれば、年中児は約三十三名がクラスで、一方に二人

の先生、一方に一人の先生というクラス編成でした。

担任が、二人と一人になったことについて、園からの報告は何もありませんでした。先日、親からの質問ということ

で学級委員が伺ったところによると、

「年長児に、一人軽い障害児（外からはわかりません。「ぜんそく」の持病があることは、そのおかあさんから直接聞いていますが）がいて、そのために先生がその子のクラスにどうしても二人いる。だから年中は二人、一人となった。どちらがどちらでもよかったのですが……」

と、息子のクラス担任Y先生の弁です。

ところが、年中児二クラスのクラスカラーはあまりにもちがいで、

「こまどりには（担任二人のクラス）、クセのある子をあつめた」

「こまどりには、うるさい親の子をあつめた」

「こまどりには、元気があって、先生の言うことをなかなかきかない子をあつめ

た」などの推測が二つのクラスの親たちからとび交っています。

そして、三十三人を一人でうけもつかなりや組のY先生は、確かに「しっかりした」三十すぎの独身女性なのですが、「子供に指示が多い」「叱りすぎる」「きめつける」など、彼女への不満の声も高いのです。（もちろん私も）

「ウチの子は、大人しいのが問題だと思いうからこそ、S幼稚園に入れたのに、管理的なY先生のもとで、三十三人という大人数（他のどんな幼稚園でも、二十五人未満一クラスが国分寺では多い）のなかでは、Sに入れた意味がない」という親もいます。

## Y先生は一人でガンバルが

Y先生は、こんな親からの声を少しもれきいて、

「もっとガンバリます」

「他の先生方にも手伝ってもらえるし、

担任制があるとはいえ全園体制ですから」（とは言え、各クラスですごす時間は長い。そしてY先生は「一人で」がんばるタイプです。）など、まるでコトの本質をわかっていない。

そして、かなりや組の親たちが集まったとき出た、「同人数のクラス編成でどうして担任の数がちがうのか」という疑問をクラス委員が園長に聞きに行ったとき、園長のるすを幸いに、Y先生は、「七月十七日の学期末懇談会で私から説明します」と言い出し、一歩も後へひかなかったとのこと。また、親の中には、「Y先生を傷つけては……」と、担任の数が何故二人、一人なのかという疑問を園に伝えることにも消極的な人もいる。

さらに、四人いる学級委員の一人は「園長側近」で、S幼稚園の理想がそのまま現実であると信じているのか、「先生にえらい、有難い、人」式の考えの持ち主なのか、他の学級委員や一部の親の行動にブレーキをかけます。

こんな中で私たちは、

「七月十七日に とにかくY先生の説明をきいてみる」

その後、

「園長に、園の責任者としての説明をきく」ということになりました。

しかし、「説明」はすでにY先生からあったようなものでしょうから、その際、私たち（今、三人で行こう、と話があります）は、「何を」「どう」伝えるのが効果的なのか。言ったほうがよいこと、言わぬが花のこと——それらの選択を迫られています。

私たちの希望は、二学期から「担任を二人にしてほしい」ということです。

Y先生の原色の個性も、他の先生の原色の個性と交じりあって深い味わいのある色になることを願うから。

義務教育では実現のむずかしい要望でも、相手が「理想」を掲げ、その理想を経営に結びつける私立幼稚園ならばこそ、モノも言いたいし、言わねば、とも思っ

ています。

## 問題点

。四、五歳児教育に、一クラス三十三人、担任一名は妥当か？

。二クラスある四、五歳児クラス——同様の園児数（三十三／五名）——で一クラスが男・女各一名の担任が付き、一クラスが女一名の担任。こういう変則的な担任制が、何の説明もなく行なわれたこと

。担任一名（仮にA組）のクラスの教諭（Y）に「管理能力にたけた先生」を任命したのは、S園の「自主性をのばす場」という理想と正反対で、これはS園の「管理保育」と父兄に受けとられても仕方のない措置ではないか。

——おまけに、クラス分けにあたって、その園児の個性を、管理に都合よく色分けした、とも疑えるクラス編成をしている。

以上のことから

。二学期からA組も、「二人担任制」をとってほしいと 要望したいのだが、その効果的な方法がわからない。

。担任数の問題

どの内容を S 幼稚園の理想にそくした実践を望む

。Y先生に望むことなど

。できるだけ大人数で、

あるいは

どのような 有志で

形式で 要望書をつくって父兄

にまわして……

。口答で

PTA活動と、根は同じなのかもしれませんが。でも、「幼稚園に入ったばかりの子」の母親というのは、全く動き方がわからないのです。

是非、ぜひ、アドバイスを！



# アドバース

森本邦子

心理カウンセラー（幼稚園一〇番開設中）



お答えするに当たり、私だけの考えでなく、幼稚園側の意見も取り入れたく、私が仕事で知り合い、信頼できる人たち（先生や園長）にもご質問を読んでもらいました。その結果を踏まえて、あなたが「問題点」として整理された各項目にお答えしていきたいと思います。

▽四、五歳児の教育に、一クラス三十三人、担任一名は妥当です。文部省は、「四十人を越えてはならない」としており、四十人というところもあるでしょうが、良心的な園では三十人程度が理想だとしています。少数制の、きめこまかに手の行き届いた教育というのも、それはそれなりの効果はあるでしょうが、一つの集

団として、子ども同士遊びやけんか、共同製作活動などで学び合うには、ある程度の人数が必要と考えられ、それが「三十人前後」であるとされているのです。私の知る範囲では、どの先生も、保育の実践を踏まえてそういっております。

▽担任二名制について。あなたのお子さんは、現在年中児ですから、昨年は年少、つまり三歳児であったわけです。そのとき二十人のクラス、担任二名というのは、これまた年少教育としては妥当なのです。三歳ではまだ他者との関係が稀薄にしか持てず、お洩らしをする子もいるという実態ですので、担任に助手をつけるというのが、良心的な園のやり方といえます。

年中になって担任が一名になったというのは、子どもの成長に見合った変更であり、電話を含め十数の園に聞きましたが、皆妥当とする意見でした。

それではなぜ、年中組のうち一クラスに二名の担任がいるかですが、先生がその理由をすでに説明しているわけです。

「一人の軽い障害児がいて、云々、おそらくそれに尽きているのではないでしょう。こういう場合、担任を二人にするというのは、これまた良心的な園ならではの対応です。『何の説明もなく』というのは、人権問題を配慮してのことではないか。とにかく明らかにしにくい事情があったものと私は推察します。

▽Y先生を「管理能力にたけた先生」と断定することについては、私もじっさい見ているわけではないので、断定はさし控えます。でも、「子供に指示が多い」「叱りすぎる」「きめつける」とありますが、誰が一日中、そして何日もくっついてそれを見ていたのでしょうか。子供がいた

ずらの過ぎる日は、「叱りすぎる」こともあるでしょうが、その一日で「管理的」というのはいかがなものか。ましてや、母親の誰も、つききりで観察していたわけではないのに、そんなことがどうして断定できるでしょう。

おそらく、子どもの話を聞いてカーッととなった母親が火元になり、噂が噂をよんだのではないでしょうか。あなたも、「クセのある子ばかり集めた」「うるさい親の子ばかり集めた」などの推測がとび交ったと書いておられます。冷静に考えてみれば、どんな園にしたところで、そんな常識なことをするはずがありません。クセのある子、うるさい親を、簡単に把握して色分けできるとも思えません。

よく聞くのですが、どこの園でも母親の過敏・過剰反応には困っているそうです。子供が「先生に叱られた」と訴えれば、どんなことされたのかとあらゆる悪いことを想像し、夢中で周囲に訴え回る

というような、わが子大事の感情ばかり肥大した、ナーバスな母親がいるのです。またそれを真に受けて、一緒になって騒いでしまう母親の多いこと。

「担任を二人にして欲しい」という要望も、二人制に比べて一人制のクラスは損している、といった単純計算的な考えなら、とても教育的配慮とはいえないと思います。

幼稚園教育の意義は、家庭という保護された状況を生活圏としていた子供が、同年令の集団に入ることによって、他者とのかわりを習得していき、社会人となるに必要な、思考、情操、体力を高めしていくことにあるのです。けっして「先生」から一方的に何かを教えられるということではないのに、母親の中には「遊びにお金を払う」のはおかしい、と感じ、お絵かきなり折紙なり、とにかく形のあがる成果が上がらないと承知しない人がいるのは残念です。わが子をいつも最良の環境におきたい、教育効果をあげたい、

とあせりと不安に駆られている母親も、もう少し余裕を持ち、社会性を自分の中にも育てて欲しいと感じます。

子供にプラスになることはかり与えたり、マイナスを体験させる大切さを忘れては困ります。かわい子には旅をさせよ。その旅をさせてくれるのが幼稚園なのです。

いささか厳しいことを書き連ねて、ご不満かと思いますが、とにかく客観的にはあなたの訴えも、こんな風に見えることもある、ということを踏まえた上で、園側と率直に話し合ってみてはいかがでしょう。相手の立場も十分理解できます。という態度でのぞめば、園側も率直に答えてくれることと思います。



# 情報 コーナー

## ●京阪神にも

わいふサークル  
つくりませんか！

私は京阪神地域（大阪・京都・神戸）で、わいふの交流会（サークル）があれば参加したいなあ、と思っていました。

でもよく知らないし（あるのか、ないのか）、自分で交流会を作っちゃおうと考えました。

ワタクシ日下恵子のライフ

スタイルは、いわゆる優等生じやなく、突っ張り風不良、分裂性酒豪宴会型、めいっばいトラブルを抱えこみ、ガラスの靴をぬいで裸足で歩き続ける。

誰にも迷惑をかけないで生きられたらどんなに素敵なことだろうと思ひながら、迷惑のかけどおし。交流会の日時、場所など決定する

前に、参加してくれそうな人を知

りたいし、様々なことの協力者が欲しいので、葉書か電話で、参加意志の有無をご連絡下さい。

また、交流会からのメッセージ風ミニコミを作りたいのです。ミニわいふ、というか、わいふ関西版、などを……

◆連絡先 〒661 尼崎市武庫元町一  
一七七八 Tel 〇六一四三二二  
六五九

フリーライター 日下恵子



## ●わいふ二〇〇号

一三二ページの

谷山由美子様はじめ  
理系人間の皆様へ

数学のおもしろい本紹介します。

遠藤豊・神忠男・森穀||監修

「遠山啓のコペルニクスからニュートンまで」（太郎次郎社 一九八五年初版 二九〇〇円）

大阪府豊中市 加藤君子

## ●情報交換会

「コムニピア」  
のお知らせ！

「コムニピア」とはコミュニケーションでつくるユートピアという意味で、何かをやりたいと思った女性が、その何かをやりたいと思う女性たちのために作った情報サークルです。

昨年六月に発足、現在会員は約九

# 情報 コーナー

十名、大半は二十〜三十代の主婦です。

月一回、主婦の生活に密着した、あらゆる情報を載せた会報誌を発行しています。

六一年六月号では、パ

ート、アルバイト

の年齢制限と

賃金調査・

ベビージ

ッター

特集・

仕事体験

記などをと

り上げていま

す。

何かやってみたい、働

きたいと思っっている方、コミュニ

アに参加することから始めてみま

せんか、みんなで情報交換をしま

がら、相互啓発をめざしまし

う。



◆問い合わせ・連絡先 東京都中  
央区佃二―一―六―一三〇九  
松原いつ子 Tel〇三―五三三―六  
七六四

●「子育てセミナー」に  
貴女も参加しませんか

子育てを大いに語ることから、世  
の中のものごとを眺めよう。子育て  
を悩む多いものにとらえないで、  
自分を取りもどし、生き方の方向  
性をつかむ手がかりとし、自らを  
活性化するものだと考える仲間の  
集りです。

昨年の秋、仕事の延長線上で、幼

稚園一〇番を開設し、そのネ  
ットワーク作りの一つとしてセミ  
ナーを三月、六月と二回開きまし  
た。今回は第三回目です。

子育て、の社会での位置をさぐ  
る、というテーマの下に、自分と  
子育ての関係を語る、幼稚園、  
保育園での子ども、等、いくつか  
の分科会があります。

◆場所 船橋中央公民館 国鉄船  
橋駅五分

◆日時 九月七日(日) 十二時

半〇四時半

◆問い合わせ先 ミネルヴァ心理  
研究所 森本邦子 Tel〇四七四―  
六七―八二三―

●「ポピンレース」を教えてください  
るところをご存知の方、お知らせ  
ください。

〒355 埼玉県蕨市北町二―一九―二  
一―二二 齊藤幸子

## 「お産サイドブック」

―産んだ人から

産む人へ―

楽しい子育てを、ゆたかなのびの  
びした子育てをしたい、と子持ち  
女たちのグループを各地で作って  
いる「あんふぁんて」から、すば  
らしい小冊子が出ました。

ナマのお産体験から、本ものの情  
報を先輩へ伝えようという一冊で  
す。楽しいイラストや詩がいっぱ  
い入ったすてきな本です。ぜひ読  
んでみて下さい。六〇〇円。(送  
料二〇〇円)

申し込みは郵便振替で。東京9の  
20963 あんふぁんての会



私のPR

●スリッパに関する  
清潔派の方にお願

「スリッパは肌衣類」

として、洗濯機で

コマメにモミ

洗いで、

乾きも早

く、し

かも軽

いスリッ

パを考案。

「ホームラン

ドリー・スリッパ」

という名で商品化に至

りました。

◆△新宿の京王百貨店五F&千葉  
そごう六F△の各スリッパ売り場  
で発売中。価格は一八〇〇円。

◆スリッパをお求め、ご試用の上

情報  
コーナー

で、ご感想、ご希望、アドバイス  
を葉書などで左記宛お寄せ下さい。

◆〒299-02千葉県君津郡袖ヶ浦町  
大鳥居七番地 山下綾子

◆お礼に、ささやかですが記念切

手「天皇御在位六十年記念」のペ  
ア小シートを、通信実費を添えて

ご送付させていただきます。

●おとなと子どもをつなぐ

ゆかいなことばのドラマ

「やってきた

アラマせんせい」

再演のお知らせ

アラマせんせいは古カバンにこと

ばあそびをいっぱいつめて、ご主

人のげんごろう（写真下）といっ

しょに旅をしています。四年間で

日本列島を三周半、十万人以上  
の人々に、日本語の楽しさや豊か

さを伝えています。二人が東京に

いるときをお見のがしく、

◆原案、谷川俊太郎 主演波瀬満子

◆日時 九月六日（土）〜一〇日（水）、

一〇月三日（金）〜五日（日）（土曜六時

半/日曜一時・四時半/平日三時

半・六時半より開演）

◆場所 こどもの城円形劇場（浜

谷駅一〇分 地下鉄表参道八分）

◆前売り二〇〇〇円、当日二二〇

〇円（チケットぴあ〇三―三三七

―九九九九）

◆問い合わせ先 こばあそびの

会 Tel〇三―三三二〇―八二二七



●情報コーナー

もってご利用を、

情報コーナーは皆さんのコミ

ュニケーションのためのペー

ジです。もってもってご利用

下さい。

お友達を求める、ゆずります

あげます、本探し、求職、求

人、臨時のお手伝いを頼む、

など、いろんなことで、読者

相互の助けあいをしましょう。

縁談もどうぞ。

趣味でお作りになった作品な

ども、PRして販売なさって

けっこうです。

但し継続的に、しごととして

のPRをなさる場合には、広

告料をいただくことがあります。

金額はご事情をうかがい、

ご相談の上とりきめます。

ほん

くずかこの唄

奥井登美子



土浦の薬剤師の奥井さんは、霞ヶ浦の水質を守るために戦っている運動家で旧家のあとつぎのおヨメさんでもある。子ども文庫もやっている。その生活の中から折にふれて書かれた文章は、とぼけたユーモアの背後に、悲しみも喜びも辛さもひそむ、名人芸の文章だ。そもそも女学校時代（今とは比較にならず生徒の行儀はよかったの

だ）授業中にサザエさんのマンガを読んでいたうっかり大声で笑ってしまい、職員室に呼ばれてお説教。その最中に先生のズボンにノミがついているのをみつけて、つかまえてしまった、というくだりを読めば、著者の原型質は分かるというもの。

夜中に電話がかかってくる。相手は若い母親。子どもが七度八分の

熱を出して下がらない。お医者さんは起きてくれないと半狂乱。奥井さんはどなってしまう。「子どもは人間なんですよ。生きものなんですよ。生きてる証拠に熱ぐらい出しますよ。オタオタしなさんな」ズケズケいっても憎まれな。爽かきの漲るユニークな随筆だ。

筑波書林 一二〇〇円 (M)

世界の子どもたち⑤⑥  
フィリピン・  
スウェーデン

写真・文

ビヤネール多美子



こんな本にめぐりあうと、視覚がことばと組み合った本のよさを痛感する。

偕成社の「世界の子どもたち」は全部で十二冊、マレーシアから始まり、今回出版されたのはスウェーデン「イザベルの二つの家族」とフィリピン「漁民の子エルバート」。貧しさの中にも家族が明るく暮す

フィリピン、離婚した母親と二人ぐらしの十二才の女の子の周辺が描かれるスウェーデン。文も写真も美しく、興味深い一冊である。楽しみながらいきいきと、今の国が社会的、経済的にどんな状態にあるか、家族がどんなになっているかがひとりでに分かってしまう。

もちろん絵と文を並べただけではこうはならない。それを支える担当者のたしかな目がなければならぬのだ。この本を手にとると「写真絵本」という新しいジャンルの可能性に気づく。「わいふ」の読者たちにも進出をすすめたい、新しいルポルタージュの分野である。

偕成社 一四〇〇円 (K)

ほん

## レオンとわたしと コルシカ島

うんのともえ



犬の好きな人、旅の好きな人、ボーケンの好きな人、そして、にんげんと、自由な女が好きな人、読んで下さい。

画家のうんのともえさん、一九二七年生れというからコルシカ島へ行った去年は六十歳近く。ふつうなら孫のお守りをしている年齢で単身、コルシカ島一周の旅に。

もくらむ断崖の下を波が洗う。貧しい村の崩れかけた石造りの家、深い森、プラタナスの巨木に囲まれた小さな村の広場。小さな島だが車で一周すると千変万化の風光の面白さ。これは旅行案内としても一級の文章です。

エレベーターにのって自分の階で下りる。お手、チンチン、伏せはいわずもかな、バツタリ倒れて死ぬマネもするという、何ともいえず利口でかわいいブードル。

一匹と一人ではじめたコルシカの旅、途中でレオンをのせるのを忘れて車を発進させたり、珍談奇談の続出の中にコルシカの人情が溢れています。大阪書籍九八〇円(T)

## 子どもの心を育てる 食事学

藤沢良知



私たち母親には、できるだけたくさん子どもにゴハンをたべさせ、マルマル太っていれば安心、という偏見があるようです。標準体重以下だと「もっと食べさせなさい」などという保健所の指導もあって、子どもが太っていれば安心、という傾向は、敗戦後の貧乏時代を脱したいまも、根強いものがあります。

す。そんなわけで子どもが三歳ぐらいになると、食事が母親の悩みになります。食べるのに時間がかかる、偏食だ、食欲不振だ、むら食いだと心配することばかり。

そんな事例をひきながら、心と体の両面から、適当な「食べさせかた」のガイダンスがもりこまれて

さらに菓子パン、コーラ、ハンバーガーにコーヒーといった子どもの食生活が、心身の発達にどんな悪影響を及ぼすかという今日的な問題も扱われています。

男の人の筆になるせいか、学問的色彩が強い文章ですが、役に立つことは確かです。

第一出版 一六〇〇円

(N)

ほん

ほん

# 山の 彼方の 空遠く



市の中心部にある国民公園

声楽に憑かれた私のヨーロッパ留学記

連載 ④

高木 梢



## 初めて夢の実現に

人は生涯にたくさんの夢をみる。多くの夢は、現実の生活の中で埋もれ、破れ、忘れ去られ、ほんのその一部だけが生活の片隅に残り、かろうじて精神の渇きを満しているというのが現実だ。

生涯の間に夢の実現のために全力をあげる時間が持てたとしたら、その人はある種の幸福を手に入れたといえないだろうか？

国立アカデミーでの遍歴の後、私は自分の夢のすべてを市立コンセルヴァトリウムのA教授に賭けることにした。

母の病気が直って復学した、という口  
実の下に初めてA教授の室を訪れた日の  
ことは忘れることができない。

音楽学校特有のふ厚い二重扉を開いてソーツと室内に滑り込んだ私に、グリーンの絹のワンピースを着た大柄で華やかな彼女が明るい声で話しかけてきた。

「ああ高木さん、帰ってきましたね？」

ごく自然に手を出し、握手をするその瞬間にピタリと視線があい、私は一瞬であつたが吸ひ寄せられるように、無言で彼女の目に見入つていた。何秒か何百分の一秒か知らないが、彼女の姿全体から大らかな自然さの中に強さと繊細さを持ち、年齢相応の落ちつきと賢さが混じりあつた快い安心感のようなものが感じられ、忘れ難い。

室内の男女は思い思いに雑談にふけり、誰も我々二人に注目していた人はいなかったけれど、時間が停止したようだった。この一瞬は今でも強く印象に残っている。彼女は私を皆に紹介し、他の人の時間割が決まるまで待つように告げ、弟子達と談笑しながらスケジュール表を埋めてゆく。

特別なことは何もしていないのに、彼女の持つ実質的で合理的な精神、陽気で楽天的な強い生命力が感じられる。私は顔が自然にはころんでくるような幸福な

心地がして、一つの椅子に座り、ジューツと彼女を眺めていた。彼女の話すドイツ語の何と美しいこと、彼女が話すとスペリンゲの全てが目には浮かび、言葉の全てが立体的に見える。ウィーン大学のドイツ語の先生も、この人のドイツ語に比べると美しい発音とは言い難い。

私の番が来て、いくつかの質問の後、A教授は、強い視線でヒタと私を見すえた上、ゆっくりと告げた。

「貴女は若くありません。プロとしての勉強は、真剣に、しかも急がねばいけません。外国語も、技術も、音楽そのものも、あなたは正しい分たくさんのことを同時に学ばなければなりません。貴女にとってずいぶんむずかしいことだと思いますが、私は出来るだけの協力を致します。どこまで行けるか私達は二人で一つの目標に向かって努力してみましょう。たくさん勉強して下さい」

彼女の言葉からも、態度からも真剣で誠実な熱気が伝わり、私は無言で深く頷

いていた。

異国人の私にこれほどの熱意を見せる彼女に強く感動し、あやうく涙ぐみそうだった。

かつて日本で接した私の先生達は、N氏を筆頭に言葉の上だけで「共に勉強しましょう」と言いながら、内心では初めから本気でとり組んでないことが見えすいていた。

一流校出身の自分さえ、この程度の先生稼業をしているという自嘲と、演奏家としてのチャンスに恵まれないことに対するグチ、不満、嘆き。これ等のものが混然となり、人生に対して希望を失い、弟子に対しては熱意の感じられない投げやりなレッスンを行ない、早く音楽の世界に絶望して、一日も早くこの世界から出てゆけと言わんばかりの態度をとる。

親切のつもりか、大学を出たてのマツチ棒のように細く若いピアノの男の先生が年上の私に向かって言ったものだ。

「ピアノは時間がかかりますよ。それよ

り、早く結婚でもされたほうが幸福と思いますよ」

私が特別不幸なレッスンを受けたのか、私の要求することが多すぎるのか、我儘なのかそれはわからない。ただ日本で接した先生達はほぼ全員が私の目には人格的に未熟児としか映らなかった。

ヨーロッパまで来て、初めて成熟した大人が私の指導者として現われたのだ。

## A 教授の授業

授業第一日目。

まず全身が女史に見えるように立たされた。

「頭からつられたマリオネットのように、全身の力をぬき、肩を下げ、あごを引き、大地に根のはえた大木のようにゆったりと、一番楽な姿勢で立って下さい。何百年でもそのままで立ち続けられるような楽で快い場所を探して……。そう、もう少し足を開いて。その上で静かに息を吐き出す。吸わない、息を吐き出すだけ。

出したら入ってきます。出して……。静かに静かに吐き出す……」

私の状態を注意深くながめ、いくつかの注意を与え、ようやく私の姿勢が決まったと思うころ女史はサーッと立ちあがり、あつという間もなく私に接近したかと思うと左肩をチョイと押した。

私の姿勢は立ちどころに崩れ、苦心して探した「楽な姿勢」は一度に失われてしまった。

「よくお聴きなさい。これは大切なことです。声楽家の楽器は身体全体です。のどにある声帯は楽器のうちのほんの一部です。顔を曲げ、身体をよじって歌う人もいますが、これは間違いです。ピアノもヴァイオリンも、ギターもすべて楽器は鳴らす前にしっかりと調整した上で初めて美しい音が出ます。

人体も全く同じです。一番楽な姿勢や、健康で快い顔は外見も美しく、もともと魅力あるものです。自然に立って楽な呼吸をする。これが声楽家の楽器調整です。



街の真中にあるモーツアルトの像

いいえ、あなたの右腿には力が入ってません。あつ、今度は左肩が上がった。大地に大木のように立てたら、少しくらい押されてもしっかりと立っていられるはずです。大木のように立つ。これが見つからなかつたら、その日は声を出さない

こと。ではもう一回」  
注意を聞きながら、私は能や狂言の名人達がどっしりと舞台に立っている姿、俗に言う腰が入っているというあの姿勢を思い出していた。論理として理解しても実践は簡単でない。

レントゲン線のように強く激しい彼女の視線の前で、虚心になり、脱力した状態でありながら、どこかに緊張を保ち、ただ静かに息を吐き出すことの繰り返し。これが十分ほど続き、少し勝手がつかめてきたと思うころ、ソと思われるあなたの音がボンと鳴り、ただ一音だけあーと声を出すように言われた。

声を出す……となると全力をあげ、いかに強い音を出すかとのみ考えていた私は、呼吸も姿勢も忘れ、全身全霊をあげてあーと声を出した。

「いいえ、それは大きな間違いです。力んでも、押しつけても、姿勢が崩れてもダメ。強い音は楽器を調整しておけば、後で自然に出てきます。この姿勢と呼吸のまま、大きな声は不要。今一度、あー」  
声楽のレッスンがデッサンを見るように具体的に表現され、身体の状態が生徒につかめたらしい様子を見て初めて一音だけ声を出す。

その音が正しい状態でない場合は、十

回でも同じことを繰り返し、「半分ですよう。いや先のほうが八割方良し。ダメ／＼」そう九割、九割、ウン、今のは十割、十割が五回以上続いて初めて二音を出させ、三音、五音と順次進む。但し百分の一ミリでも誤った方向、満足できない方向に行くとなだちに逆戻り／＼再び元に戻る。何と執念深く、忍耐強いレッスンか／＼

彼女のもとには、ウィーンの国立歌劇場で歌っているプロの歌手も三名いたが、彼女の前では全員が赤ん坊のようにおタツチの練習に始まり、一音ずつ厳格に直されてゆく。舞台上上がる二時間前に彼女のレッスンを受け、公演にそなえた彼女の声は大きさでなく、普段の倍の音量と柔かさ、つやかさが加わる。

五年の在学中に何回も試し、第三者にも尋ねてみた結果、私の耳の錯覚でなく、事実として彼女のレッスンはそれほど効果があった。

大学教授といえども、国立劇場の歌手

を弟子に持つことは自慢の人が多く、卑しい人は彼らのご機嫌をとり、少しましな人でも、特別扱いをし、妥協的な態度をとる。

その点彼女は誰に対しても公平で妥協がなく、勉強意欲のない弟子、あるいは一定の成果のあがらない人に対しては厳しく「時間の無駄／＼ 私是有名で才能のある怠慢な弟子より、無名でも初心者でも私の全てを吸収してくれる弟子のほうが大切です」と公言している。

初日は立ち方と自然な声の出し方、呼吸と横隔膜の機械的な練習方法を他に三種類ほど説明され、自宅で試し練習するように言われて三十分のレッスンがとぶように過ぎてしまった。

A教授の歌手生活は約二十五年。モナコやカラスほどの知名度はないけれど、ウィーンで発行されている年鑑や、劇場史のバック・ナンバーの中に必ず彼女の名前がある。

巨匠と呼ばれる指揮者との共演、現代



A教授

曲の初演、一流クラスの歌手との共演は、彼女がトップクラスの歌手だったことを証明する。

初期のレッスンでは終局的に自分がどんな方向に連れてゆかれているのか、私には具体的にはわかっていなかった。

ただ心と身体の両方に感じとれる、ある確かな手応え、説明しがたく、証明しにくいものだけれど、私の内部で納得できる充実感、長い間おぼろに描いていた全身を使っている声の出し方——を習っていた。

技術面でのレッスンを分析してみると、

全てが白日のもとに明確にされ、あいまいさが一つもなく、具体的でわかり易い。

これだけ具体的に説明されると、教授の要求することが、論理としても、実技としてもかなり早く納得、修得でき、一か月後にはソプラノ歌手として欠くことのできない、高い音のドが苦もなく出ていた。私はレッスンの度ごとに新しい世界を知り、一步、また一步と確実に明るい方向、確かな場所に向かって導かれつつあった。

ではいかなる基準で、正しく確かな方向であることを判断するかといえば、人間本来の持っている健康で自然なものと、学んでいる技術とが調和する場合——これは正しいといえる。

どこかに無理があると、身体や心が警笛を鳴らし不協和音をかなでる。自分自身の内部から不協和音がきこえたとき、そのレッスンは技術面については誤りであると考えてよい。

当時の教授は舞台からしりぞいて約十

年、豊かな舞台経験と音楽論理が巧みに組みあわせられ、レッスンを与えるには最高の円熟期にいた。

### ミカエラに情感をこめて

音楽学校のレッスンは技術の練習だけでなく、週一回は正式な伴奏者をつけて、生徒、伴奏者、主任教授の三人で曲づくり、音楽づくりについて勉強する日もとられている。

ある日私は伴奏つきでカルメンの中のミカエラのアリアを歌うことになっていく。

ホセの婚約者ミカエラは、カルメンの強い個性と積極性に対して、清涼飲料水のようなさわやかさに通ずる、清純、静けさ、慎ましさを待つ、日本人の私にも表現し易い曲と解釈して練習しておいた。

長いアリアを一回通して歌うと師いわく、

「なんだかものたりないですね。おとな

しくて、水みたいなミカエラですね」

ミカエラを清涼飲料水に例えていた私は内心ドキリとする。

「ミカエラは控え目で信心深く、賢い娘です。しかし貴女の考えているおとなしさとは少しちがうように私は思います。

というのも、第一幕でホセの母親が自分の代理としてミカエラを息子のもとに送っているところを見ると、彼女は母性の代表を象徴してもいるわけです。

おさげ髪で素朴な外見をしていても、母性の代表としてのミカエラを考えると、カルメンと五分五分の力を持つ一人の成熟した女性であらねばいけない。

清純であることが、水のように没個性であるということにはなりません。

歌はあくまで、ぶどう酒であり、シャペンであり、熱い血の流れを感じさせるものでなくては。

水のような歌を歌うくらいならば、歌わないほうがよろしい。今のことを考えてもう一度」

ハイもう一度と言われても、清涼飲料水と考えていたものを、いきなりシャンペンに変える心の切替えはそう簡単じゃない。

マゴマゴしながら心の動揺そのままに、変りばえもなく自信のないミカエラを曲の三分の一くらいまで歌った。教授はイライラと立ちあがりジロリと私を見つめて言った。

「ストップ！ 貴女は本気で曲の内容を心に描いていますか？

スペインの田舎の深山の夜ですよ！ この時代堅気な娘が夜街を歩くことさえ危険で、女性の道にはずれたこととされていた。

貴女は街灯のともる道を、喫茶店に婚約者をたずねて行ったではありません！ 電灯もなく、車もない時代に、若い娘が道にはずれた人の集団、殺人や、密輸をしている人達の所を訪れるのは、恋人のためとはいえ命がけだったことでしょ。

この命がけの真剣さが理解できたら、どうしてこんな水のような歌が歌えるのですか！！

言葉と音をつけて声にしても、私には一つも面白くありません！ 情感ですよ情感！

そんな歌、退屈であくびが出る、貴女には情感がないのですか、ファンタジーがないのですか？ それとも内容が理解されていないのですか、どっちです？ 返事をなさい！

事務員さんや売子さんは一つの個性があれば充分です。しかし舞台上立つ人はその場にに応じて百の個性を持ち、即座にこれが表現されなければプロとしてのものに役にたたないのです。

ぼんやりしないでミカエラを演じてごらんなさい！ そしたら自然に情感も出てくるかも知れない。さあ、今すぐに！

顔を朱に染め、一七八cmの長身で、追いつめた獲物にとびかかる寸前の猟犬の

ような鋭い気迫で、確実に百メートル先から聞こえそうな大声でたたみかける。

「そんなこと言われても、私は演技の基礎を学んだこともないし、オペラ科に通ったこともないんです。今すぐと言われたって、そんなの出来ません！

と私も負けず言い返した。

「あ、貴女は全て学ばなければできないのですか？ じゃ死ぬまで学んでもプロにはなれません。芸術創造というのは、学ぶ部分だけでなく、独自の創造部分、ファンタジーがなかったら進歩も発展も面白味もないのです。

初めから完全なものを演じようと思わず、情感をみちびく一つの方法と違って動いてごらんなさい。その前に二つ注意。演技を始めたらず中で静止しないこと。誤りでも、誰かのコピーでもかまいませんが、とにかく動くこと。もちろん独創が一番ですが、そのためには役柄の理解と分析が必要です。その上いくつか自分独自のスタイルをまとめておき、いつで



ウィーンフィルが定期演奏会をするムジーク・フェライン

も行動に移せるよう準備しておくこと。

二つ目。決してはにかまないこと。はにかむと全員に伝わり、雰囲気がちこわしになります。まちがっても、変てこでも、笑ったり、はにかんだりしないこと。さあ、始めてください！」

気のたっている教授に、これ以上言いわけを試みたり、グズグズしたりは火に油を注ぐようなもの。

少々ヤケクソで教室の中央に進み、歌詞の内容を反すうしながら、ソロリ、ソロリと動きだしてみた。

スペインの山岳地帯は知らないけれど、昔阿蘇の横断道路を冬の夜、サイクリングで走りぬけたことがある。

同行者はいたが、山深い冬の阿蘇山中は人気もなく、暗闇につつまれた四方から一斉に物の怪がおそいかかってきそうな不気味な静寂の中で、残雪が星あかりにはの白く浮んでいた。

寒さと恐怖に幾度も身をふるわせながら走っていたあの日のおびえは、ミカエ

ラの恐怖と同じものではないか……。

ここまで心の中を整理すると、真昼の教室でレッスンを受けながら、阿蘇山中に小さく光っていた青白い星明りや、果てしもなく続く冬枯れの草原が、おぼろげな絵となって眼に浮んでくる。

尚も心を集中すると、阿蘇の闇と、詞のほうのスペインの溪谷の闇とが混沌とし、境界線が薄れてくる。

さらに詩が進行すると、墨絵のような空想上のスペインの山岳地帯が脳裏に浮び、私はいつの間にか一人で風景の中に立っている。

ここまで感情移入が進むと、声を整えようの、身体の状態をあるべき方向に向けようのと計算する前に、身体も心もあるべき状態に落ちついてゆく。

「我を守りたまえ……神よ」とミカエラの最後の音を歌ったときには、ごく自然に床にひざまずき、空想上の星あかりを見つめて祈りつづけていた。

# サークル だより

## ● 藤沢サークルだより

藤沢サークルは、発足以来六年が経過、今年で7年目に入ります。先日編集部へ電話したときに、「ええー、藤沢にサークルあるんですね」と言われ、比較的ひかえめ、おとなしい会員が多いので、編集部へのアピールをあまりしてこなかったせいかな……

？と自問自答、最近会員の一人、高橋伸子さんが日本実業出版社より「夫と妻の家計ノウハウ」を出版、他の追隨を許さない彼女の活動ぶりには、目を見張るものがありますが、この出版をきっかけになお一層グループの中で、良い刺激をうけているといった現状報告を兼ねお便りしました。

発足当時は、ほとんど子連れの専業主婦、乳幼児の手をひいて会員

宅での集まりは、子供の喧嘩、泣き声、母親の怒声がとびかう中で、話しあうということも再三、子供の成長とともに、何かをやりたいがわからない、でも何か、見つけ出したいなどの悩みも少しずつ解消され、それぞれ方向を見出し、活動しはじめています。

月一回の例会は、テーマをみつければ、話しあい、広範囲にわたる情報交換など、その他二年ほど前から、ノートを回し、悩み、疑問、怒りなどを気軽に書き続けています。現在一〇名の会員数、自由な雰囲気です。一度藤沢サークルに遊びにきてみませんか。

連絡先（今年度リター）  
山口 〇四六八八七二七五  
広瀬 〇四六一六八〇二二二  
（有賀麗子記）

## ● ご縁を求めます

編集部を窓口として、ご縁談のお世話をはじめてから、いくつものお申し出がありました。帯に短したすきに長しで、まだまとまった例はありませんが、引き続き仲人役を勤めますので、どうぞお電話をおかけ下さい。編集部和田まで。夜は〇三一二三五―五六八四へ。

## ● サンケイソシアルの

### ご利用を

ほんのちょっとした出合いが一生を左右するのは、小説やドラマだけではありません。チャンスは広くお求め下さい。

原宿へおいでの折は、どうぞお立ち寄り。高木東六先生が会長の伝統ある交際機関です。

渋谷区神宮前一六一一 原宿  
パレフランスビル五三八号  
TEL 〇三三四二三―二二四



# わいわいガヤガヤ

“わいふ”と、もう一つの出会い

大阪府箕面市 作田美恵子

これから先の私の人生に大きな夢と希望を与えてくれるような人と雑誌に出会った。

友人の紹介で一度お目にかかっただけのHさんから「あなたに紹介したい雑誌があるのよ」と電話をいただいた。「わいふ」と聞いて飛びあがった。憧れ続けていた雑誌で、田中喜美子さんの「書きたい女たちへ」を読み、その存在を知ったが店頭には並んでいなかった。「ひと目でいいから会わせて下さい」とHさん宅へ押しかけた。彼女の人柄と行動力に魅せられていたから、ひとり暮らしの彼女



の城を覗いてもみたかった。

玄関の扉を開けるなり度肝を抜かれた。奥に向かって並んでいる三部屋がひと目で見渡せる。

手前の板の間の真ん中には座敷机が二つ、その上に本や雑誌がうず高く積みあげてある。

周囲の本棚には本がぎっしりと詰まっている。本棚の上の壁にはお孫さんの絵や習字が隙間なく貼ってある。「天井が空いてるからまだまだ飾れるのよ」という彼女の相好を崩した表情に、そうだこの人には孫がいたのだ、まるで旧友のごとく扱ってくれるが、私達の間には親子ほどの年齢差があり、まだ二度目の出会いではないことを思い出させた。

真ん中の和室に置かれたタンスは年月を感じさせるが、彼女がお嬢さま育ちであったことを偲ばせる。

奥の部屋にある本棚に誘われたことで寝室を拝見することになった。窓際に置かれた畳一畳分ぐらいの手作りと思われるベッドの枕元には、本が積みまれ、スタンドは脇にあるオルガンにも届くことになっている。

ご主人の亡き後、パンツ屋稼業で二人の子供を育てあげ、子供が独立した今も生来の大きな声を武器に経済的、精神的に自立するHさんの生きざまに感涙した。

その人の名は、天国の父ちゃんこんにちは、の原作者、日比野都さん。

## 十年経って、また読んでます!!

大阪府池田市 日比野 都 (64歳)

朝日新聞で田中喜美子さんの意見を読んでその都度、共鳴、**「わいふ」**を購読したいとおもいながら実行しなかった。

四月二十日、箕面で、樋口恵子さんの講演をきいたとき、受付に一冊の**「わいふ」**が置いてあるのを見つけ、アッ、講読申込は……をノートにうつして帰り、早速申し込んだ。おもいがけなく、事務担当の辻浦知津代さんから丁寧なお礼と投稿もお待ちしておりますのおたより同封で一九九号が届き、嬉しく、有難く、投稿しなければと張り切った。

私は**「わいふ」**が宝塚市で発行されていたころの会員だったが、東京に編集が移ったとき、なんとなく止めてしまった。「わいふと私の十年」を読んでハッ、なんとなく止めた自分の無責任さを反省、申しわけなく思った。先日、友人から文芸春秋新年号を貰って、



「日々蹣跚として」と題する宮尾登美子の月間日記を読んだが、一回千字の朝日新聞日曜版の「くらしのうた」に脂汗したる思い、書いては破り、書いては破り、夕方までにやうやう一回分。これだけで体中の脂が脱けてしまった、とあってヒヤッ、宮尾さんにしてと唸った。

私のはじめて書いた本「天国の父ちゃんこんにちは」が、が出た理由はただ一つ、それは、本当の「アマ」の文章の持つ迫力が備わっていた、稚拙な中に、一人の人間が一生に一度しか書けない、本ものの体験が、借りものではない思いが溢れていた（書きたい女たちへ、一六七ページより）からなんです。

投稿原稿を書きあげたとたん、速達で送りつける、などというのは最低です。（同四六ページ）のところでは、頭をコッソと、どづかれた——これ大阪弁——形で、赤くなった。ハイ、仰せの通り。ポツぽつかしだった。はずかしい。田中さんに感謝、感激である。くり返し読んで、一から書く勉強をやり直そう。「である」調と「です・ます」調の混用なんぞ、まったく考えず書いていた、かつての私しかし、過ちと気付き改むるに憚ることなけれど。がんばらなくっちゃ。こんなに緊張して書いたのははじめてである。どうぞよろしく。

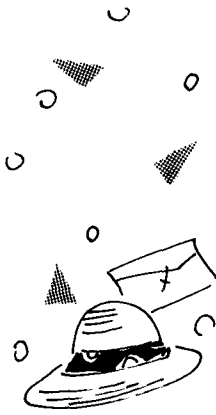
## 「わいふ」を通じて拡がる輪

千葉県流山市 市野 紀子

二〇〇号発刊おめでとうございます。私も**「わいふ」**を通じて多くの女たちにめぐり会い、心から喜んでいる次第です。中でも一九六号に掲載された宮崎なぎささんの「コムニ

ピア」に共感し、お手紙を出したところ、すっかり意気投合し、現在では同じ「わいふ」で知り合ったスタッフともども百名近くの会員を抱え、うれしい悲鳴をあげております。自分たちでミニコミを作りたかったのがやっと夢かない、「仕事」とはまたちがった充実感があります。

一方、ライターとしての仕事も様々な紆余曲折を経て、少しずつではありますが、質量ともに満足ゆく方向へむかっております。そんな中で今号、吉岡紗千子さんが「わたしとわいふ」の中で書かれていた一節に、ハタと思ひあたるふしがあり、今までなんと表面だけの技巧にとらわれていたのだろうと深く反省させられました。今まで体験してきたことを礎に、大いなる飛躍をめざし、また勇気がわいてきました。



## 第二の職場でがんばっています

滋賀県大津市 中野 桂子

日・ベト（ベトナム）協会に首を突っこんでいる長女の協会関係の方のお世話で、上石神井に、妹と共同の住居を持つことができた。長女の大学のある田町と、二女の大学のある鷹の台との中間にあたり、三間あるので親が上京しても宿舍の心配なしということになりました。家さがしにご協力いただきました高田馬場の富沢様、ありがとうございます。

三十五年間の公務員生活に終止符をうつつもりでしたのに、嘱託として市の社会教育課に残ることになってしまいました。管理社会から逃れられる（？）との期待空しく過三十二時間、変わらぬ世界に足踏み。しかし、管理職とか事務吏員でなくなったことは肩の荷が下りたようで、毎日何十となく押した印鑑にほとんど用がなくなり、今ひとときポケット

としております。

恐ろしいことには、自然や人間に対する感性がこんなにも失われてしまったのかと驚くほど、私の中身が変わってしまっているのです。そのことに絶望を感じ、五月の連休に東上して、娘たちと吉祥寺をぶらつき、多摩湖・狭山湖に遊び、日フィルの若い指揮者に瞪目し、山手教会のフィリピン「ネグロスの子供たち」のためのコンサートで「祖国」を歌う、現地の女子学生に、我が若き日を想い出しました。そして、感性を失ったことに絶望したことは、自分が過っていたことに気付いたのです。

「読書会の指導に」「老年を考える会に」と、声をかけて下さる人たちと一緒に、現時点からもう一度出発しようと思います。歌や詩をつくっていた昔の仲間の中に戻ることはやめて、独身時代に公務員となり、結婚、二人の子育ての中に病弱の姑を送り、夫の退職、自分の退職。今は夫婦で第二の職場につとめながら、晩く産んだ子どもたちにくばくかの学資を送っています。家庭婦人ではなくてよかったですと思っています。

## 一台の黒いタイプライター

東京都江東区 富永 作代



今年の春、大学四年生になった私は、就職という大きな波を目の前にして呆然としていた。まだ自分でこういう仕事がしたいというのがなかったからである。そんな私の前に現われたのが一台の黒いタイプライターだった。初めは何気なく軽い気持ちだった。「Aは……と、これか、Bは……あ、あった」。そん

な調子で始めていった。「キャット……C・A・T、ふむふむ」。キーを押す音がタン……タン……タンから、タ、タ、タ、タ、タンと変わるころから、だんだん面白くなっていた。そのうちに、映画で見るように、背筋を伸ばして、タタタタンとかっこよく打ちたい、と思うようになった。それから、毎日タイプライターの練習をするのが楽しみになった。電車に乗っているときでも、指が動く頭の中をキーがかけめぐる。家に帰ったら、タイプに向かって悪戦苦闘。まさに寝ても覚めても英文タイプ、という状態だったのである。

英文タイプライターを始めてからの二か月は、毎日が充実していた。今まで二十一年生きていて、これだけ集中できたことは、二回目ぐらいいだと思う。今ではかなりタイプライターの腕も上達した。そしてタイプライターは、私にもう一つ「自信」というものを残してくれた。今までの私は、何事にも自信を持てなかった。いざ就職、と思ってみても、こんな自分では、いったい何が出来なのか、と

不安だった。英文タイプを熱中してやったように、やれば出来る、という自信がでてきた。そろそろ就職活動の時期になる。前は「就職さえできれば何処でも……」と弱気だったが、今では、私は文を書くのが好きなので、少しでも生かせる職場を、とほりきっている。英文タイプとの出会いは、私にとって一つの分岐点になったようである。

## 保険の仕事

埼玉県狭山市 小林 真弓

のんびり風呂に入っていると、電話だ、電話だと子どもがわめく。夜九時を過ぎていた。ご親切に子どもはコードをずるすると引きずりながら電話機を風呂場まで持ってきてくれた。よく外国映画で見る泡だらけのバスの中で telefon しちゃうといったようなかつていいものじゃない。寒い。

「もしもし」とちょっと気取ってみる。「おねがい、保険に入って。名前だけでいいか

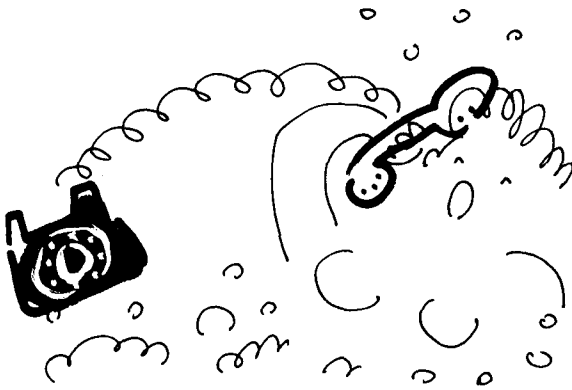
ら貸して」相手は最近保険会社に就職した友人である。「ンなもん、やめたら？」と私はいきなりぶっきらぼう。「そんなこといわないで、おねがいよ」必死である。あてにしていた契約が急にだめになったという。「二十五日まで契約一つ取れないと、大変なお」泣き落とし型である。しかたなく名前だけ承諾する。

どんなからくりかよくわからない保険の仕事であるが、「保険を始めると友人が遠のく」と陰でささやかれているのは知っている。以前、保険やっていた別の友人から頼まれて、しぶしぶ入ったことがある。一年ほどして彼女がいう。「あの仕事、やめちゃったあ。大変なんだもん」あたりまえだ。大変じゃない仕事があるもんか。こちらにしてみれば、彼女のために入った保険である。しかし、彼女がやめてしまっても、入りたくもない保険に入った私は、毎月いくらかのお金を払い続けることになる。実際は損などしていないのに、何となく損したような気になる。

親戚一同、友人たちに頼み込むつもりなら、

やらないほうがいい。泣き落としはごめんである。主婦の片手間の仕事とされるのもいいかもしれないが、やるからには「そのうちやめるかもね」などといってほしくない。せつかくの男女雇用機会均等法が泣く。

それにしても何で保険の「オバサン」というのか。保険の「オジサン」もいてもいいの



に、男性の場合「保険ヤサン」という。なんだかおかしい。

### ボヤキより自己主張を！

東京都多摩市 たかのようこ

どうしてこうも専業主婦に、ボヤキが多いのかな？と思っていたら、最近、働き始めたら、そこでも同じくボヤキが聞こえてきました。

初めは、性格の違いかな？とも思っていたのだけれど、そればかりではない感じでした。つまり、専業主婦・兼業主婦を問わず、夫なり雇い主なりに自己主張していない人は、陰でブツブツボヤいているという共通項が見えてきました。夫も雇い主も、一度や二度の要求で理解を示すほど、甘くはありません。伝わるまで、変わるまで主張し続けるべきなのに、途中で女たちは、それを放棄し、仲間うちでブツブツボヤくのです。

それはまた、男たちにも見られる現象で、

勤め帰りの「赤ちょうちん」で、上司や妻のことを酒の勢いでボヤく姿です。

家庭でも、職場でも、もっと自己主張があれば、ボヤくというマイナスの姿が減るのじゃないかしら？ しかも、たった一度の人生なのに、ボヤいてばかりもいられません。自己主張して、プラスの姿で生きてみませんか？

## 小学生へお弁当作り一か月

静岡県裾野市 田口香津子

小学生の二人の息子に一か月もお弁当を作るはめになった。そもそも、保健所もあきれるばかりの老朽化した給食室を取り壊し、三校合同の給食センターを市が建てるというのである。狭い敷地がますますセマクナリ、自校給食のように、手づくりというわけにもいかず、熱いものは熱いというわけでもないのに、市にとってはいい方法なのだそうだ。

朝、七時に集団登校するので、まず早起き

から苦痛でした。しかも、二月から三月という厳寒の季節に。このことを知らされた、秋の給食試食会でのショックはいかほどか？

しかし、これは口に出して叫んだとしても解決するわけでもないの、だんだんと日数が近づくにつれ、あきらめていった。大人とは違って、絶対作らないといけない。他に方法がないのである。町の学校では、ほかほか弁当<sup>●</sup>なるものを届ける親もいて、心配している声も聞いたが、それはなかったようだ。



新聞で、臨教審の木村治美さんが、給食以外に弁当の日をもうけてみたらと提案しておられた。まかせっぱなしにしないで、本来の家庭の役割を考えようというのである。

私の経験によると、慣れないのは一週間ぐらいで、子供との会話も増え、反応もあり、喜んでくれるので、張り切りざるを得ないのである。料理メニューにも工夫を凝らし、子供の会話に、毎日のお弁当の感想に一喜一憂していた。

そして、意外だったのは、長男は四年生だったが、少し女の子を意識した年ごろなのに、男女の境もとれて、食べ物になると会話がすすむらしいこともわかった。子供の好きなうなぎも女の子に分けてもらっていたり、ハンバーグも四分の一わけてあげたり、牛肉は自分が食べたいので、小さいのをあげたり……と交換したおかずを話してくれたのは驚きだった。勿論、体調もよくわかるし、用事があるってお弁当が全部食べられなかったり、学校の様子もわかるのでおもしろかった。私は夕食のメニューを考えると、一緒に朝のお弁

当も決めるので、頭の体操にもなると思った。予想していた以上に、楽しいお弁当作りだったが、子供に直接してあげられる、また私にしかできないことなので、喜びがひとつふえてよかったというのも正直な話。ちょうど一か月というのは、リズムができていいところだったので、残念だった。

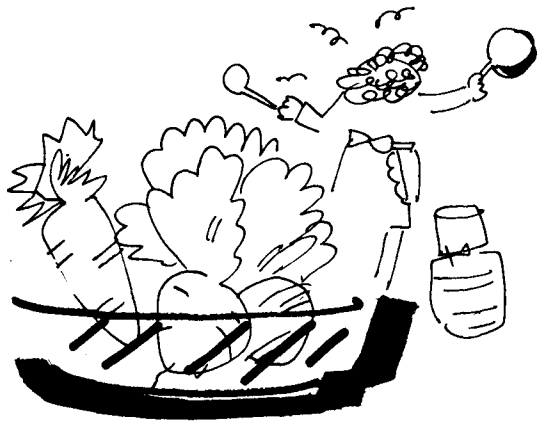
このことで一番喜んだのは、いうまでもなく、旦那さまである。続けて作って欲しいと懇願されたことはいうまでもない。

朝の寒さと睡眠不足との闘い。知恵を働かした弁当作り、学校の不都合が与えてくれた子供からの思わぬ幸せなひとときであった。

最後のころには、子供からメニューのリクエストがあり、おむすびにして欲しいとか、デザートのご指名までもあり、予算の許す限り、希望をかなえてやった。

必ず、夕食の会話は「今日のお弁当どうだった？」で始まり、二人の息子のひっきりなしの会話が続いた楽しい団らんであった。

月に一日、お弁当の日として、第三金曜日とか決めて、昼食時の変化をして、子供を活



気づかせる工夫もいい。給食は用意するのに時間がかかり過ぎるので、食べる時間が削られるとか。従って、帰宅時間も、お弁当により短縮できた利点も遊び時間にするといひ。家族をひきつけるのは、やはり「食の魅力」であることを裏つけたできごとのようにみえた。

お弁当万歳！

## 街が塗り替えられていく

東京都杉並区 山本 陽子

今日、とうとう歩道橋の下が塗り替えられたのです。赤と青でした。明日は、いやあさつてになれば、もっとカラフルになることでしょう。

ついせんだっては、「私道」という、立て札のある小道も、満かん色に塗りがえられたのでした。

駅前なんて、もう言うに及ばず、極彩色どころか、何というか——そうです。色とりどりの自転車で、どこの道も、駅に近い道という道は、占領されてしまうのです。

駅前のＳＳＴパーに駐輪場があるのです。

ところが、中はガラガラで、その柵の外側に二重、三重に置いてある自転車の波……波。本来ならば車が二台ゆうゆうとすれ違えたはずの道が、半分の幅になり、ついには道は道でなくなっていく。これは、まさしく、街が



街の地図が塗り替えられていくことでなくて、  
一体、何でしょう。

「これでは、まるで無法地帯ではないの」と  
一人、つぶやいてみても、果たしてどこの誰  
が置くのやら？

まあ、置く人には、置く人の論理があるの  
でしょう、きっと。「誰かが先に置いてあっ  
たから」と言うのかもしれませんが、それとも  
他に何と言うのかしら？

でも、ちょっと待って。そうやって自転車  
を所構わず置き去りにする人が、今度は駅へ  
の道を歩いて行くとき「なんて狭くて危ない  
道なのだろう」と思わないのかしら？ いや、

通りにくいとか、危ないとかいうことに気づ  
かないのかな？

なぜって、こういう人達は、「その道がずつ  
と前から狭い道だった」と思い込んでいるの  
かもしれません。

きっと、今、塗り替えられていく街中の道  
のことなど、全く眼中にないのでしょう。で  
も、もし、そうだとすると、あの道が完全  
に通れなくなったら、一体、どうするつもりで  
しょう。——つい、二、三日前には、あそこ  
は、確かに道だったのに……。

## ある結婚式

奈良県吉野郡 前田 景子

当世は、結婚式場はやり。家での結婚式な  
んてめったにないが、近所で、結婚式があっ  
た。東京で暮らしているお寺の息子さんが、  
郷里の実家で、式を挙げた。

当日は、風薫る五月晴れ。山に囲まれた谷  
あいの静かな村は、手伝いの人達や、お嫁さ

んを見ようとする近所の人達が、お寺のまわ  
りを囲んで、和やかなものにつつまれた。

便利さ。手軽さ。時代の流れから、結婚式  
は、結婚式場やホテルですることが多い。し  
かし、出張してきている神様に、ところてん  
式におし出されるように忙しく式を挙げるの  
は、何かおかしい。やはり、本物の神仏を前  
にして誓いを立てるほうが神聖だ。便利さ、  
手軽さだけで選ぶのは、安易すぎる。結婚と  
いうものに対して失礼だ。その点で、自分が  
疲れるのがわかっていても、新しい親戚を温  
かく、親しくもてなしたお寺の奥さんは立派  
だった。そして、田舎で式を挙げることを嫌  
わず、古いことを今する息子さんや、お嫁さ  
んにも好意がもてた。

ダムに沈む過疎の村だから、若い人は少な  
い。卒業しても地元に残る人なんて一握りだ。  
ほとんどの人が、大阪や奈良へ出て行く。小  
学校も、村に二校あるが、一学年三十人足ら  
ずの小さな学校だ。でも村の暮らしはのんび  
りしている。人の顔も穏やかだ。ここへ嫁い  
で来て五年になる。最初のころは、街の灯も



見えないような山奥に、文句ばかり言っていた。子供が出来、おちついてくると、村のいいところが見え出した。子供は親だけでなく、家族、近所の人達に囲まれて大きくなるんだと感じる近ごろでは、よくぞ田舎に嫁いだものぞとまで思うようになった。

結婚式に花添えた妹さんたちの振袖姿に、私も十年若ければ着られるのにと、二十代後半の乙女心をチクリとやられた。しかし、式を挙げた二人がいつか帰って来て、暮らし出すのを心待ちにしている自分に気付いた。

## 私のパン作り

岡山県赤磐郡 克 明子

遅ればせながら、私もやっと楽しいパン作りを始めた。近所の奥さんからパン作りの手ほどきを受けたのがかれこれ四年前。でも、第一次発酵、第二次発酵、パンをこねる回数など時間がかかるのが面倒で、ついつい今までたった一度しか挑戦したことがなく、私

のパン作りは別の奥さんの登場を待たなくてはならなかった。

彼女はそれまで料理はズブのシロウトだったのが、町の栄養委員に選ばれて修業した結果、パン作りのプロに変身した人で、彼女の家では毎朝やきたてのパンが食卓に並び、今ではこの村でも数人の奥さんがパン作りに励むまでになっている。

私はといえば、作りたい気はあるのだが、何しろおっくうであった。やっとのことで強力粉とイーストを買ったものの、何と今度は、材料を量るのが面倒で、結局彼女に役立ててもらうことにした。ところが彼女はその場で、一回分の材料をサッと目分量でこね合わせ、第一次発酵をするばかりにして手渡ししてくれたのである。いわく、大きなボールで湯せんにする。こと一時間、二倍に膨らんだら小分けにして冷蔵庫へ入れ、焼く一時間前に出して成形発酵という手順だ。早速実行に移してみると、やったァ。できました。手作りのあんぱんとロールパンが。でもキメがいささか荒いみたい。次から餅つき機で三十分こねてみる。が

然、おいしくなった。

というわけで我が家のおやつはこのところパンばかり。レパートリーもまだ少ないがお爺ちゃんなんか小麦粉を四袋も差し入れてくれた。今ではレシベなしで空き時間にこねて冷蔵庫へ入れておき、いつでも焼けるまでになった。イースト菌を始めから粉と混ぜてしまうのと、全プロセスを二回に分けるのが実



に画期的なのだ。思えば私のパン作りへの道は遠くあなた任せだった。彼女が粉をまもてくれるまで作ろうとしないのだから。彼女のように足を向けて寝られないゆえンである。

### 残酷な言葉のかけに……

東京都練馬区 尾葉 久子

「えらいわぁ、尊敬しちゃう」

「本当に、お強くなっていらっちゃって、私なぞとてもとても」云々。

「そんな」と、にこやかにえみを返しながら、ああまたかと思う。

三人の子供を引き取っての離婚。それも日本を遠く離れた地での蛮勇。人は私を強い女という。男まさりのとんでる女とも。

五、六年前、友人の離婚を聞いたとき、私も無邪気に叫んだものだ。

「すごい。よくふみ切れたわね。でももう少しがまんでできなかったの？」

今なら分かる。道は一つしかなかったのだ。



結婚の形が沢山あるように、離婚の形も沢山あるだろう。

結婚して十年もたち、子供も二人、三人できて、それからの離婚は重く苦しいものだ。

「父さんのいない家なんて、家庭じゃない」といい放つ長男。

「ママ、誰でもいいからパパを探してきて」と、長女。

「私、ホントは、ほんとのパパが好きなの。ママはもう好きじゃないの？」末っ子が問う。

すべてを振り切って、一つ一つ答えにならない答えを必死に探しながら、でも、後戻りは出来ない。先を見るだけ。

今日も息子は言う。「ママは今幸せかもしれない。でも僕は幸せじゃないよ！」

いつかは分かってくれるだろう。いつかは理解してくれるだろう。そう願って前に進むしか道は残されていない。

今日も、主婦の座に安住している幸せから、優越感をこめて人は言う。

「私にはとても無理だわ。すっかり頼り切ってるものだから。えらいのね」

自分の足の下にボッカリ口をあけている暗い穴に気づいたとき、人は突然、どのくらい残酷な言葉を浴びせていたか、に気づくのだ。

### 自称で悩んでいます

東京都江東区 佐々井優子

皆さんは、自分のことを何と呼んでいますか。子どもを持って以来、私はこの問いの前でたびたび考え込んでしまいます。

初めは、長男がたどたどしい発音でしゃべり始めたころのこと。息子に対して自分を「わたし」と言っていると、息子は私を「お母さん」と言わずに「わたし」と呼ぶのです。

そこでしたかなく、「お母さんはね……」と言  
うようになってしまいました。でも、これは  
子どもがもう少し成長したら、やめるつもり  
です。昔、中学校の教師が自分のことを「先  
生」と言うのに反感を抱いたのと同様に、い  
つまでも「母親」を振りかざしたくないと思  
うのです。



さて、息子も四歳になり、公園での遊び友  
達が増え、母親同士も親しくなってきました。  
そしてここでもた、一人称で悩むことになっ  
たのです。というのは、息子の友達に向かっ  
て自分を何と呼ぶかなのです。当然のことな  
がら、向こうは「おばちゃん」と話しかけて  
きます。そして大半の母親は自分を「おばさ  
ん」あるいは「おばちゃん」と言います。「○  
○ちゃんのママはね……」と回りくどい言い  
かたをする人もいます。しかし、「わたし」で  
通している人はいないのです。

私はと言いますと、どうしても「おばちゃ  
ん」は使いたくないので、必要最小限で「わ  
たし」を使い、あとは一人称ナシでごまかし  
ている次第です。べつに「おばちゃん」と言  
われるのが嫌なわけではありません。でも自  
分という中心点は守りたいのです。ただ、自  
称「おばちゃん」の母親たちの中で、ひとり  
「わたし」でいくのは勇気がいります。今の  
まま逃げ腰でいいですか？ しかしこれはどう  
も私の性に合いません。ここはひとつ「わ  
たし」で突っばってみますか。ただし、押し

つけがましくなく、静かに自分を持っている  
——そんなさり気ない「わたし」が使えたら  
と考えているところで。

“わいふ”二〇〇号おめでとう!!

香川県綾歌郡 三好乙沙美

“わいふ”二〇〇号誠におめでとうございま  
す。読者の一人としてお慶び申し上げる次第  
です。

田畑ばかりの当地、そこには古い習慣が根  
強く残っています。そのはけ口を求めるため  
に、私は貴誌を購読しているのでしょうか？  
いいえそのみではありません。皆さまの声  
を拝読いたしております内に嬉しくなります。  
さまざまな生き方がともに多くの共感を生み、  
感動新たな日々への始まりともなりましょう。  
さらに千号、万号へと継続されることを願  
っております。

(え・カテスラネンコ)

投稿ホットライン——可愛さ余って憎さ百倍

# うちの悪ガキ

うちの子に限って！の大集合。汝の敵を愛すべからず……

## 性問答に完敗！

東京都町田市 松本 文化

その日私は、イライラしていた。  
小一の長女と四歳の長男をお風呂に入  
れながらどなっていた。

「ほら、ちゃんと肩まで入って、入って、  
おふぎやめて!!」

勢いついでに、長男の頭をボカリ。

（あっ、いけない!）と思ったのは、黙っ  
て私に背を向けた、その顔をのぞき込ん  
だとき。

いつもはすぐメソメソするその顔が、  
今日はめいっばい耐えている。しかも、  
明らかに腑に落ちないという目をしてい  
る。

（ごめん）の言葉を口にできず、湯上が  
りのお尻を思わずなでた。

「一丁前にお尻つけて——、一丁前にオ  
チンチンさげて——、一丁前におっぱい  
くっつけて——、このおっぱい、な、ん、

に、っ、か、う、の」

体中さわられて、やっと機嫌をとり戻  
した下の子は、ニコニコして風呂場から  
でていった。

さて、上の娘。こっちは六年半私とつ  
きあっているのだから、よく、私の性  
格を知っている。へたに口出しすると、  
とばっちりを受けるぞとばかり、二人の  
成り行きをじっとみていた。が、湯船か  
らでしなに、弟の背中にたたきつけた言  
葉がすずんだた。

「そうだよ、女のおっぱいは、赤ちゃん  
生んで、ミルクを飲ませるためにあるん  
だから。オマンチョは、赤ちゃん生むた  
めにあるんだから。女は大変なんだから  
——」

そして、やおら私の方を向き、



「でも、男だって役立つもの、ひとつついているよ」

「ハァ？」

「オチンチン。だってオチンチンに赤ちゃんつくるものと入っていて、オマンチヨの中に入れると、赤ちゃんできるんだもの」

そして、自分の両手を胸の前で交差し、両肩をぎゅっと抱き、

「こーやって、お父さんとお母さんがやっているみたいに」

「よっ、よく知ってるね」

と驚きを隠す私。

「だけど、どうやって、赤ちゃんのものがオマンチヨにはいるんだらう……」

「ム……」

こたえに窮している私にはとんとかまわず、最近やけに色っぽくなったお尻をプリプリふりながら、思案げに風呂場からでていった。

遅い夕飯をひとりポソポソ食べていた亭主が、これを受けてこたえたものだ。

「それはね、オチンチンをオマンチヨの中に入れるんだよ」

「えー、あんな細いところにはいるの？」

「だって、オマンチヨは伸びて、赤ちゃんだってでてくるんだよ」

「えっ、えー、そしたら、こーんなにな

## 息子の進路

高校二年の長男が「アニメーターになりたいから、卒業したら専門学校へ行かせてくれ」と言いだした。いつのまに集めたのか、学校案内のパンフレットやら雑誌の切り抜きやらドッサリ持っている。最近まで、どの大学のどの学部が、といった話をしていたので青天のへきれきだった。

長年のアニメ狂いで、自分でアニメ映画を作るのが夢といい、毎日ロボットの絵ばかり描いている息子だ。学業のかた

って（と両手いっぱい拡げて）、からだじゅうあなだらけになっちゃうじゃない!!」

それにしても――。

からだじゅうあななんて……、なんと奇抜な発想だ、なんと的を得た表現だ。

あー、わたしや完全に負けました。

埼玉県所沢市 柏木 輝子

わら趣味でやっていくつもりだったのが、高校一年の半ばから少しずつ考えが変わったらしい。貧乏暮らしでもいいから一生アニメーションに関わっていこう、と決心したら、受験勉強や大学の四年間がむだなものに見えてきた。ついてはその時間と金をアニメの勉強に――というわけだ。

そもそも私は、「男の子を大学に」と、自分より成績のよくない弟のほうに学費を回された、といとかわいそうな過去を

持つ女なのだ——なんちゃって。まあ、向学心にもえていれば、奨学金なりアルバイトなり方法はあったのだろうが、それほど勉強は好きでなく、社会見学、豊富（でもないか）な小遣い、といった就職の魅力に惹かれてあっさり進学を断念した。が、以来四半世紀にわたり、経済状態さえ許せば大学へ行くのが当然、と思いきんできた。若さで自己の可能性に挑戦し、かつのびのびと過ごし、スケールの大きな人間になってほしい、と果たせなかった望みを子に託してもいる。

そんな話や、学歴社会、幅広い教養、将来の後悔、とアレコレ並べてみたが、少しも動ぜず、決然トシテ言イテ曰ク

「オレの人生だよ」

「……」

父親は、というと「そんなに好きならやらせてやれ」とあっさり一言。自分は何もみつからないまま、平凡に大学を出て公務員になったけど——と羨ましげな口ぶりでさえある。

私はどうしてもこだわってしまう。学力は努力で積み重ねるとしても、学歴がないためにどれくらい損をするだろう。希望する仕事につけないかもしれない——十六歳の頭で決めたことだ、「世の中は甘くない」「ともかく大学を卒業してから」とたしなめるのが親の義務ではないのか——そこそこの高校でそこそこの頑張っているのだからこのままいけば——など、くる日もくる日も考えて一週間、ついに結論をだした。

「どうして大学へ行かせなくてはいけないのか。行きたくないと言っているのに」

あきらめの、いやもとへ、悟りの境地に達したようだ。

「親とも相談してアニメの専門学校へ行くことにした」

友人に嬉々として電話をかけている。

「おう、そんなに嬉しいか」といじらしさ半分、「親の反対を押し切ったのまがいだろうが」といまいましき半分。とい

いなながらも、小遣いの残りをちまちまとためて、通信教育のアニメ講座を受講しているのを見るや、色ぬり作業で洋服を汚さないようにしやれたカラー割烹着を買ってやり、「高校は無事に卒業できればそれでいいよね」とまで口走る変わり身の速い母親ではある。

「わいふ」の合評会のおり、子別れのすめ、の著者、子離れ評論家・和田好子氏より有益なアドバイスをいただいた。さっそく息子を呼び、改めて申し渡す。

「いいね。アニメで食べていけなくても援助は一切しないから、あとは自力でやっていくように」

敵もさるもの、ニヤリと笑い、言イテ曰ク

「覚悟のうえだよ」

親は静かにほえんで、授業料をば支払うのみ。あとは本人がなんとかするだろう、「オレの人生」なのだから。合掌。

（え・万谷陽子）

## 次号投稿募集

### ▼特集テーマ原稿

二〇二号の特集テーマは「住めば都？ 私のまち」です。

人口移動のすさまじい現代日本、とくにサラリーマン階層は辞令一本で西へ東へとばされます。箱根の向うにはお化けが出る、と思っている人はまさかいまどきでないでしょうが、都落ちを悲しむ人もあれば、ゴミゴミセカセカの東京なんてまっぴら、と思う人もいます。

しかし住んでみれば、予想に反して住み心地がよかったり、あるいは逆に、とうていガマンできないほど肌に合わない、という場合もあるでしょう。

今回は、気候、風土、人情、人づきあい、さまざまの面から、あなたの移り住んだ土地で体験なさったことの数々をレポートしていただきたいと思います。

ただしあまりにも個人的状況の描写でなく、いかにも土地柄の出ているような体験がのぞましいのです。

枚数四〇〇字づめ原稿用紙十五枚—二十枚です。

### ▼ワンポイント情報

二〇二号は「あっぱれな老いのひけつ」です。

老いについては、気のめいる話ばかりを耳にしますが、みごとに老いを見せている人も、決して少なくはないようです。

病氣や体の弱りはいわば不可抗力、それに伴う気の弱りはどうしようもないかもしれません。しかしそうなる以前の、長い長い熱年期を、みごとにエンジョイしながら生きている老人が、あなたの身のまわりにはいないでしょうか。

なぜそういう老いが可能なのか、学んでみたい、と思うのです。

これはワンポイント情報ですから、一人の

老人の半生を描き出す、というようなものでなく、日常生活の過ごし方のこつ、とでもいった、具体的なノーハウを観察して描いていただきたいのです。

もちろん性格的な部分を描くことが不可欠でしたら、それも入れて下さってけっこうです。というよりむしろ、その点をめきにしては難しいかもしれません。

年齢、お仕事の種類などもお書きこみ下さい。

## お友達に(わいふ)を おすすめ下さい

新しい読者をご紹介下さった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介下さるごとに、誌代プラス送料とも一回延長。  
(六人ご紹介されれば、翌年の誌代・送料とも無料になります)

# わいふ・投稿規定

書くもヨシ  
書かぬもヨシヨシ

ドンドン書いてノドシドシ送ってノグイグイ載せますノ

●定期購読者になればどなたでも投稿できます。誌上匿名は可。ただし原稿には住所氏名を明記すること。（無記名のもは受け付けません）

●次のコラムへご投稿をどうぞノ

- うちのワルガキ 子どもとその周辺の話題について、どんなことでも。
- オットどこい 夫について、ノロケ、珍談、不満、ケンカ、何でも。
- ナウい熱年 今どきの若い者へ、一言いい方のためのシルバリーシート。若い方がそれを読んで、文句言いたい場合もどうぞ。
- ファミリー・イン・ブルー 家庭内、親戚づきあいなどのトラブル、よそ

では言えないホンネのはけ口に。

- マン・ウォッチング 家庭で、職場で、PTAで、その他どこでも、あなたの観察したヒト科男属の生態を。
- 職場は多面体 あなたの職場レポート。フルタイムはもとより、パートでも内職でも、切実な体験や悩みなど、ぜひ寄せて下さい。
- 親のホンネ 親、ことに母親はどうらしいものはない。子育ての全責任者、何でも母親のせいだと言われ……でもこっちにも言いたいことありますよ。母親だってニンゲンだ。言いたいこと言おう。
- 男性専科 敵に塩を送る心意気、男

のいいたい放題のページです。

- マスコミむしる 新聞、雑誌、テレビ。ずいぶんどうかと思うこと、腹の立つこと、被害を受けたこと……いろいろあるんじゃないですか。遠慮ない告発をノ強いマスコミに弱いミニコミからなぐり込みかけよう。
- マジの発言 まじめは「わいふ」の本領なんですわー。あなたの主張や切実な体験を。
- 対話のページ 本誌の投稿や記事についての感想、反論など。
- 女の道楽 あなたがやってるホビーについて。
- 親たり聴いたり 映画、演劇、音楽



会展覧会などの感想を。

●生きてます活字人間 読んだものについて。

●遊びましょ こんなところ行ってみた、こんな遊びしてみたなど、楽しかった話を。費用も忘れずにね。

●わいわいがやがや どこにも当てはまらないものを押しこむスペース。

●エッセイストクラブ ずいひつのよさをたっぷり味わわせてくれるよい文章を。この欄だけ千六百字まで。

●ワンポイント情報 一つのものまたは事柄に関する読者の情報の徹底収集。テーマはそのつど設定します。

●以上いずれも八百字まで。オーバーしても内容がよければ掲載いたします。締め切り偶数月二十五日。

×

●持ちこみ原稿 詩、小説、評論、旅行記、ルポルタージュ、どんなジャンルのものでも。二十枚―三十枚程度。長篇なら連載も可。

掲載分には薄謝を贈呈します。締め切り日はともにもうけません。

●短い投稿はハガキでもけっこうです。気楽に投稿して下さい。

●絵・カット・イラスト・写真などの投稿も歓迎します。

●ご自分の投稿に、イラストや写真が用意できる方は、ぜひそれも合わせてお送り下さい。

×

●投稿は原則として一応編集部で選択します。できるだけ多くの方の投稿を公平に掲載することをめざします。

●編集部・編集長へのたよりで掲載ご希望でないものは必ず「私信」とお書きをえ下さい。

●「わいふ」の特色は、完全な言論の自由を守ることにあります。思想信条を問わず、すべての女たちに自分の考えを発表する場を獲得することが、「わいふ」の望みです。

●投稿は多少添削することがありますのでご了承下さい。

●「わいふ」からこれまで数人のライターが巣立っています。文章を書くことをしごとにしたいと思っていらっしゃる方に、「わいふ」は絶好のトレーニングの場となります。

●あなたの周囲に、誌上でご紹介できるようなすばらしい仕事をしている方、特殊な体験をお持ちの方、ユニークな生活をしている方――はありますか？ そういう方をご存知でしたら、ぜひご一報下さい。

●ハガキ以外の投稿は必ず原稿用紙にお書き下さい。原稿用紙の使い方はルールを守って下さい。

●ヨコ書き原稿は書き直すことになるので必ずタテにお書き下さい。原稿はお返しできませんので、必要な方はコピーをとってからお送り下さい。

# 編集だより

●「わいふ二〇〇号記念公開文章講座」は、三百人入るホールがほとんど満席になる盛況で、本当に嬉しい半日でした。ご出席いただいた方々に、誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

●当日ご出席なさった方々から「講座はとてもよかった」という感想のご投稿を十通以上いただき、幼児を預けて大変な苦勞の末ご出席になった体験など、とても面白い文章もあるのですが、余りにも共通した感想が多いため、代表的なものを除き割愛させていただきます。本当にありがとうございます。

●この記念講座のせいもあって、二〇一号への投稿はまさに洪水、編集部は溺れかかってアップアップしているというのが実感です。しかも今回の号をお読み下さればお分かりのように、投稿の内容はますます充実してきています。マスコミには絶対に出現しないナマの声、こんなことがと驚くような事実がつきつき寄せられ、「わいふ」は再発足後十年して、ようやく投稿誌としてほんものになりつつ

つあると感じます。

かといつて、特殊な体験を持っている方だけによい文が書けるというのでもありません。フレッシュな目で見れば、身近なところにも実に面白い題材がころがっているのです。いただいた投稿すべてをのせることはむづかしくなつて参りましたが、選ばれることの嬉しさもそれなりにあるかと思ひます。どうかふるつてご投稿をお寄せ下さい。

●「最高裁を監視する女の会」を作つて、選挙の度ごとにどんな判事がどんな判決を出したかを公表し、国民に判断の手がかりを与えたいと思ひます。少人数でもできる仕事ですが、できるだけ多くの方に参加していただきたく、三十一ページをお読みの上、お声をかけていただけたら嬉しいのです。

●二〇〇号一〇六ページ「ほん」の欄の「日本男性論」出版社の学陽書房は三省堂の誤り、一〇〇ページの子どものテレビの会の電話番号は〇三三七二一八六九四のミスプリでした。訂正してお詫び申し上げます。

●八月の合評会は夏休みにいたします。みなさまよい夏をおすごし下さい。ではまた。

## □購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。  
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの  
で、折返しご送金ください。バックナンバ  
ーのご注文も同様に。二冊以上まとまりま  
すと送料が半額以下になります。

## WIFE

(隔月刊) 201 号  
1986 年 9 月 1 日発行  
印刷・浩文社印刷  
定価 450 円  
(年間購読料送料共 3600 円)  
発行所・榊グループわいふ  
編集・わいふ編集部 ● 162  
東京都新宿区市ケ谷加賀町 2-5-23  
TEL (03) 260-4771・4773  
郵便振替 東京 5-110430  
銀行口座 三菱銀行神楽坂支店  
普通預金 052-4348909

## □購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れに  
なる方が多いので、誌代が切れてもひき続  
き送本しています。お申出がないと、お送  
りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。



株式会社 ミネルワ書房

〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1  
☎075/581-5191 振替京都 2-8076

——シリーズ〈女・いま生きる〉——

読売新聞大阪本社婦人部編

# 女・あすにつなぐ

・女が語る・男も語る 米倉齊加年、笑福亭鶴瓶、  
島田雅彦、村上春樹、連城三紀彦、山田太一……各  
界で活躍する三十余名の男たちが、そして女たちが  
女たちの昨日・今日・明日をホッネのところで語り  
つくしたルポルタージュ。  
二二〇〇円+税 250

## ルポルタージュ

# 家族再考

新しい生き方  
の発見

村松基之亮著 いま、われわれ現代の家族が「見失  
ってしまったもの」は何だろう。長年、家族問題に  
取り組んできた新聞記者が、独自の視点から、現代  
家族のかかえる病理を解き明かす。二二〇〇円+税 250

# 新・現代家族

「新しい」  
の時代に

村松基之亮著 「新しい」のつながりを失い、本気で  
ぶつかりあうこともできない現代家族。「新しい」を  
家庭に呼び戻すすべを追ったルポ。一三〇〇円+税 250

# 男と女の家庭論

日本経済新聞社婦人家庭部編・しなやかに健やかに  
日本の家族 いたすに危機意識をあおるのではなく、  
ユーモアで日本型家族を再点検。 一五〇〇円+税 250

子どもの心  
が見えますか？

藤沢 良知 著

飽食の時代、食べ物は豊かになった。し  
かし子供達の食生活はどうなったか。孤  
食と非行・いじめの問題、子供の成人病  
の増加など現代っ子の食をめぐる問題点  
を心というフィルターを通して考察した。

# 子どもの心を育てる食事学

四六判・240頁・㊦250 定価 1600円

豊川裕之・東畑朝子 著

# 男のための食事学

食事にまつわる話題を通して健康について楽しく学びます。

B6判・224頁・㊦250 定価 980円

いつも元気でね  
お父さん

第一出版株式会社 〒101 東京都千代田区神田神保町1-39  
☎(03) 291-4576代 振替・東京7-23838

# 手紙も、文も“打つ”時代!!

文章は活字化すると、上達がグンと速いのです。

- お求めやすい価格のワープロが揃っています
- アフターサービス完全
- 東京都23区内無料配達
- クレジットもOKです
- パーソナルコピー、ファクシミリ、パソコン等も扱います。

## 1 東芝 JW-R50F II



3.5インチFDD・B4横印刷  
標準価格 ¥128,000 → ¥102,000

## 2 東芝 JW-R50S



40字4行表示・FDD接続可  
標準価格 ¥89,800 → ¥70,000

## 3 東芝 JW-2F



9インチブラウン管・5インチFDD 2基  
標準価格 ¥448,000 → ¥313,000

## 4 シャープWD-590



32ドット印字・9インチ画面  
標準価格 ¥220,000 → ¥170,000

## 5 シャープWD-300F



3.5インチFDD・TVインターフェイス  
標準価格 ¥118,000 → ¥106,000

## 6 シャープWD-50A



24ドット印字・イラスト記号  
標準価格 ¥69,800 → ¥55,800

## 7 富士通 OASYS Lite F2



プリンター分離型・FDD(オプション)  
標準価格 ¥148,000 → ¥118,000

## 8 富士通 OASYS Lite K FD20



3.5インチFDD・JIS第二水準可  
標準価格 ¥114,800 → ¥91,800

## 9 富士通 OASYS Lite M2



24ドット印字・低価格機  
標準価格 ¥59,800 → ¥47,000

◎お申込は気軽にお電話で：03(362)3391(代表)

AM9:00～PM6:00(土曜は3:00まで)

OAからPAまで扱う 株式会社 リーデック

〒161 東京都新宿区上落合1-5-3-102